



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

GRAN ACE



イラスト目次

イラストから検索

安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

1

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方
(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

2

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整
(主な項目：キー、ドア、シート、パワーウィンドウ)

3

運転

運転に必要な操作やアドバイス
(主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)

4

室内装備・機能

室内装備の使い方など
(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

5

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法
(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

6

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処
(主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

7

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報
(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

8

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	9
検索のしかた	10
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	32
排気ガスに対する注意	38

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	39
チャイルドシート	40

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	55
オートアラーム	56

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	60
計器類	64
マルチインフォメーションディスプレイ	67
燃費画面	73

3 運転する前に

3-1. キー

キー	78
----	----

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア	81
スライドドア	84
バックドア	96
スマートエントリー&スタートシステム	100

3-3. シートの調整

フロントシート	104
リヤシート	105
ヘッドレスト	109
シートアレンジ	113

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	117
デジタルインナーミラー	118
ドアミラー	126

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ	128
----------	-----

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	132
荷物を積むときの注意	138

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ	140
オートマチックトランスミッション	144
方向指示レバー	147
パーキングブレーキ	148

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	149
AHB（オートマチックハイビーム）	152
フォグランプスイッチ	154
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	156
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	158

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	160
---------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	162
PCS（プリクラッシュセーフティ）	166
LDA（レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]）	173

RSA (ロードサインアシスト) ..	180
レーダークルーズコントロール ..	183
先行車発進告知機能 ..	191
Stop & Start システム ..	192
BSM (ブラインドスポットモニター)	198
クリアランスソナー ..	202
PKSB (パーキングサポートブレー キ) ..	210
パーキングサポートブレーキ (静止 物) ..	216
パーキングサポートブレーキ (後方接 近車両) ..	219
RCTA (リヤクロストラフィックア ラート) ..	220
運転を補助する装置 ..	226
AUTO LSD ..	230
排出ガス浄化装置 ..	231

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 ..	235
-----------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

フロントオートエアコン ..	240
リヤオートエアコン ..	246
シートヒーター ..	248

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 ..	250
----------	-----

5-3. 収納装備

収納装備一覧 ..	254
-----------	-----

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 ..	261
-------------	-----

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ ..	270
内装の手入れ ..	274

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット ..	276
AdBlue® (尿素水) の補充 ..	278
ガレージジャッキ ..	281
ウォッシュ液の補充 ..	282
タイヤについて ..	283
タイヤ空気圧について ..	290
エアコンフィルターの交換 ..	291
ワイパーゴムの交換 ..	293
電子キーの電池交換 ..	296
ヒューズの点検・交換 ..	298
電球 (バルブ) の交換 ..	300

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは ..	306
非常点滅灯 (ハザードランプ) ..	307
発炎筒 ..	307
車両を緊急停止するには ..	308
水没・冠水したときは ..	309

7-2. 緊急時の対処法

けん引について ..	311
警告灯がついたときは ..	315
警告メッセージが表示されたときは	322
パンクしたときは ..	326
エンジンがかからないときは ..	335
キーをなくしたときは ..	336
電子キーが正常に働かないときは	337
バッテリーがあがったときは ..	339
オーバーヒートしたときは ..	344
スタックしたときは ..	347

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・オイ ル量など) ..	350
--------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... **355**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 **363**

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... **366**

車から音が鳴ったときは（音さくいん）
..... **368**

アルファベット順さくいん **370**

五十音順さくいん **371**



知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、このような改造はToyota Safety Senseのような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしない

でください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

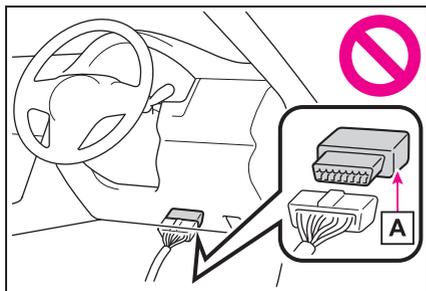
RF送信機の取り付けについては、P.8も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ^Aなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは

取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

- 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録し

ます。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせる使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを

調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
 - Toyota Safety Sense
 - ABS（アンチロックブレーキシステム）
 - SRS エアバッグ
 - シートベルトプリテンショナー
- 悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

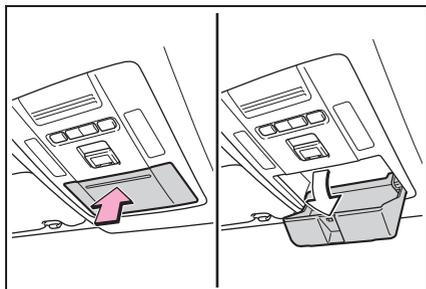
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

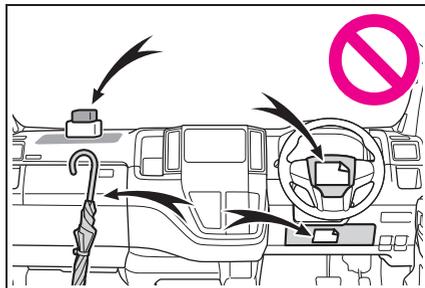
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

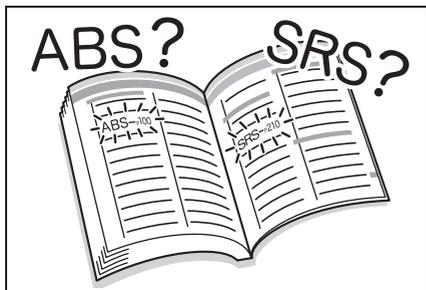


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

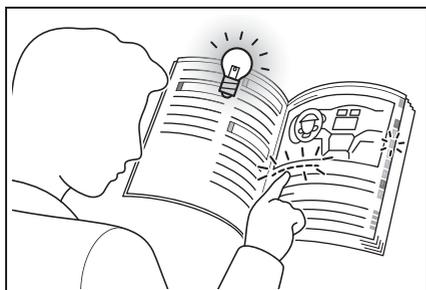
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.371
- アルファベット順さくいん：→P.370



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.12



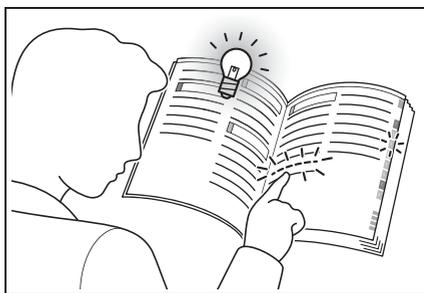
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：→P.366
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.368



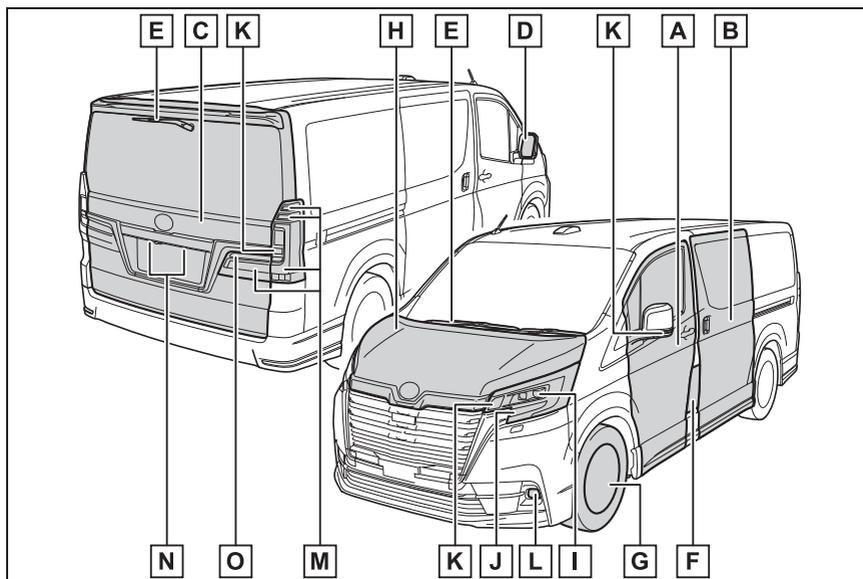
■ タイトルから探す

- 目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A	フロントドア	P.81
	施錠／解錠	P.81, 83
	ドアガラスの開閉	P.128
	メカニカルキーでの施錠／解錠	P.337
	警告メッセージ	P.83
B	スライドドア	P.84
	施錠／解錠	P.84
	スライドドアの開閉	P.86
	パワースライドドア	P.85
	警告メッセージ	P.83
C	バックドア	P.96
	施錠／解錠	P.97, 98
	バックドアの開閉	P.98
	警告メッセージ	P.83
D	ドアミラー	P.126

	鏡面の角度調整	P.126
	ミラーの格納	P.127
	曇りを取る（ミラーヒーター）	P.241
E	ワイパー	P.156, 158
	冬季の注意	P.235
	凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★	P.242
	洗車時の注意	P.272
F	給油口（AdBlue[®] 給水口を含む）	P.160
	給油方法	P.160
	AdBlue [®] 補充方法	P.279
	燃料の種類・燃料タンク容量	P.350
G	タイヤ	P.283
	サイズ・空気圧	P.353
	冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.235
	点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム	P.283
	パンク時の対処	P.326
H	ボンネット	P.276
	開け方	P.276
	エンジンオイル	P.350
	オーバーヒート時の対処	P.344
	警告メッセージ	P.83

走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P.300, ワット数：P.353）

I	ヘッドランプ	P.149
J	車幅灯・LED デイライト	P.149
K	方向指示灯	P.147
L	フロントフォグランプ	P.154
M	尾灯	P.149

N 番号灯 P.149

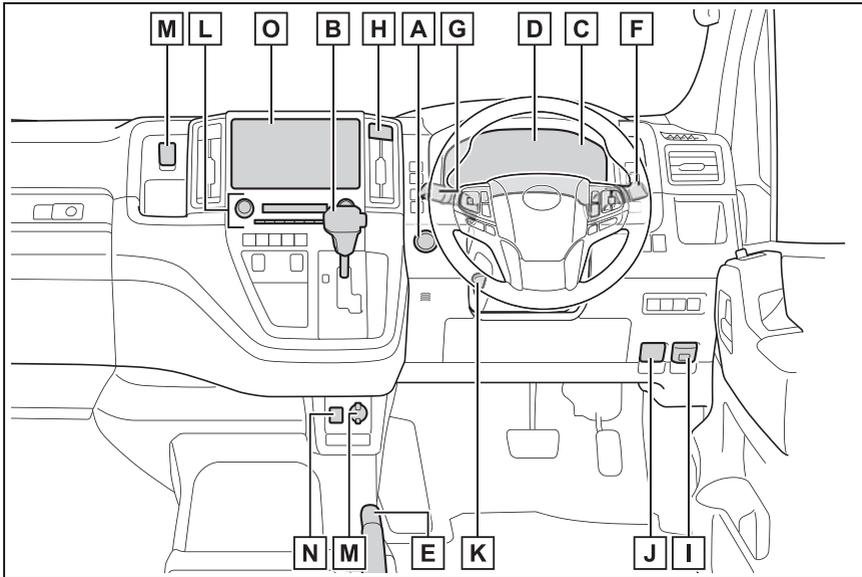
O 後退灯

シフトポジションを R にする P.144

リヤフォグランプ★ P.154

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



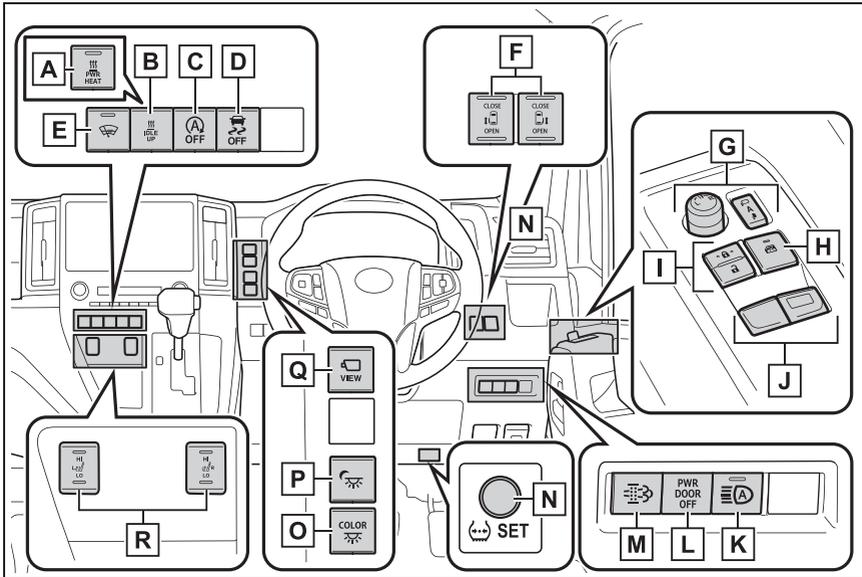
- A** エンジンスイッチ P.140
 エンジンの始動・モード切りかえ P.140, 142
 エンジンの緊急停止 P.308
 エンジンが始動できないときの対処 P.335
 警告メッセージ P.322
- B** シフトレバー P.144
 シフトポジションの切りかえ P.144
 けん引時の注意 P.311
 シフトレバーが動かないときの対処 P.145
- C** メーター P.64
 見方・明るさの調整 P.64
 警告灯／表示灯 P.60
 警告灯点灯時の対処 P.315
- D** マルチインフォメーションディスプレイ P.67
 表示内容 P.67

	警告メッセージ表示時の対処.....	P.322
E	パーキングブレーキ	P.148
	かける・解除する	P.148
	冬季の注意.....	P.236
	警告灯	P.319
	警告ブザー.....	P.321
F	方向指示レバー	P.147
	ランプスイッチ	P.149
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト.....	P.149
	フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★.....	P.154
G	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.156, 158
	使い方	P.156, 158
	ウォッシャー液の補充	P.282
H	非常点滅灯スイッチ	P.307
I	給油扉オープナー (AdBlue[®] 給水口を含む)	P.161
J	ボンネット解除レバー	P.276
K	ハンドル位置調整レバー	P.117
	調整方法.....	P.117
L	フロントオートエアコン	P.240
	操作方法.....	P.240
	リヤウインドウガラスの曇り取り (リヤウインドウデフォグガー) ..	P.241
M	アクセサリースOCKET	P.262
N	USB ポート ※	
O	オーディオ ※	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類

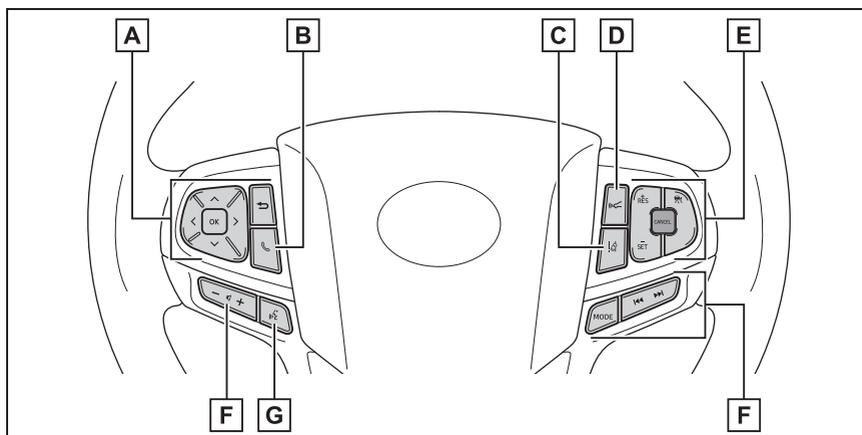


- A** パワーヒータースイッチ★ P.242
- B** ヒーターアイドルアップスイッチ★ P.241
- C** Stop & Start キャンセルスイッチ P.197
- D** VSC OFF スイッチ P.226, 230
- E** ウィンドウシールドデアイサースイッチ★ P.242
- F** パワースライドドア開閉スイッチ P.86
- G** ドアミラースイッチ P.126
- H** ウィンドウロックスイッチ P.130
- I** ドアロックスイッチ P.83
- J** パワーウィンドウスイッチ P.128
- K** オートマチックハイビームスイッチ P.152
- L** パワードアオフスイッチ P.87

M	排出ガス浄化スイッチ	P.233
N	タイヤ空気圧警報システムリセットスイッチ	P.287
O	サイドカラーイルミネーション色かえスイッチ	P.252
P	サイドカラーイルミネーションスイッチ	P.252
Q	パノラミックビューモニターメインスイッチ *	
R	フロントシートヒータースイッチ	P.248

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

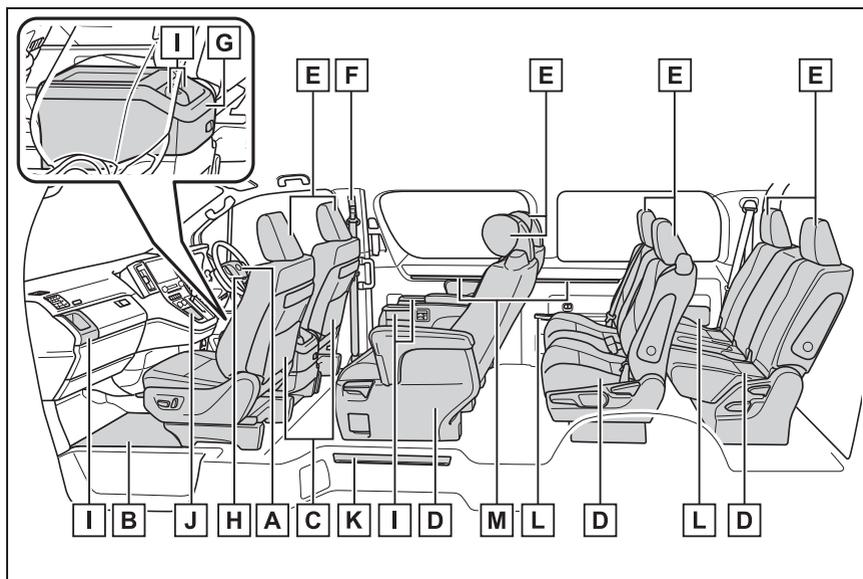
※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。



A	メーター操作スイッチ	P.68
B	電話スイッチ ※ ¹	
C	LDA（レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]）スイッチ	P.173
D	車間距離切りかえスイッチ	P.183
E	クルーズコントロールスイッチ レーダークルーズコントロール	P.183
F	オーディオスイッチ ※ ¹	
G	トルクスイッチ ※ ^{2, 3}	

- ※¹別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。
- ※²別冊「ナビゲーション取扱書」を参照してください。
- ※³販売店オプションのナビゲーションシステム非装着車では使用できません。

■ 室内

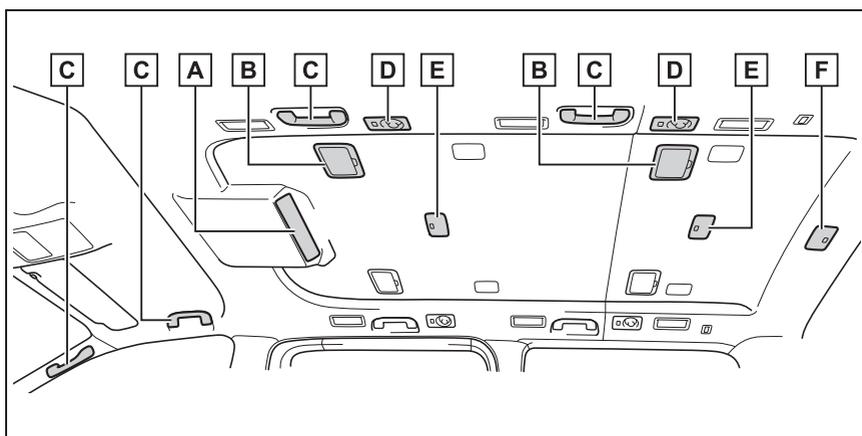


- | | | |
|----------|-----------------|-------|
| A | SRS エアバッグ | P.32 |
| B | フロアマット | P.26 |
| C | フロントシート | P.104 |
| D | リヤシート★ | P.105 |
| E | ヘッドレスト | P.109 |
| F | シートベルト | P.29 |
| G | コンソールボックス | P.255 |
| H | ロックレバー | P.83 |
| I | カップホルダー | P.256 |
| J | 小物入れ | P.258 |
| K | ステップランプ | P.90 |
| L | ボトルホルダー | P.257 |

M サイドカラーイルミネーション P.252

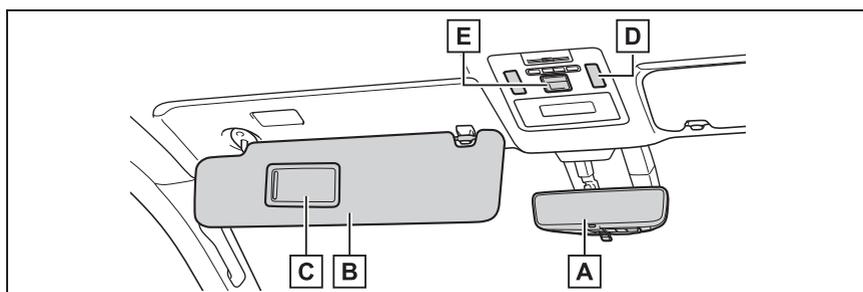
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■天井



- A** リヤオートエアコン P.246
- B** バニティミラー★ P.261
- C** アシストグリップ P.266
- D** 読書灯 P.251
- E** リヤインテリアランプ P.251
- F** ラゲージルームランプ P.98

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- A** デジタルインナーミラー P.118
- B** サンバイザー ※¹ P.261
- C** バニティミラー P.261

D	インテリアランプ	P.251
	パーソナルランプ	P.251

E ヘルプネットボタン ※2

※1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.42)



※2 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	32
排気ガスに対する注意	38

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	39
チャイルドシート	40

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	55
オートアラーム	56

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

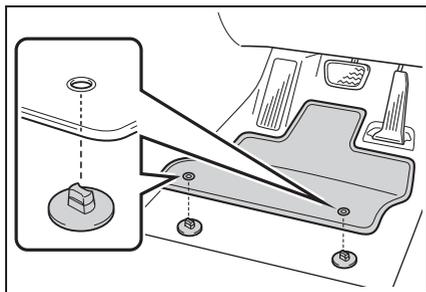
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

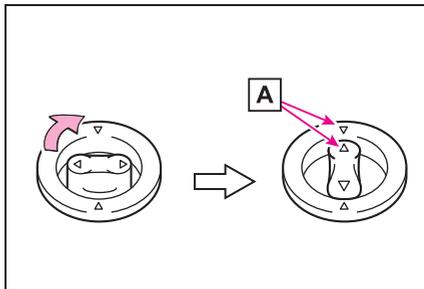
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



※ △マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

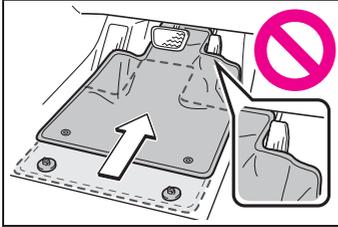
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

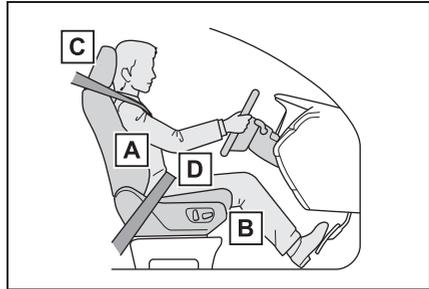


- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.104）
- B** ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.104, 117）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.109）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.30）

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にもものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.40)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、デジタルインナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.118, 126)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

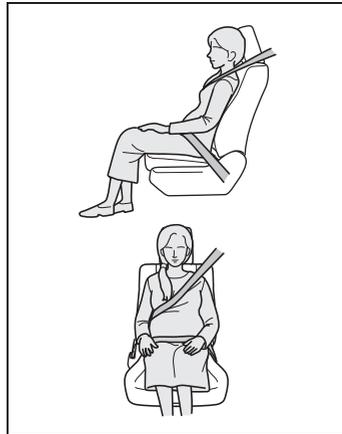
■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

知識

■お子さまのシートベルトの使い方

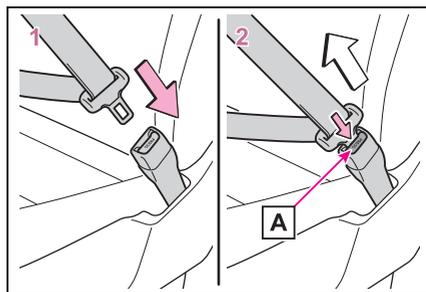
この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.40)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.29)

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

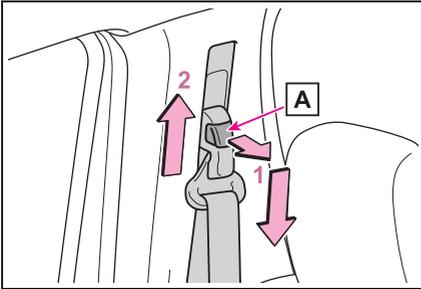
着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボ

タン[A]を押す

シートベルトの高さ調節（フロント席）

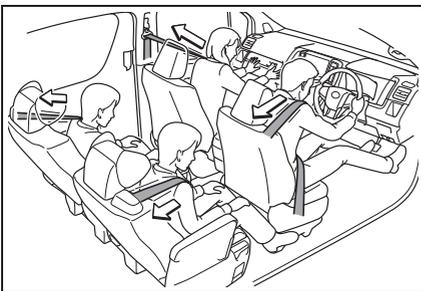


- 1 解除ボタン[A]を引きながら、アジャスターを下げる
- 2 アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・セカンド席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

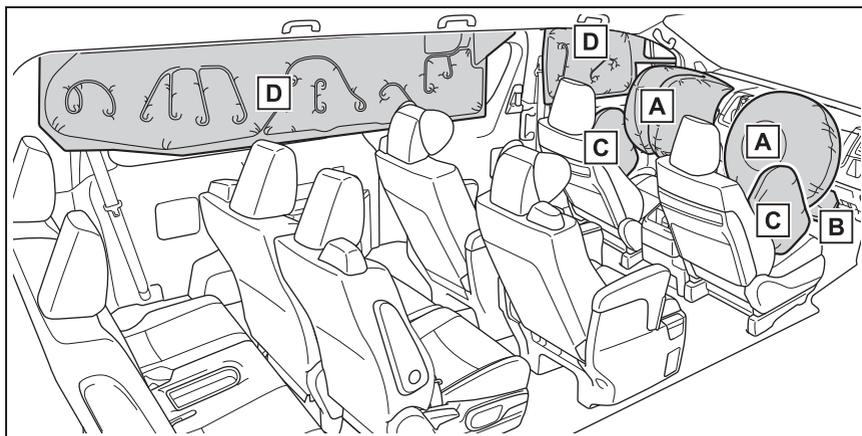
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

B SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

C SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

D SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

📖 知識

■ SRS エアバッグが作動すると

● SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・

やけど・打撲などを受けることがあります。

- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分な

どだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- すべてのドアが解錠されます。（→P.81）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.226）
- 室内灯が自動で点灯します。（→P.250）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.307）
- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは「マルチメディア取扱書」を参照してください。
- ・ SRS エアバッグが作動した
- ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
- ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、

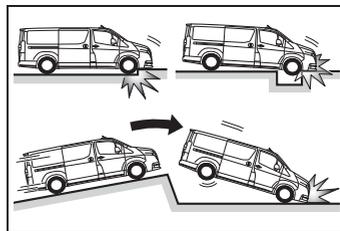
トラックの下敷きになるなど）

- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。
- #### ■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
 - 特に衝撃が大きい場合は、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。
 - 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

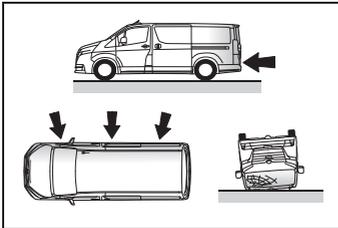
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

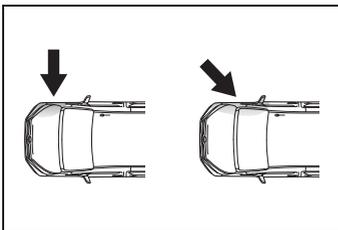
- 側面からの衝撃
- 後方からの衝撃
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

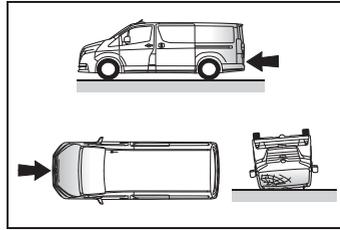
- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

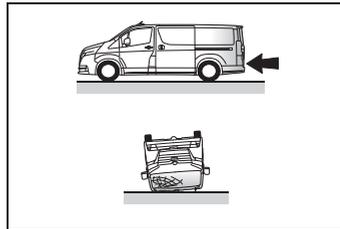
- 前方からの衝突

- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

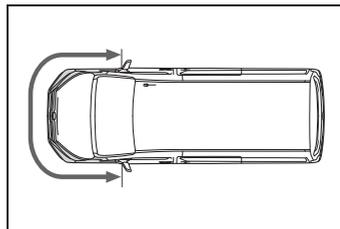
- 後方からの衝突
- 横転



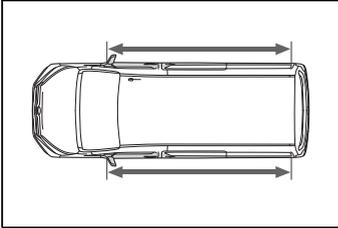
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

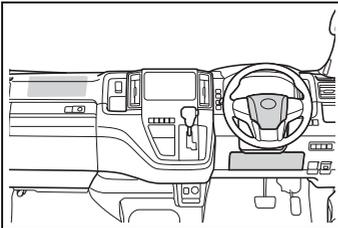
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



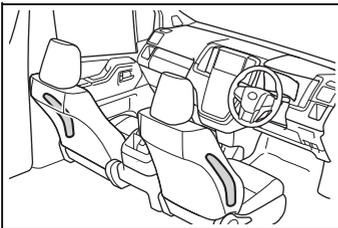
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



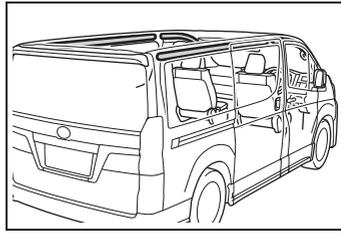
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー一部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.40)

警告

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



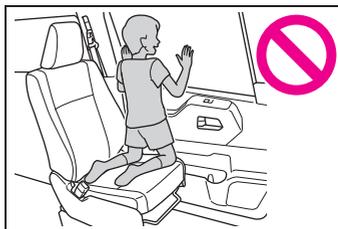
- お子さまを助手席SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



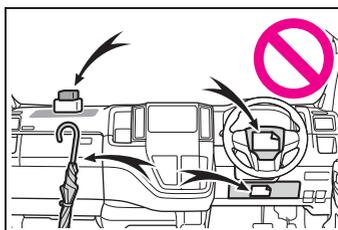
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リアピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



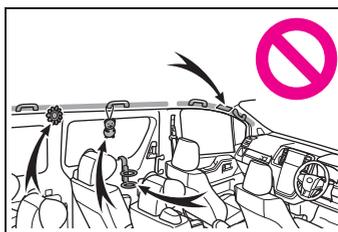
- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウィンドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリアピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

 **警告**

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなど周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。（P.232 の注意も併せて参照してください）

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.40)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P.87)・ウィンドウロックスイッチ(→P.130)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるとき

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付けなどをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→P.40)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。
トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.40

チャイルドシートを使用するとき
は：P.41

シート位置別チャイルドシートの
適合性について：P.44

チャイルドシートの取り付け方
法：P.49

・ シートベルトで固定する：P.50

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.52
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.53

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
(→P.44)

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
 - お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- チャイルドシートについて**
- 次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
 - チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.44）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
 - チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

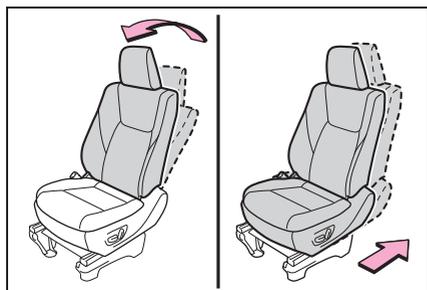
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- シートをいちばんうしろに下げる
シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

**警告****■チャイルドシートを使用するとき**

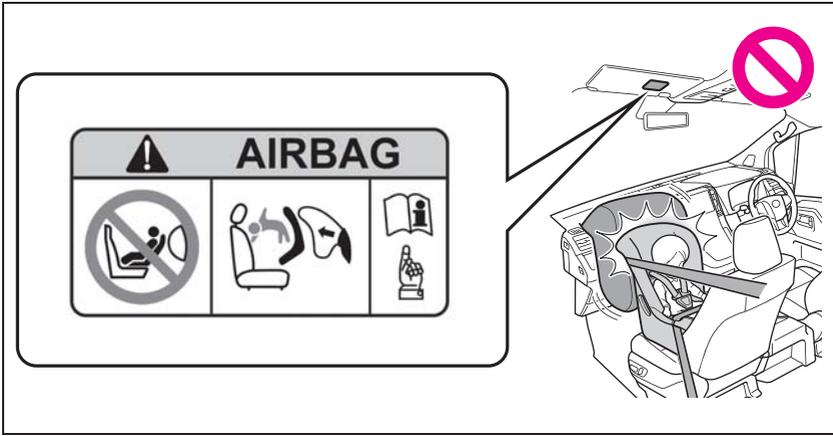
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

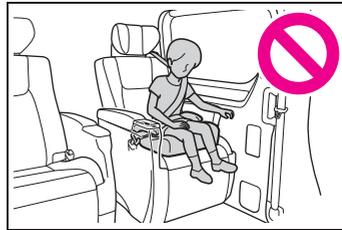


警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.45）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。

（→P.48）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

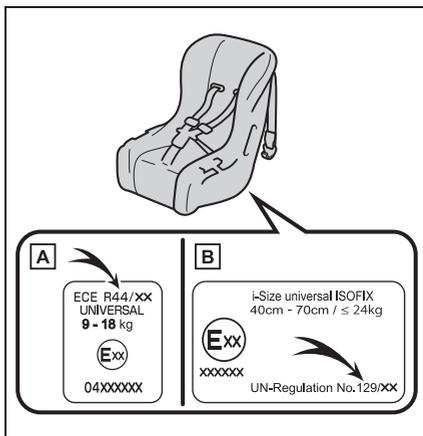
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

【A】 UN (ECE) R44 認可マーク

※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

【B】 UN (ECE) R129 認可マーク

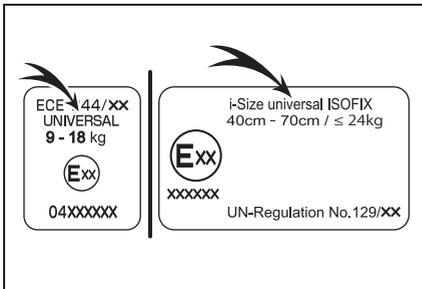
※2

対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」

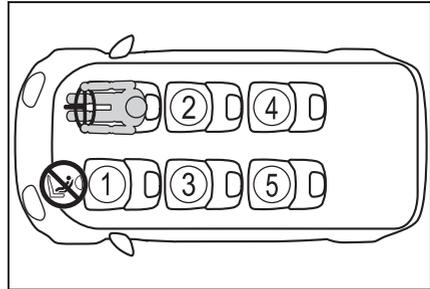


※¹UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

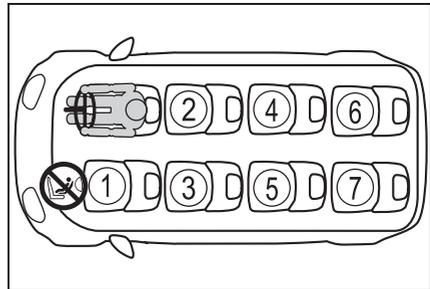
※²表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ 6人乗り



▶ 8人乗り



① ※1, 2, 3	U ^{※4} L
② ※2, 3	UL
③ ※2, 3	UL

④ ※2, 3, 5	
⑤ ※2, 3, 5	
⑥ ※2, 3, 6	
⑦ ※2, 3, 6	

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.48）に記載されたチャイルドシートに適しています。

 i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

 トップテザーアンカレッジが装備されています。

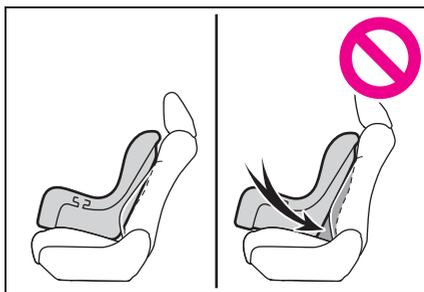
 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※¹シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※²背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付け

るときに、背もたれとチャイルドシートの間ですき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



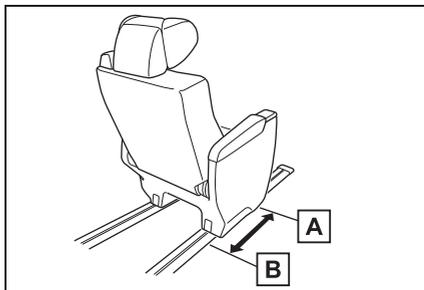
※³ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※⁴チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

※⁵最後列シート（チップアップシート）をチップアップさせ（→P.107）、サードシートをいちばんうしろまで移動させてください。

セカンドシートの前後位置を1段目から6段目の範囲で調整してください。



A 1 段目

B 6 段目※⁶セカンドシートとサードシートをいちばん前まで移動させてください。
最後列シートをいちばんうしろまで移動させてください。**■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報**

着座位置							
シート位置の番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ユニバーサル（汎用） ベルト式が搭載可能な 着座位置（有／無）	前向き のみ	有	有	有	有	無	無
アイサイズ着座位置 （有／無）	無	有	有	有	有	無	無
搭載可能な横向きチャ イルドシートの治具 （L1 / L2）	×	×	×	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向き チャイルドシートの治 具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3	×	×
搭載可能な前向きチャ イルドシートの治具 （F2X / F2 / F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3	×	×
搭載可能なジュニア シートの治具（B2 / B3）	×	B2, B3	B2, B3	B2, B3	B2, B3	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

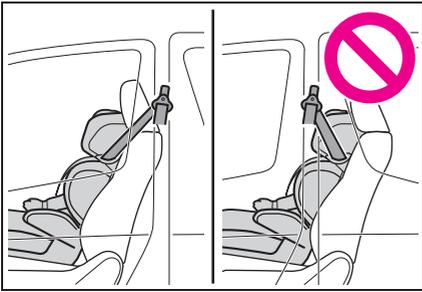
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
0, 0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○	○	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○	○	○	×	×
I (9 ~ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向き のみ	○	○	○	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○	○	○	×	×
II, III (15 ~ 36kg)	トヨタ純正ジュニア シート	○	○	○	○	○	○	○

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートが前の座席と干渉しないように前の座席を調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する

場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

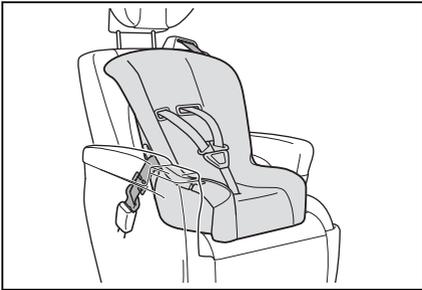
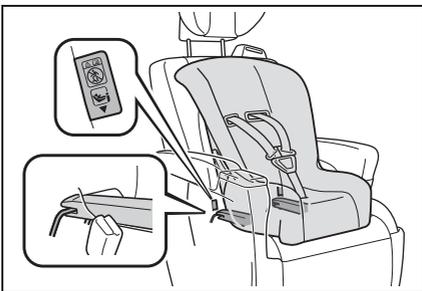
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

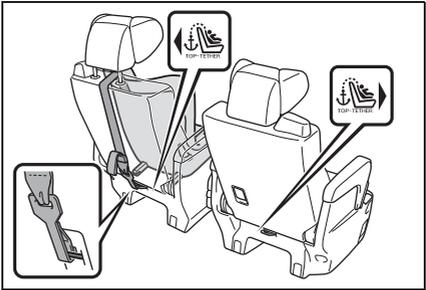
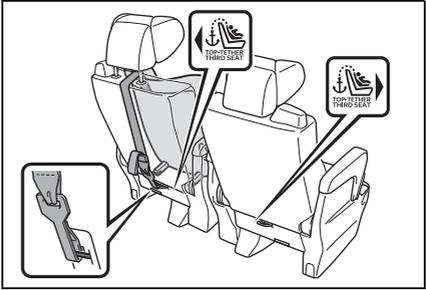


- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P.50
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.52

	固定方法	ページ
<p>テザーベルトを固定する</p>	<p>▶ セカンドシート</p>  <p>▶ サードシート</p> 	<p>P.53</p>

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.44, 45）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助

手席シートを正しく調整してください。（→P.41）

2 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.109）

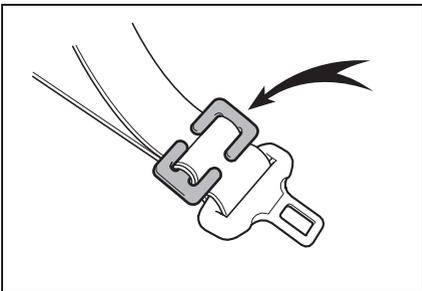
- 4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロックングクリップ品番：73119-22010）



- 6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.51）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、

シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

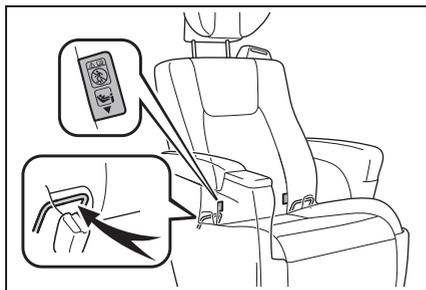
警告

- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はセカンドシート・サードシートに ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.44, 45)

1 背もたれを可能な限り起こす
前向きにチャイルドシートを取り付ける

ときに、背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.109)

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する(→P.51)

警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

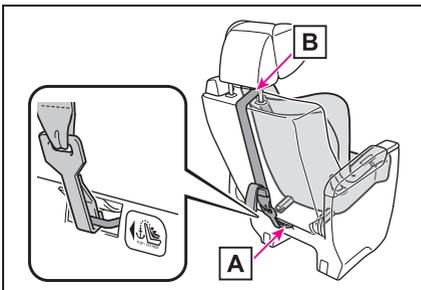
トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はセカンドシート・サードシートにトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

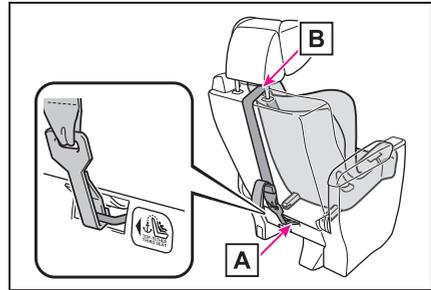
▶ セカンドシート



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

▶ サードシート



A トップテザーアンカレッジ

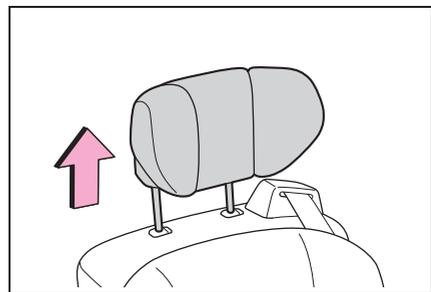
B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.109)



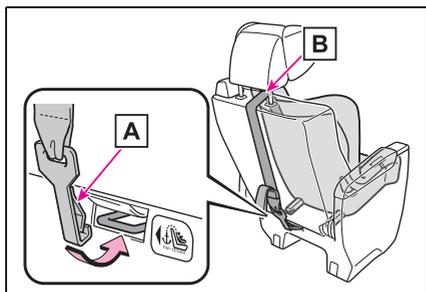
2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.51)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルド

シートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

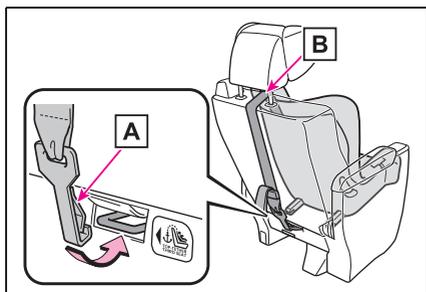
▶ セカンドシート



A フック

B テザーベルト

▶ サードシート



A フック

B テザーベルト

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

- テザーベルトは、必ずチャイルドシートを取り付けたシートのトップテザーアンカレッジにかけてください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

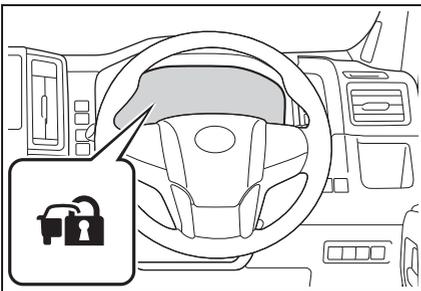
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



□ 知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
 - ボンネットが開けられたとき
- T-Connect サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書／T-Connect／マイカーサーチ／マイカーサーチ Plus」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

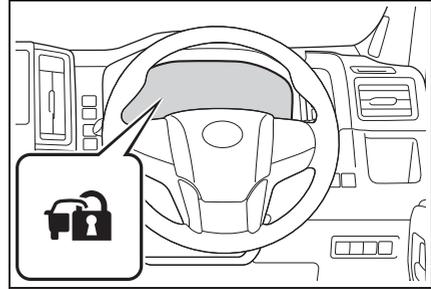
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには
ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステ

ム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- エンジンスイッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

□ 知識

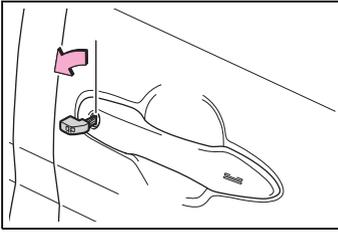
■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

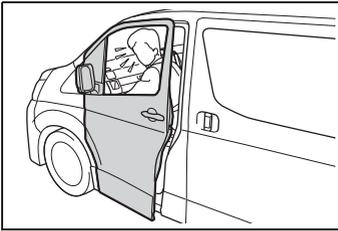
■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

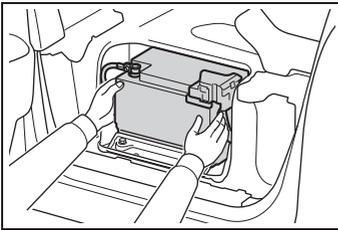
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



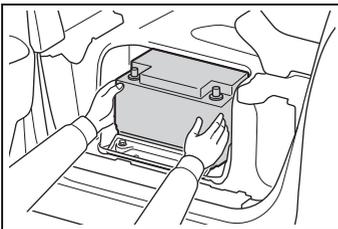
- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けた、またはロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や再接続をしたとき
(→P.339)



- バッテリーを取りはずしたとき



■ オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

⚠ 注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	60
計器類	64
マルチインフォメーションディスプレイ	67
燃費画面	73

警告灯一覧

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.315)



充電警告灯 ※¹ (→P.315)



高水温警告灯 ※²
(→P.315)



油圧警告灯 ※² (→P.315)



(点滅または点灯)

エンジン警告灯 ※¹
(→P.316)



SRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯 ※¹
(→P.316)



ABS & ブレーキアシスト警告灯 ※¹ (→P.316)



パワーステアリング警告灯 ※¹ (→P.316)



(点滅または点灯)

PCS 警告灯 ※¹ (→P.317)



(点滅)

Stop & Start キャンセル表示灯 ※¹ (→P.317)



(点滅)

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※³ (→P.317)



(点滅)

PKSB OFF 表示灯 ※¹
(→P.318)



(点滅)

RCTA OFF 表示灯 ※¹
(→P.318)



スリップ表示灯 ※¹
(→P.318)



(橙色)

LDA 表示灯 ※² (→P.318)



ブレーキオーバーライドシステム警告灯/ドライブスタートコントロール警告灯 ※²
(→P.319)



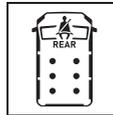
パーキングブレーキ表示灯
(→P.319)



燃料残量警告灯 (→P.319)



運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 (→P.319)



リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※^{4,5} (→P.320)



AdBlue[®] 残量警告灯
(→P.320)



タイヤ空気圧警告灯 ※¹
(→P.320)



(点滅)

AUTO LSD 表示灯 ※¹
(→P.320)

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※³ クリアランスソナー機能が ON のときは、エンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

※⁴ センターパネルに表示されます。

※⁵ 車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

警告**■安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

注意**■エンジンの損傷を防ぐために**

高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P.344)

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.147)



尾灯表示灯 (→P.149)



ハイビーム表示灯
(→P.151, 153)



AHB 表示灯 (→P.152)



フロントフォグランプ表示灯
(→P.154)



リヤフォグランプ表示灯★
(→P.154)



スマートエントリー&スタートシステム表示灯※¹
(→P.140)



クルーズコントロール表示灯
※¹ (→P.188)



レーダークルーズコントロール表示灯※¹ (→P.186)



クルーズコントロールセット表示灯※¹ (→P.186)



LDA 表示灯※^{1, 2}
(→P.177)



クリアランスソナー OFF 表示灯※^{3, 4} (→P.203)



PKSB OFF 表示灯※^{3, 5}
(→P.211)



(点滅)

スリップ表示灯※⁵
(→P.226)



VSC OFF 表示灯※^{3, 5}
(→P.227)



PCS 警告灯※^{3, 5}
(→P.168)



BSM ドアミラーインジケータ※^{5, 6} (→P.198)



BSM 表示灯 (→P.198)



RCTA OFF 表示灯※^{3, 5}
(→P.221)



Stop & Start 表示灯※⁵
(→P.192)



Stop & Start キャンセル表示灯※^{3, 5} (→P.197)



セキュリティ表示灯
(→P.55, 56)



低温表示灯※^{1, 7} (→P.65)



エコドライブインジケータランプ※^{1, 5} (→P.69)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.148)



予熱表示灯 (→P.140)



AUTO LSD 表示灯 ※5
(→P.230)

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- ※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- ※2 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。
- ※3 システムが OFF のときに点灯します。
- ※4 クリアランスセンサー機能が ON のときは、エンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ※5 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※6 ドアミラーに表示されます。
- ※7 外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

知識

■ BSM ドアミラーインジケーターについて

作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。

- マルチインフォメーションディスプレイの  画面で、BSM の機能を ON に設定している状態で、エンジンスイッチを ON にしたとき
- エンジンスイッチが ON の状態で、BSM の機能をマルチインフォメーション

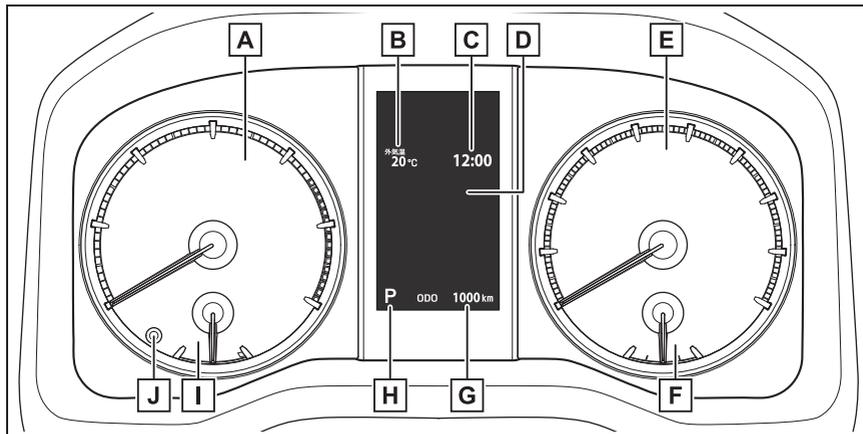
ディスプレイの  画面で ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置

**A** タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

B 外気温

外気温度を - 40 °C ~ 50 °C のあいだで表示します。

C 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

D マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.67)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.322)

E スピードメーター**F** 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

G オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整ディスプレイ (→P.66)

H シフトポジション・シフトレンジ表示 (→P.144)**I** 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

J オドメーター／トリップメーター切りかえスイッチ (→P.66) 知識**■メーター・ディスプレイの作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。

少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 オドメーター／トリップメーター切りかえスイッチを押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 オドメーター／トリップメーター切りかえスイッチを押したまま、エンジンスイッチを ON にする
- 5 そのまま約 5 秒間オドメーター／トリップメーター切りかえスイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温度表示について

- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車している時や、低速走行（約 15km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” が表示されたときは、システム異

常のおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

 **警告****■低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

⚠ 注意

- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P.344)

オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整ディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A / トリップメーター B

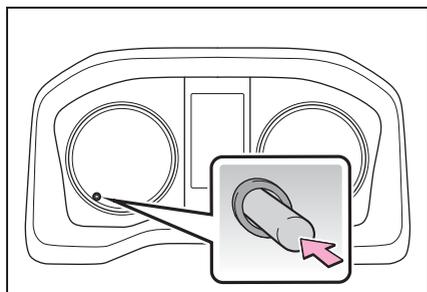
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● メーター照度調整画面

メーター照明の明るさを調整できます。

■ 表示の切りかえ

オドメーター／トリップメーター切りかえスイッチを押すごとに表示が切りかわります。



- トリップメーターの表示中にオドメーター／トリップメーター

切りかえスイッチを押し続けると、走行距離が 0 にもどります。

- メーター照度調整の表示中にオドメーター／トリップメーター切りかえスイッチを押し続けると、メーター照明の明るさを調整できます。

📖 知識

■ メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。照度を最大に設定している場合を除き、車幅灯を点灯すると照度は減光されます。

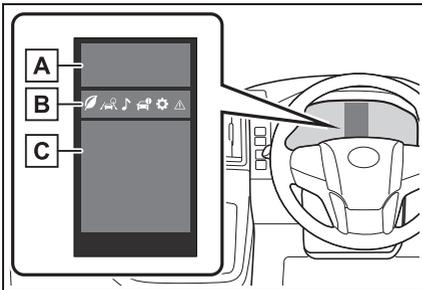
マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。



A 走行支援システム情報表示部

以外のメニューアイコンが選択されている状態で、次のシステムが作動しているとき、各システムの作動状況を表示します。

- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]) (→P.173)
- ・ レーダークルーズコントロール (→P.183)

B 外気温／時計／メニューアイコン表示部 (→P.67)

通常は外気温と時計が表示されます。(→P.64) メーター操作スイッチを操作すると、数秒のあいだ、メニューアイコン (→P.67) が表示されます。

C 情報表示部

メニューアイコンを切りかえることにより、さまざまな情報を表示することができます。

また、車両の状況に応じて、各種の注意喚起やアドバイスなどが割り込み表示されます。

■ メニューアイコン一覧

メーター操作スイッチ (→P.68) の  または  を押すとメニューアイコンが表示されます。

アイコン	表示される画面
	走行情報表示画面 (→P.68)
	運転支援機能情報表示画面 (→P.70)
	オーディオ連携画面 (→P.70)
	車両情報表示画面 (→P.70)
	設定画面 (→P.71)
	警告メッセージ表示画面 (→P.72)

知識

■ マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ 液晶ディスプレイについて

→P.65

警告

■ 走行中の警告

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

→P.65

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

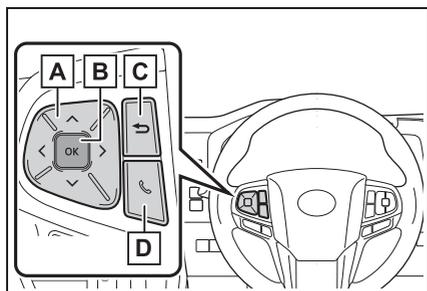
注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ◀/▶: メニューの切りかえ

▲/▼: 表示項目の切りかえ
え・ページ送り・カーソル移動

B 短押し: 決定

長押し: リセット・詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発信着信・履歴表示

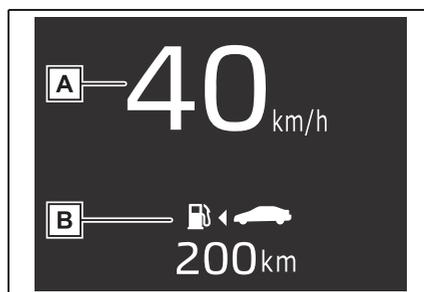
ハンズフリーシステムと連携して、発信着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

走行情報表示画面について

メータースイッチの◀/▶を押して  を選択する。

燃費に関するさまざまな情報を表示します。

■ 車速表示／航続可能距離



A 車速表示

現在の車速を表示します。

B 航続可能距離

燃料残量による走行可能なおよその距離を表示します。(→P.70)

■ 燃費グラフ



A 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。(→P.70)

B 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

C 平均燃費

始動後・給油後・リセット後のうち、いずれかの平均燃費を表示します。*1, 2

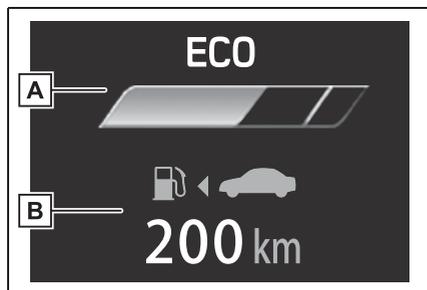
⚙️画面の“燃費グラフ”で選択した燃費が表示されます。(→P.71)

*1表示される燃費は参考として利用してください。

*2リセット後平均燃費の表示中にOKを押し続けると、リセットされます。

■ エコドライブインジケータ／航続可能距離

▶ 表示内容

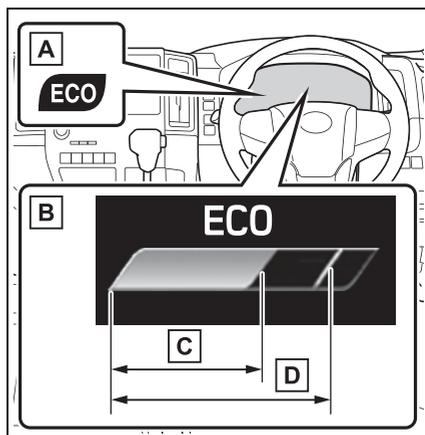


A エコドライブインジケータ

B 航続可能距離

燃料残量による走行可能なおよその距離を表示します。(→P.70)

▶ エコドライブインジケータの見方



A エコドライブインジケータランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケータゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケータゾーン表示の右側が点灯します。このとき、エコドライブインジケータランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

知識

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、航続可能距離のデータはリセットされます。

■ 航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.65）
- “給油してください” と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

■ エコドライブインジケーターの作動条件

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

運転支援機能情報表示画面について

メータースイッチの  /  を押して  を選択する。

■ 走行支援システム関係表示

次のシステムの作動状況を表示します。

- LDA（レーンディパーチャーア

ラート [ヨーアシスト機能付き]（→P.173）

- レーダークルーズコントロール（→P.183）

■ ナビゲーションシステム連携表示*

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- 目的地案内
- コンパス

* 販売店オプションのナビゲーションシステム装着車のみ

オーディオ連携画面について

メータースイッチの  /  を押して  を選択する。

オーディオソースの選択の操作を行うことができます。

車両情報表示画面について

メータースイッチの  /  を押して  を選択する。

■ ドライブインフォメーション

 画面の“ドライブインフォ”で選択した項目が上下に 2 つ表示されます。（→P.71）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

● 始動後

- ・ 平均車速：エンジン始動後の平均車速を表示
- ・ 走行距離：エンジン始動後の走行距離を表示

- ・ 走行時間：エンジン始動後の経過時間を表示

● リセット間

- ・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示
- ・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示
- ・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示

※  を押し続けるとリセットされます。

■ タイヤ空気圧

→P.285

設定画面について

メータースイッチの  /  を押して  を選択する。

メーター操作スイッチを操作してご希望の項目を選択することで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 設定変更のしかた

- 1 メーター操作スイッチの  /  を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動する
 - ・ 機能の ON / OFF やブザー音量などを設定する項目では、 を押すたびに機能の ON / OFF、または調整値が切りかわります。
 - ・ 機能の作動内容を変更できる項目では、 を押し続けることで、設定画面を表示できます。設定画面が表示されたら、メーター操作スイッチを操作して、いず

れかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定します。

- 2 設定が完了したら、メーター操作スイッチの  を押す

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を変更することができます。

● 単位

燃費表示の単位を変更することができます。

● (エコドライブインジケータランプ) (→P.69)

エコドライブインジケータランプの作動・非作動を変更することができます。

● (走行情報表示画面設定)

燃費グラフ (→P.69) に表示する平均燃費の種類を変更することができます。

● (オーディオ連携画面設定)

 画面の表示・非表示を変更することができます。

● (車両情報表示画面設定)

・ ドライブインフォタイプ

ドライブインフォメーション (→P.70) に表示する項目の種類を始動後・リセット間から選択することができます。

・ ドライブインフォ項目選択

ドライブインフォメーション画面の上段・下段に表示する項目を平均車速・走行距離・走行時間から、それぞれ選択することができます。

● 割込表示

一部の割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することがで

きます。

● MID 消灯

マルチインフォメーションディスプレイを非表示にすることができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

□ 知識

■ 設定画面の操作について

● 設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。

- ・ 警告メッセージが表示されたとき
- ・ 走行し始めたとき

● 車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

● 設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

■ カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
(→P.356)

警告メッセージ表示画面について

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→P.322)

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ消灯提案

エンジンスイッチを OFF にしたあとにランプスイッチがまたは AUTO の状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

ランプスイッチが AUTO のときのみ：このとき“はい”を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

エンジンスイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき“はい”を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

ウインドウロックスイッチを ON にしているときは、提案メッセージが表示されません。

■ ウインドウロック解除提案

ウインドウロックスイッチ(→P.130)を ON にした状態で運転席ドアのパワーウインドウスイッチで助手席のドアガラスを閉めようとする、ウインドウロックスイッチを OFF にする提案メッセージを表示します。

□ 知識

■ カスタマイズ機能

提案サービス機能の作動・非作動を変更できます。(カスタマイズー

覧：→P.356)

Stop & Start システム情報割込み表示について

現在のアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を表示します。

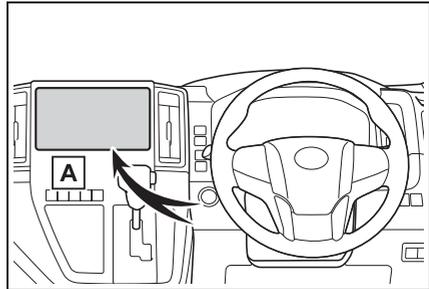
また、アイドリングストップの状態を状況に応じて割り込み表示でお知らせします。(→P.194)

燃費画面

燃費に関する情報を、マルチメディアディスプレイに表示します。

燃費画面は、Home 画面にも表示することができます。

システムの構成部品



A マルチメディアディスプレイ

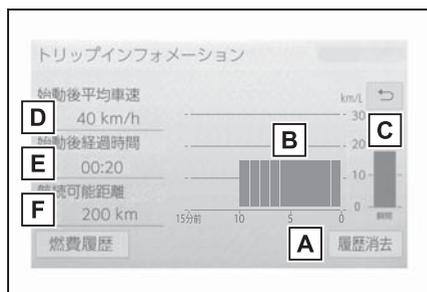
燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

- 1 マルチメディアディスプレイの “MENU” を押し、“情報” を選択する
- 2 “トリップインフォメーション” または “燃費履歴” を選択する

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、“トリップインフォメーション” を選択します。



- A** 履歴消去
- B** 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)
- C** 瞬間燃費
- D** エンジン始動後平均車速
- E** エンジン始動後経過時間
- F** 航続可能距離

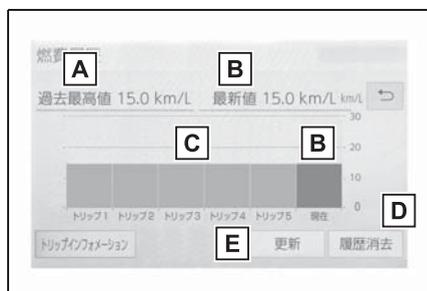
平均燃費はエンジンスイッチを ON にしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“燃費履歴” を選択します。



- A** 過去最高値表示

- B** 最新値表示

- C** 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

- D** 履歴消去

- E** 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ Home 画面の表示

画面を表示させるにはマルチメディアディスプレイの“HOME”を押します。

Home 画面に表示する項目に“エコ情報”が選択されているとき、航続可能距離・最新値が表示されます。



表示される値は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

□ 知識

- 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新た

に平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

“履歴消去”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

3-1. キー

キー 78

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア 81

スライドドア 84

バックドア 96

スマートエントリー&スタートシ
テム 100**3-3. シートの調整**

フロントシート 104

リヤシート 105

ヘッドレスト 109

シートアレンジ 113

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 117

デジタルインナーミラー 118

ドアミラー 126

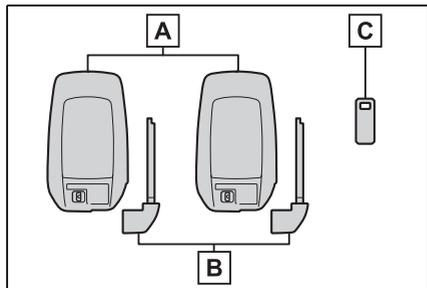
3-5. ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ 128

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡します。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.100)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.79)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→P.101)

- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.296)

- ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- ・ 作動範囲が狭くなった
- ・ 電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます (→P.296) が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

■ 電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください” が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。(→P.296)

■ 電池の交換方法

→P.296

■ 電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました”と表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

● テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

● 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

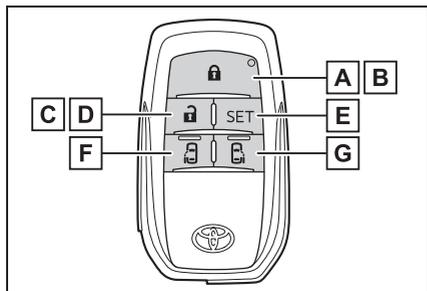
→P.337

■ 電子キーを紛失したとき

→P.336

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備されています。



- A** 全ドアを施錠する (→P.81)
- B** ドアガラスを閉める※ (→P.81)
- C** 全ドアを解錠する (→P.81)
- D** ドアガラスを開く※ (→P.81)
- E** ウェルカムパワースライドドアを予約する (→P.88)
- F** 助手席側パワースライドドアを開閉する (→P.85)
- G** 運転席側パワースライドドアを開閉する (→P.85)

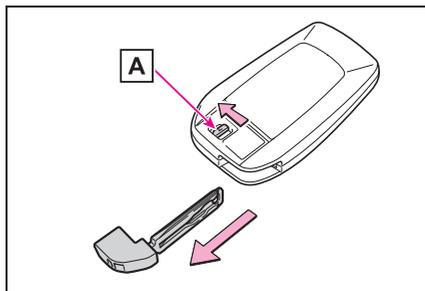
※ トヨタ販売店ででの設定が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバー**A**をスライドさせてキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P.337)



知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠 (→P.255) します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

→P.336

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

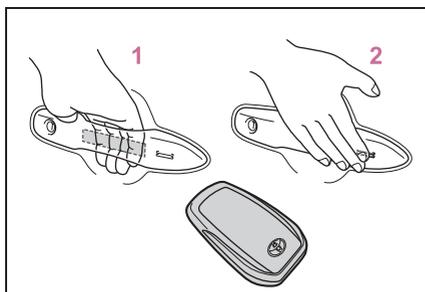
フロントドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ハンドルを握って解錠する

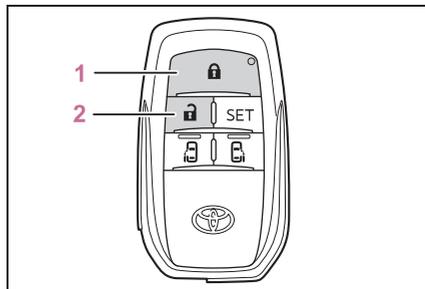
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。押し続けるとドアガラスが閉まります。*

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。*

* トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

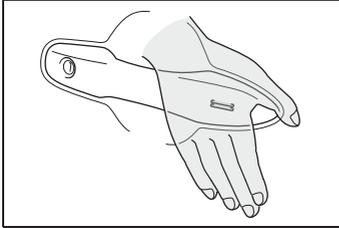
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。

ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.56)

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.101

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.337)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.296)

■ バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.337)

■ カスタマイズ機能

ブザーの音量などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.358)

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ ドアを開閉するときの留意事項

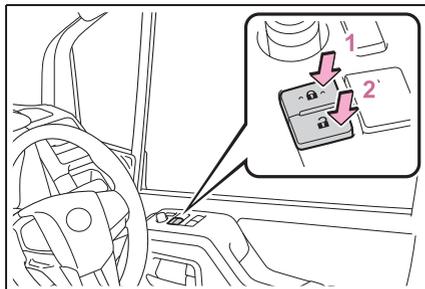
傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

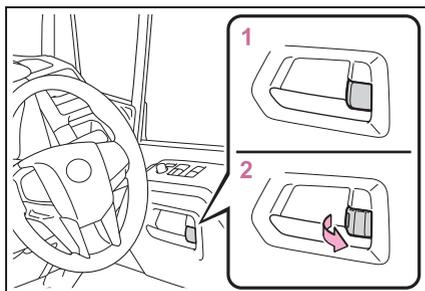
車内から施錠／解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



- 1 全ドアを施錠する
- 2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



- 1 ドアを施錠する
- 2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

📖 知識

■ キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合が

あります。

■ 半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.356 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中にシフトレバーを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

スライドドア

スライドドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はインサイドドアハンドルを操作しない

■ お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
- 誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子様にはスライドドアの開閉操作をさせないでください。

不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

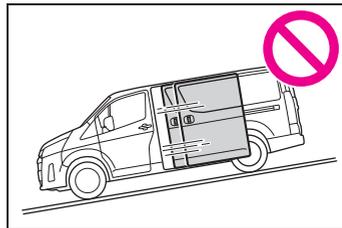
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→P.87）を使用して車内からドアが開かないようにする

■ スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

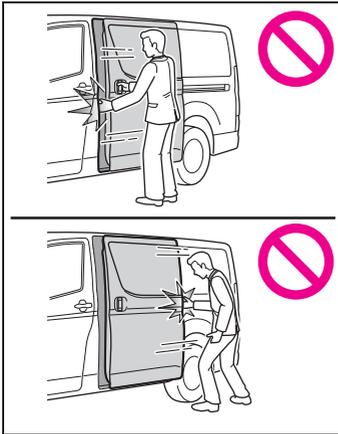
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたりたり挟んだりしないように注意してください。

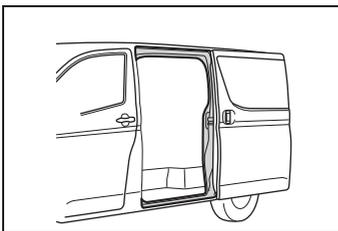


警告

- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開しておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。



車外から解錠／施錠するには

- スマートエントリー&スタートシステムを使用する

→P.81

- ワイヤレス機能を使用する

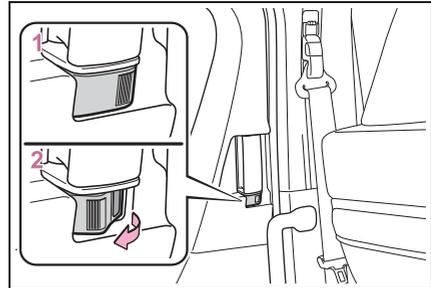
→P.81

車内から解錠／施錠するには

- ドアロックスイッチを使用する

→P.83

- ロックレバーを使用する

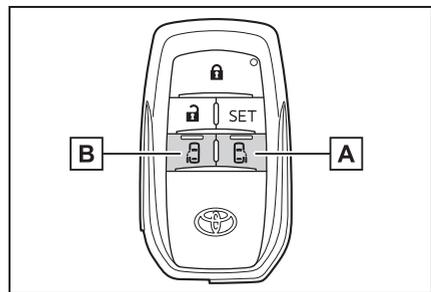


1 施錠

2 解錠

スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

- ワイヤレス機能を使用する



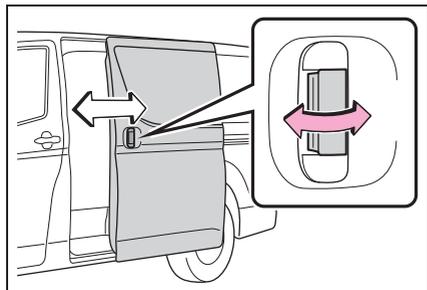
A 運転席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

B 助手席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

スライドドアを解錠してから操作してください。

■ アウトサイドドアハンドルを使用する

アウトサイドドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。

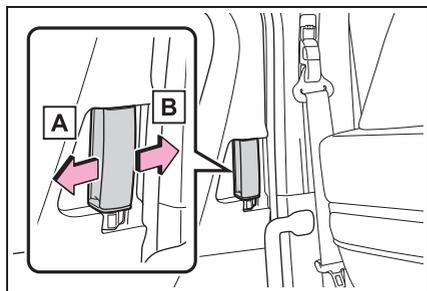


スライドドアを解錠してから操作してください。

自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。

■ インサイドドアハンドルを使用する

インサイドドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。



自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。

【A】 開ける

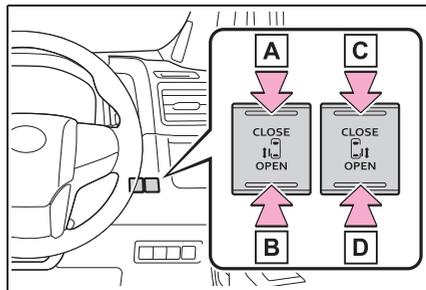
スライドドアを解錠してから操作してください。

【B】 閉める

■ パワースライドドア開閉スイッチを使用する

スイッチを約 1 秒押す

スライドドアを解錠してから操作してください。



【A】 助手席側パワースライドドアを閉じる

【B】 助手席側パワースライドドアを開ける

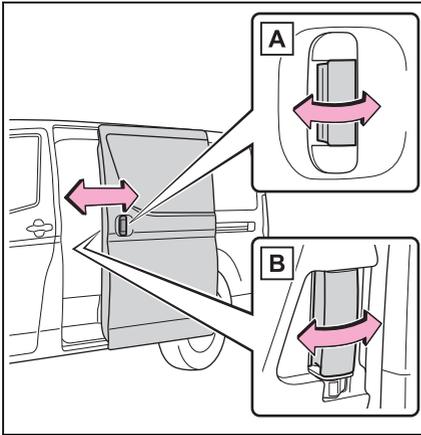
【C】 運転席側パワースライドドアを閉じる

【D】 運転席側パワースライドドアを開ける

開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。

スライドドアの手動開閉

パワードアオフスイッチ (→P.87) が ON のとき、車外のアウトサイドドアハンドル、または車内のインサイドドアハンドルを操作します。

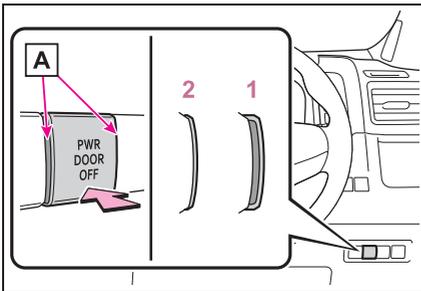


A アウトサイドドアハンドル

B インサイドドアハンドル

パワースライドドアの機能を停止するには

パワードアオフスイッチを ON にしてパワースライドドアの機能を停止します。



1 OFF*

パワースライドドアをワイヤレスリモコン/アウトサイドドアハンドル/インサイドドアハンドル/パワースライドドア開閉スイッチの操作により、自動で開閉できます。

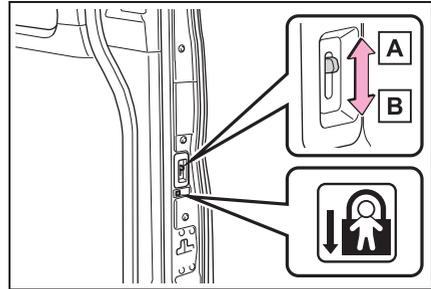
2 ON

スライドドアを手動でのみ開閉できます。

* OFF にすると、スイッチ左右部にオレンジ色**A**のマークが表れます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、インサイドドアハンドルを使用してスライドドアを開けられなくなります。



A 解錠

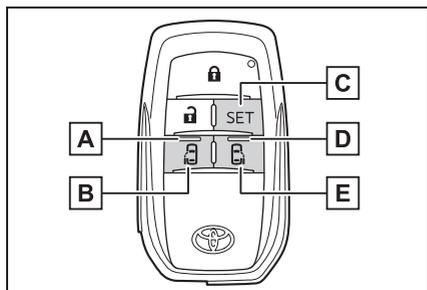
B 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。

ウェルカムパワースライドドア

予約 (→P.88) が完了した電子キーを携帯して、予約した側のスライドドアのウェルカムパワースライドドアの作動範囲に入ると、すべてのドアが解錠し、そのままウェルカムパワースライドドアの作動範囲内で約 2.5 秒間* 待つと予約した側のスライドドアが自動的に開作動します。

* スライドドアの開作動が開始するまでの待ち時間を変更できます。
(→P.356)



- A** 助手席側パワースライドドアインジケーター
- B** 助手席側パワースライドドアボタン
- C** SET ボタン
- D** 運転席側パワースライドドアインジケーター
- E** 運転席側パワースライドドアボタン

■ 予約のしかた

- 1 電子キーの SET ボタンを押し続ける

電子キーのパワースライドドアボタンのインジケーターが点滅します。

- 2 インジケーターが点滅しているあいだに、予約したい側のパワースライドドアボタンを押す

押された側のパワースライドドアボタンのインジケーターが約 3 秒間点灯し、消灯すると予約が完了します。

予約の有効時間は約 20 分間となります。予約を完了してから 20 分以上経過すると予約はキャンセルされます。

■ 予約の確認をする

電子キーの SET ボタンを押し続ける

予約された側の電子キーのパワースライドドアボタンのインジケータが約 5 秒間

点灯します。

予約確認をすると、予約の有効時間はそこから約 20 分間となります。

■ 予約のキャンセル／変更をする

- 1 電子キーの SET ボタンを押し続ける

予約された側の電子キーのパワースライドドアボタンのインジケータが約 5 秒間点灯します。

- 2 インジケーターが点灯しているあいだに次の操作をする

予約をキャンセルする場合：

予約されている側（点灯している側）のパワースライドドアボタンを押す

予約を変更する場合：

予約されていない側（消灯している側）のパワースライドドアボタンを押す

□ 知識

■ スライドドアイーゼークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイーゼークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。スライドドアイーゼークローザーは、両側のスライドドアに装着されています。

- エンジンスイッチのモードに関係なく、スライドドアイーゼークローザーは作動します。
- アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを操作したままドアを閉めたときは、スライドドアイーゼークローザーが作動しないことがあります。
- スライドドアイーゼークローザーが作動中でもアウトサイドドアハンドルま

たはインサイドドアハンドルを操作してドアを開けることができます。(ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く)

■ 作動の合図 (パワースライドドア使用時)

ブザーで知らせます。(作動開始時に1回、閉作動中は継続)

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠してアウトサイドドアハンドルを操作すると開きます。

■ パワースライドドアの作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- パワードアオフスイッチが OFF のとき
- スライドドアのドアロックが解錠されている (閉作動を除く)

エンジンスイッチが ON のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

- シフトレバーの位置が P のとき
- パーキングブレーキがかかっているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき

■ パワースライドドアの作動について

- パワードアオフスイッチが ON のときは、手動でのみ開閉できます。
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを検知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、以下のように作動します

逆方向に動く：

- ・ アウトサイドドアハンドルを操作する

開方向に動く：

- ・ インサイドドアハンドルを開方向に操作するまたはパワースライドドアスイッチ (OPEN 側) を押す
- 閉方向に動く：
- ・ インサイドドアハンドルを閉方向に操作するまたはパワースライドドアスイッチ (CLOSE 側) を押す

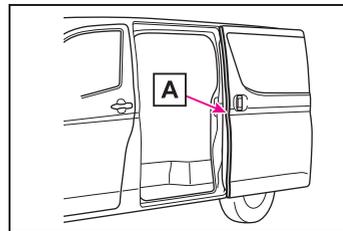
挟み込み防止機構作動後、電子キーのパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

■ バッテリー端子を脱着したとき

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定が必要です。アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使用して、スライドドアを手動で一度全閉にしてください。

■ 挟み込み防止機構 (パワースライドドア)

パワースライドドアの前端部には、センサー **A** が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。



■ 予約ロック機能について (パワースライドドア)

パワースライドドアの自動開閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワースライドドア以外のすべてのドアが施錠され、パワースライドドアも閉まると同時に施錠され

ます。

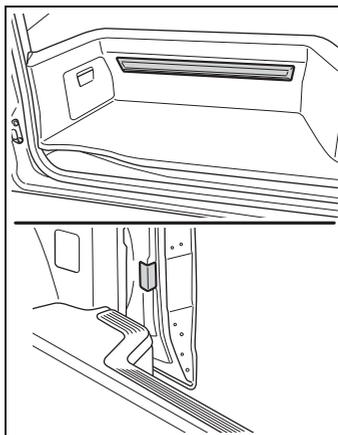
- 1 パワースライドドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 パワースライドドアの自動閉作動中にフロントドアまたはバックドアでスマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.81, 97）
またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.81）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

- 予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。
- 予約ドアロック操作をしてパワースライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。
- 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■ ステップランプ

スライドドアを開けるとランプが点灯します。



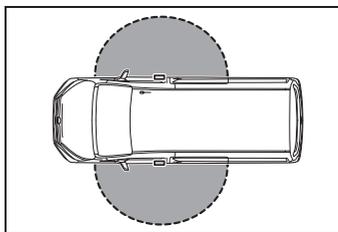
■ ウェルカムパワースライドドアの作動可能条件

すべてのドアが施錠されているときに作動可能です。

ただし、次のときはすべてのドアが施錠されていてもウェルカムパワースライドドアは作動しません。

- ドア施錠操作後、5 秒以内
- カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき（→P.358）
- 電子キーが節電モードに設定されているとき（→P.101）
- 車内に電子キーがある状態で施錠操作をしたとき

■ ウェルカムパワースライドドアの作動範囲



A：作動範囲

フロントドアハンドルから周囲約

150cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

■ ウェルカムパワースライドドアの作動について

- ウェルカムパワースライドドアの作動範囲内に入ってからスライドドアの開作動が開始するまでのあいだに次のことを行うとウェルカムパワースライドドアの機能がキャンセルされ、スライドドアの開作動は行われません。
 - ・ 電子キーがウェルカムパワースライドドアの作動範囲内から離れた
 - ・ ドアを施錠した
 - ・ ワイヤレスリモコンを操作した
 - ・ エンジンスイッチを ACC または ON にした
- ウェルカムパワースライドドアによるスライドドアの自動開作動中に次のことを行うと、スライドドアの開作動は停止します
 - ・ 電子キーの SET ボタンまたは、パワースライドドアボタンを押した
 - ・ パワースライドドアの停止操作を行った
 - ・ 挟み込み防止機能が作動した

■ ウェルカムパワースライドドアが正常に働かないおそれのある状況

- 複数の電子キーがウェルカムパワースライドドアの作動範囲内にある
- スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況にある (→P.101)
- 隣接する車両でウェルカムパワースライドドアが作動している

■ 電子キーの電池の消耗について (ウェルカムパワースライドドア使用時)

通常のスマートエントリー&スタートシステム機能と比べて電子キーの電池を多く消耗します。

ウェルカムパワースライドドアの使用頻度が多いほど、電子キーの消耗は早くなります。

■ ウェルカムパワースライドドア使用時の電子キーについて

- 予約は 1 つの電子キーで行ってください。複数の電子キーに予約した場合、先に検知されたほうの電子キーの予約内容でウェルカムパワースライドドアが作動します。
- 電子キーの電池が切れたり、電子キーの電池を交換すると予約はキャンセルされます。再度予約を行ってください。

■ ウェルカムパワースライドドアのスライドドア開作動開始までの待ち時間の変更について

マルチインフォメーションディスプレイの  画面から、スライドドアの開作動が開始するまでの待ち時間を変更できます。(→P.71)

■ カスタマイズ機能 (パワースライドドア)

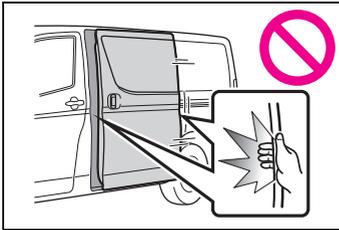
ウェルカムパワースライドドアによる、スライドドア開作動開始までの待ち時間の変更ができます。

(カスタマイズ一覧：→P.357)

警告

■ スライドドアイーゼークローザーについて

- スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイーゼークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
(→P.88)



- スライドドアイーゼークローザーは、パワードアオフスイッチが ON であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、スライドドアイーゼークローザー作動中にインサイドドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



- アウトサイドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



- 自動開閉中にパワードアオフスイッチを ON にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

- ・自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

- チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワードアオフスイッチを ON にしてください。
- タイヤ交換時や洗浄機を使用する際は、パワードアオフスイッチを ON にしてください。ON にしないと誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能（パワードアオフスイッチ OFF 時）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

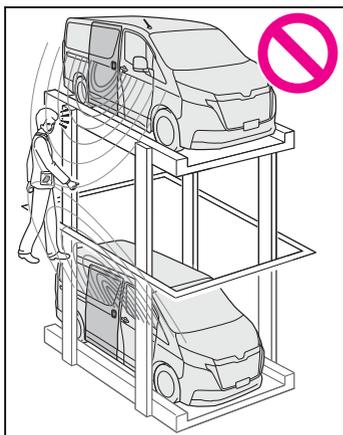
警告

■ ウェルカムパワースライドドアについて

ウェルカムパワースライドドアによるスライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントドアハンドルから約 2m 以上離れた位置で、十分に周囲の安全を確認してから車両に近づいてください。周囲に人がいるときは、車両に近づく前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、ウェルカムパワースライドドアを作動させないでください。
- 機械式駐車場などでは、車両が安全な場所にあることを確認してから車両に近づいてください。車両が電子キーよりも上または、下にある状態でも電子キーが検知されればウェルカムパワースライドドアが作動し、スライドドアが自動的に開作動します。



- 電子キーが検知されてからスライドドアの開作動が開始するまでのあいだは、いつでもスライドドアの作動が停止できるようにスライドドアハンドルに手が届く位置、または電子キーの SET ボタンを押せる状態でお待ちください。
- スライドドア開作動までの待ち時間の変更（→P.357）で待ち時間を短めに設定したときは、電子キーが検知されてからスライドドアが開作動するまでの時間が短くなるため、よりいっそう注意して操作してください。

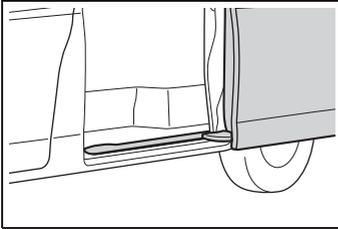
注意

■ スライドドアについて

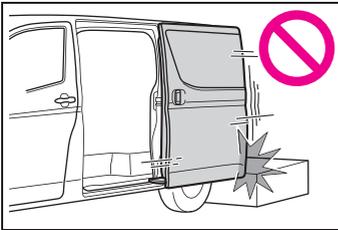
- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
- 走行するときやドアを開閉するときには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどをスライドドア内側のボトルホルダー（→P.257）に収納しないでください。

⚠ 注意

- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



- スライドドアを開けるときは縁石や壁などに当たらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。



■ スライドドアイージークローザーについて

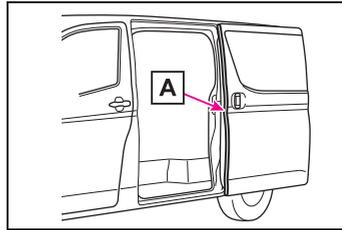
- スライドドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとスライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサー

A を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。

センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。



バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたりたり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージスペースでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

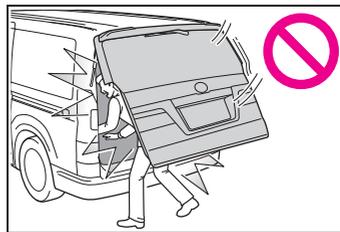
■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたりたり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージスペースには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バックドアの操作にあたって

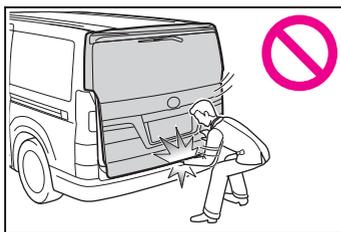
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



警告

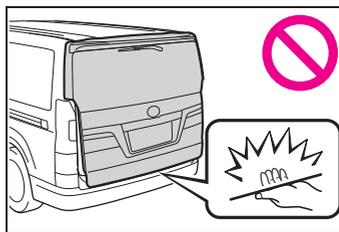
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアストラップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステー(→P.99)を持ってバックドアを開めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■ バックドアアイジークローザーについて

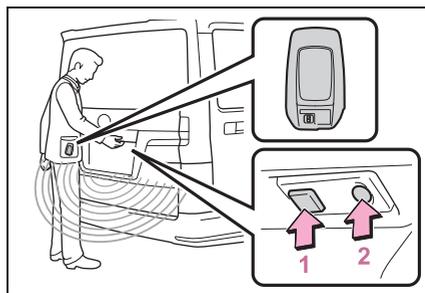
バックドアが半ドア状態になったとき、アイジークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動しはじめるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.79

知識

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

車内から施錠／解錠するには

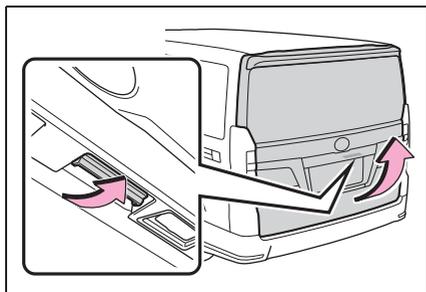
■ ドアロックスイッチを使用する

→P.83

バックドアを開けるには

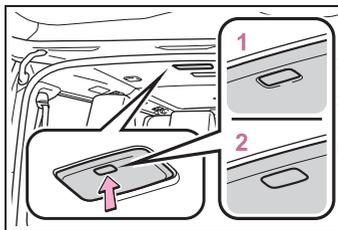
■ バックドアハンドルを使用する

バックドア解錠時に、バックドアハンドルを引いたまま、バックドアを持ち上げる



知識

■ ラゲージルームランプ



- 1 ランプを点灯する
- 2 ドア運動を ON にする (ドアポジション)

バックドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

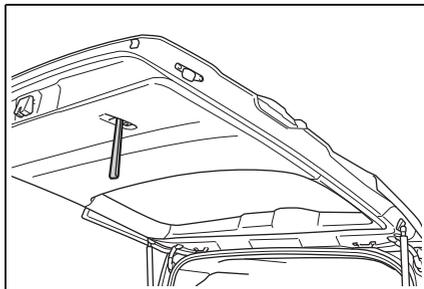
エンジンスイッチが OFF の場合、ランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

バックドアを閉めるには

■ バックドアストラップを使用する

バックドアストラップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときは、バックドアストラップを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。



知識

■ バックドアイーゼークローザー

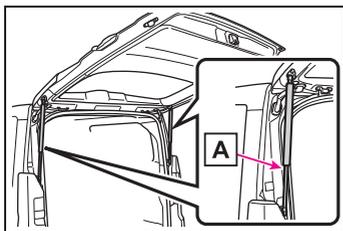
バックドアが半ドア状態になったとき、イーゼークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチがどの状態であっても、イーゼークローザーは作動します。
- バックドアハンドルを操作したままドアを閉めたときは、イーゼークローザーが作動しないことがあります。
- イーゼークローザーが作動中でも、バックドアハンドルを操作してバックドアを開けることができます。

注意

■ ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステー **A** が取り付けられています。ダンパーステー **A** の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ バックドアを操作するときは

バックドアの下端に付いているロック部品などをつかんで、バックドアを操作しないでください。ロック部品などが破損するおそれがあります。

■ バックドアイーゼークローザーについて

- イーゼークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイーゼークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

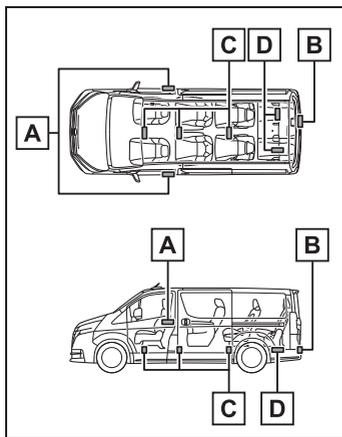
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→P.81)
- スライドドアを開ける (→P.87)
- バックドアを施錠・解錠する (→P.96)
- エンジンを始動する (→P.140)

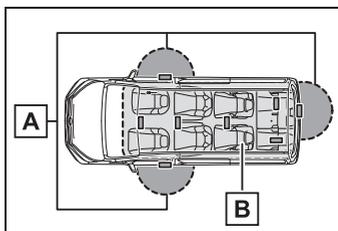
知識

■ アンテナの位置



- A** 車外アンテナ (フロントドア)
- B** 車外アンテナ (バックドア)
- C** 車室内アンテナ (車内)
- D** 車室内アンテナ (ラゲージルーム)

■ 作動範囲 (電子キーの検知エリア)



A ドアの施錠・解錠時

フロント席のドアハンドル・バックドアロック/アンロックスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

- 車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをACCにした（エンジンスイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとする、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

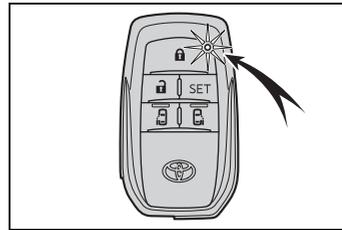
- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・車の外約2m以内に電子キーを10分以上放置した
 - ・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
 - 14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。
- ### ■電子キーを節電モードにするには
- 節電モードに設定すると、電子キーに

よる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消費を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、

 を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.337）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード

- ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・ 金属製の財布やかばん
- ・ 小銭
- ・ カイロ
- ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合
- コインパーキングに駐車しているとき (車両検出用の電波が影響をおよぼす可能性があるため)
- **ご留意いただきたいこと**
- 電子キーが作動範囲内 (検知エリア内) にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められる

おそれがあります。

- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します)
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。(ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できません)
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・ キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く (盗難に注意し保管してください)
 - ・ キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する (→P.101)
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべての

ドアを施錠すると警報は止まります。

- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。
- 電子キーの電池消費を抑えることができます。(→P.101)

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■ 電子キーが正常に働かないとき

- ドアの施錠・解錠 (→P.337)
- エンジンの始動 (→P.338)

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→P.358)

カスタマイズ機能でスマートエントリー

&スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.81, 96, 337)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.338
- エンジンの停止：→P.142

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響について (スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P.100)から約22cm以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

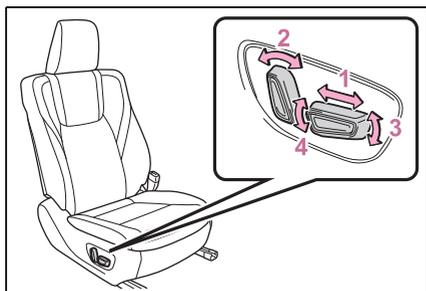
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。(→P.27)

調整するには



- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 クッション前端の上下調整（運転席のみ）
- 4 シート全体の上下調整（運転席のみ）

警告

■シートを調整するとき

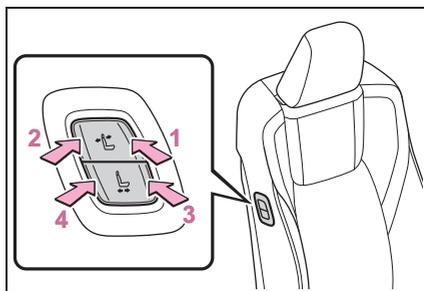
- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転席から助手席を操作するには（助手席側面スイッチ）



- 1 背もたれを前に傾ける
- 2 背もたれをうしろに傾ける
- 3 シートを前方に動かす
- 4 シートを後方に動かす

警告

■運転席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。

足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

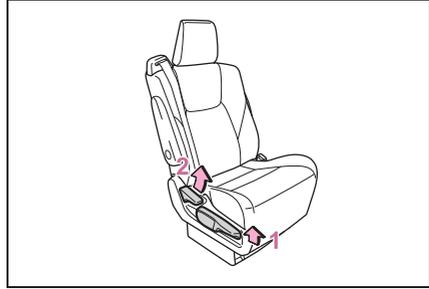
 注意

■ 運転席から助手席を操作するときは
助手席の上や足元に作動をさまたげる
ものがないことを確認してください。
シートに無理な力がかかり故障するお
それがあります。

リヤシート

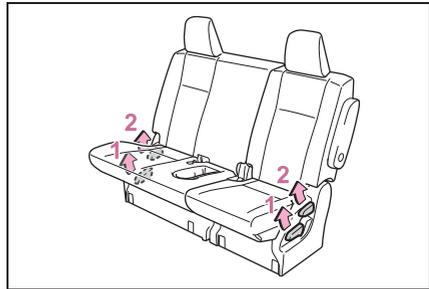
調整するには

- ▶ マニュアルシート（チップアップシートを除く）



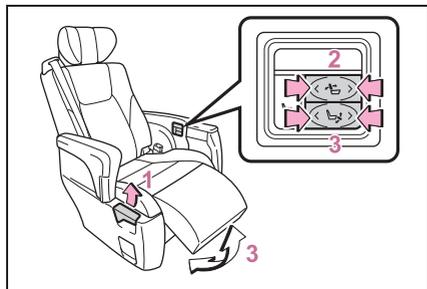
- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整

- ▶ マニュアルシート（チップアップシート）



- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整

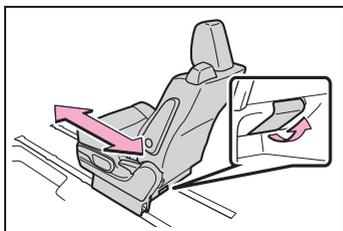
▶ パワーシート



- 1 前後位置調整（手動）
- 2 リクライニング調整（電動）
- 3 オットマン角度調整／格納（電動）

□ 知識

- チップアップシートからサードシートを前後に移動させるには



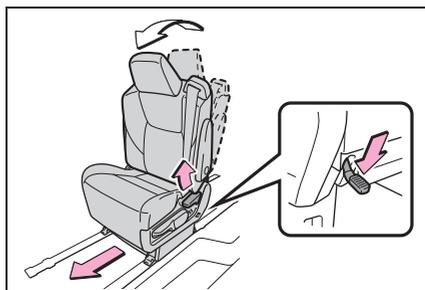
レバーを引き、サードシートを前後に動かします。

サードシート／チップアップシートへ乗り降りするには（マニュアルシート）

- 乗車または降車するときは

リクライニングレバーを引く、または前倒しペダルを踏む

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。シートをいちばん前まで移動させます。



- 乗車または降車したときは

ご希望の位置にシートを動かし、背もたれを起こす

背もたれとシートの位置が固定されます。

サードシートへ乗り降りするには（パワーシート）

- 乗車または降車するときは

- 1 オットマンを格納する（→P.105）
- 2 サイドテーブルを格納する（→P.265）
- 3 **A** または **B** のレバーを引く

背もたれが自動で倒れ、手動でシートを前方に移動させることができます。シートをいちばん前まで移動させます。



- 乗車または降車したときは

ご希望の位置にシートを動かし、背もたれを起こす

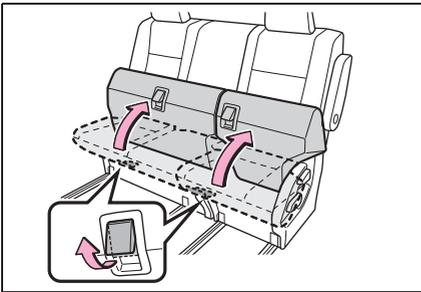
背もたれとシートの位置が固定されます。

シートをチップアップするには (チップアップシート)

シートクッション下部のチップアップレバーを引いてロックを解除し、クッションを持ち上げる

ロックを解除しにくい場合は、クッションを上から押さえながらレバーを引いてください。

クッションをもとの位置にもどすときは、チップアップレバーを引いてクッションを下げてください

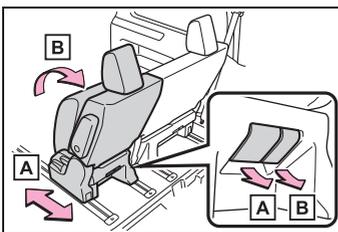


知識

■ チップアップシートをチップアップするとき

→P.259

■ バックドア側からチップアップシートを操作するには



A 前後位置調整

レバーを引いたまま、シートを前後に動かします。

B チップアップ操作

レバーを引くとクッションが自動で持ち上げられます。

警告

■ シート調整について

● 同乗者や荷物などにシートがあたらないよう、ご注意ください。

● 背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● マニュアルシート：シート調整後はシートを軽くゆさばり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

■ サードシート／チップアップシートに乗り降りするとき

● サードシート／チップアップシートへ乗り降りしたあとは、必ず移動させたシートを固定させてください。

● シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

■ 前後調整やオットマン★の操作するとき

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ オットマンを使用するとき（パワーシート）

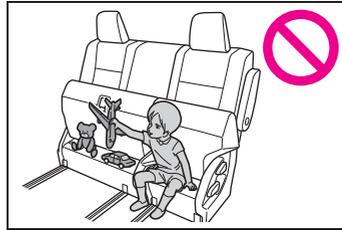
- 走行中は角度調整をしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- オットマン部分に座らないでください。シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オットマンの上には絶対に乗らないでください。オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- つまずいてけがをするのを防ぐため、車に乗り降りする際、オットマンを上げているときは格納してください。
- 格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

■ うしろからセカンドシート／サードシートを操作するとき

セカンドシート／サードシートに乗員がいるときは操作をしないでください。セカンドシート／サードシートの乗員がけがをするおそれがあります。

■ チップアップシート★をチップアップしたときは

チップアップシートをチップアップさせているときに、シートベース部に座ったり、ものを置いたりしないでください。シートクッションとシートベース部の間に挟まれるおそれがあります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■ オットマンの故障を防ぐために（パワーシート）

- 足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを載せないでください。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にもものを挟み破損するおそれがあります。

■ うしろからセカンドシート／サードシートを操作するとき

操作する前に、セカンドシート／サードシートの足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

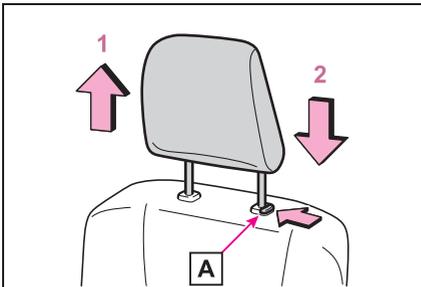
■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

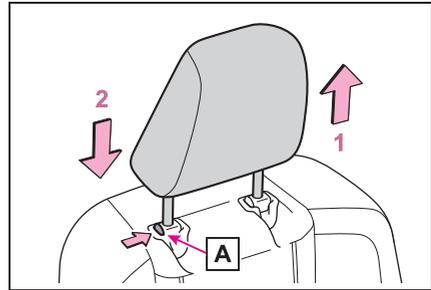
- ▶ 助手席／リヤパワーシートを除く



- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しながらか操作します。

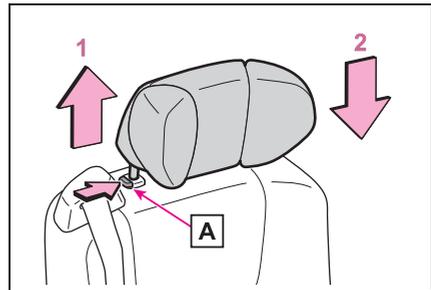
▶ 助手席



- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しながらか操作します。

▶ リヤパワーシート



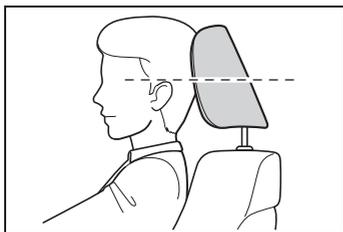
- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しながらか操作します。

☐ 知識

■ ヘッドレストの高さについて

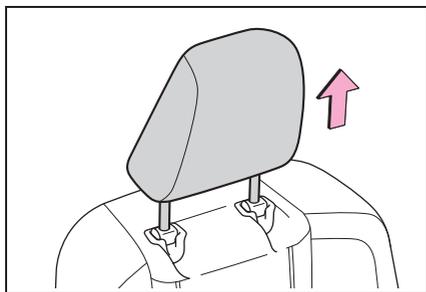
必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



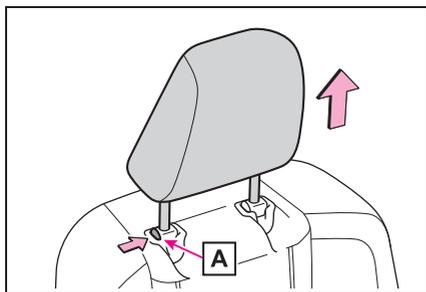
可倒式ヘッドレストを倒すには (助手席)

■ ヘッドレストを倒すとき

- 1 ヘッドレストをロック位置まで引き上げる



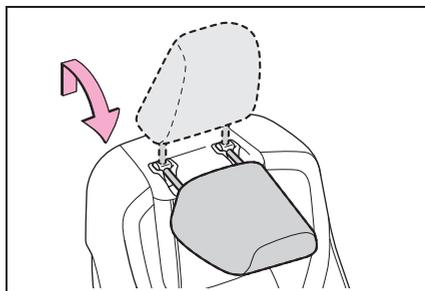
- 2 解除ボタンAを押しながら、ヘッドレストをロック位置から少し引き上げる



- 3 解除ボタンを離し、ヘッドレストをいちばん上まで引き上げたあと、ヘッドレストを持ちながら前へ倒す

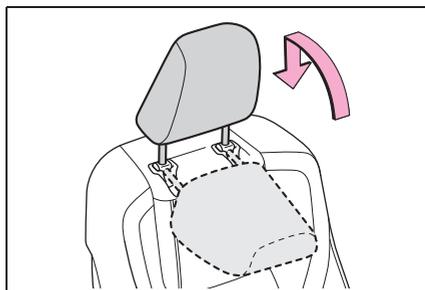
ヘッドレストが天井にあたって倒すこと

ができないときは、シートの位置や角度をかえてください。



■ ヘッドレストを使用するとき

ヘッドレストを起し、ロック位置まで押し下げる



⚠ 警告

■ 可倒式ヘッドレストについて

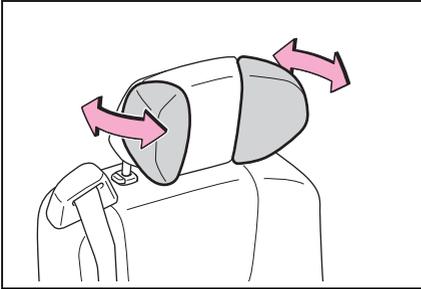
次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストを倒したまま助手席に人を乗せて走行しない
- 人を乗せるときは、必ず走行前にヘッドレストを起こして正しい位置に調整する
- ヘッドレストを倒すときは、助手席に人が乗っていないことを確認する
- ヘッドレストを倒すときやもどすときは、ヘッドレストを持って操作する

警告

- ヘッドレストを倒すときやもどすときは、動いている部分に手を近づけない

サイドサポートを調整するには (リヤパワーシート)

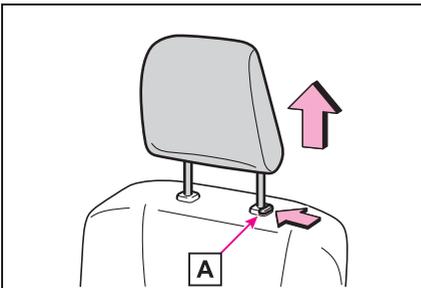


ヘッドレストを取りはずすには

- ▶ 助手席／リヤパワーシートを除く

解除ボタン **A** を押しながらヘッドレストを引き上げる

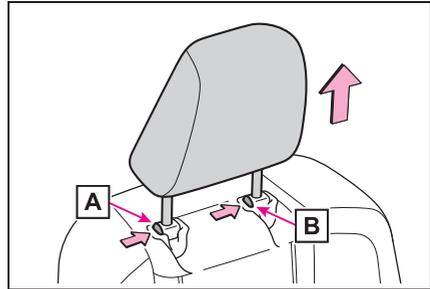
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さ（運転席のみ）・位置・角度をかえてください。（→P.104）



- ▶ 助手席

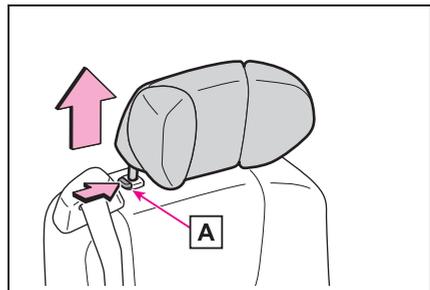
解除ボタン **A** と **B** 両方を押しながらヘッドレストを引き上げる

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの位置や角度をかえてください。（→P.104）



- ▶ リヤパワーシート

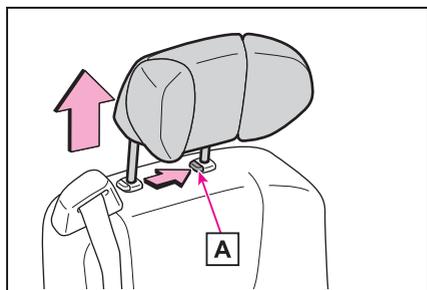
1 解除ボタン（右側）**A** を押しながらヘッドレストをいちばん上まで引き上げる



2 ヘッドレストを引き上げながら取りはずしボタン（左側）**A** を押し、ヘッドレストを取りはずす

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの位置や角度を

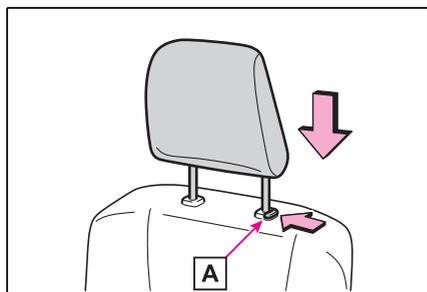
かえてください。(→P.105)



ヘッドレストを取り付けるには

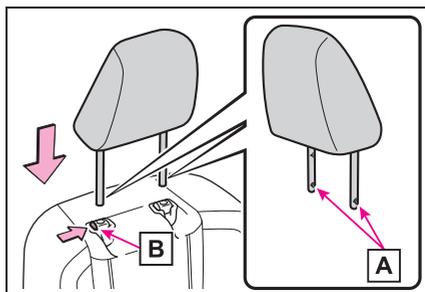
- ▶ 助手席／リヤパワーシートを除く

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる。さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作する。



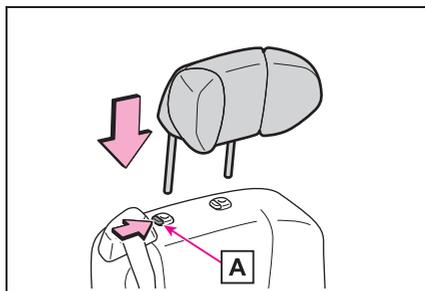
- ▶ 助手席

ヘッドレストの両方のステーに溝 **A** があることを確認し、ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる。さらに下げるときは、解除ボタン **B** を押しながら操作する。



- ▶ リヤパワーシート

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる。さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押し下げながら操作する。

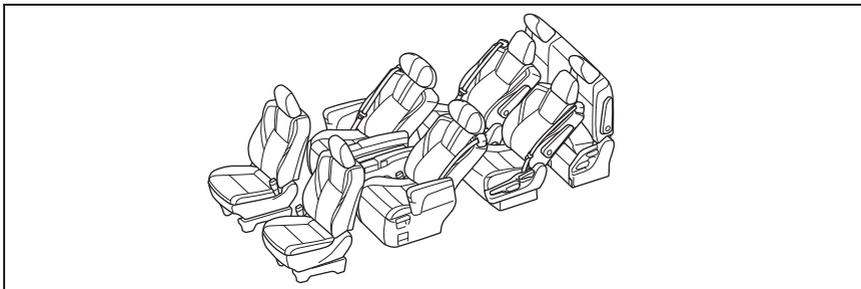


シートアレンジ

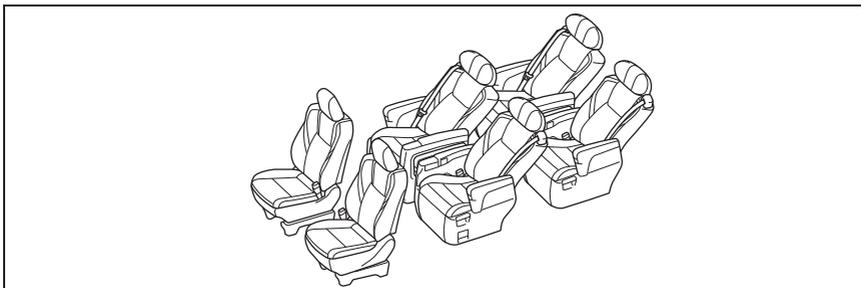
シートアレンジ

■ リラックスモード (→P.114)

▶ チップアップシート装着車

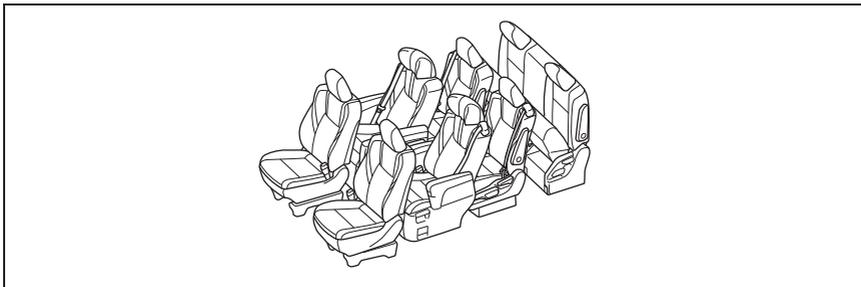


▶ チップアップシート非装着車

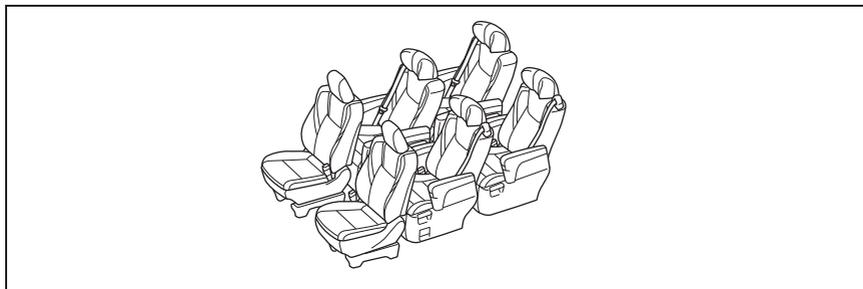


■ 荷室モード (→P.114)

▶ チップアップシート装着車



▶ チップアップシート非装着車

**リラックスモード**

- 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
- 2 チップアップシート装着車：チップアップシートをチップアップさせる（→P.107）
- 3 チップアップシート装着車：チップアップシートをいちばんうしろまで移動させる（→P.105）
- 4 チップアップシート装着車：チップアップシートのスライドストッパー（→P.114）を取りはずす
- 5 サードシートをいちばんうしろまで移動させる（→P.105）
- 6 セカンドシートをうしろに移動させる（→P.105）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

荷室モード

- 1 車を安全な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかける
- 2 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→P.105）

- 3 サードシートのスライドストッパー（→P.114）を取りはずす
- 4 サードシートをいちばん前まで移動させる（→P.105）
- 5 チップアップシート装着車：チップアップシートのスライドストッパー（→P.114）を取りはずす
- 6 チップアップシート装着車：チップアップシートをチップアップさせる（→P.107）
- 7 チップアップシート装着車：チップアップシートをいちばん前まで移動させる（→P.105）

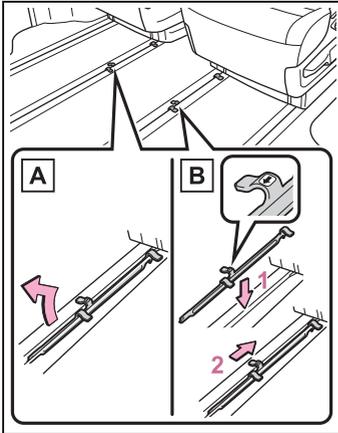
シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

 **知識**

■スライドストッパーについて

- サードシートの足元・チップアップシートの足元に、スライドストッパーがあります。これはシートをスライドさせたとき、誤って乗員がシートとシートのあいだに足を挟まないようにするために取り付けられています。
- スライドストッパーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくこと

をおすすめします。(→P.328)



A 取りはずし

B 取り付け

- 1 スライドストッパーをシートレールに入れる。
- 2 スライドストッパーが止まるまで、後方へ移動させる。
スライドストッパーを軽く揺さぶり、動かないことを確認する。

警告

■ シートアレンジについて

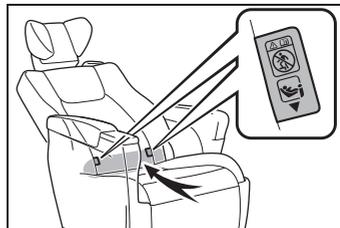
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にシートアレンジ操作をしない
- 平坦な場所でシフトレバーをPに入れて、パーキングブレーキを確実にかける
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしない
- 操作をするときに可動部や結合部に手足を挟まないように注意する

- シートが乗員や荷物にあたらないように注意する
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認する
- シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認する
- ラゲージルームに人を乗せて走行しない
- ラゲージルームにお子様を乗せない
- シートを移動しないときはスライドストッパーを取りはずさない

■ 背もたれを大きく倒れているとき

リラクスマードなどで背もたれを大きく倒したときは、ISOFIX ロアアンカレッジの周辺に乗りしないでください。けがをするおそれがあります。



■ シートをもとにもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認する

**■ シートアレンジについて**

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

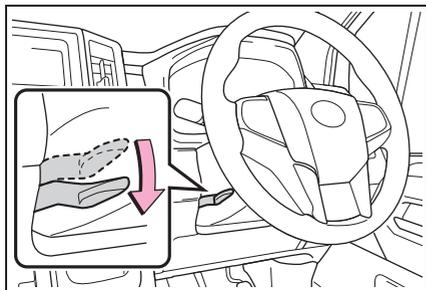
■ スライドストッパーについて

スライドストッパーは必ず正しい向きで取り付けてください (→P.114)。逆向きで取り付けられた状態でシートをスライドさせると、レール部やストッパーなどが破損するおそれがあります。

ハンドル

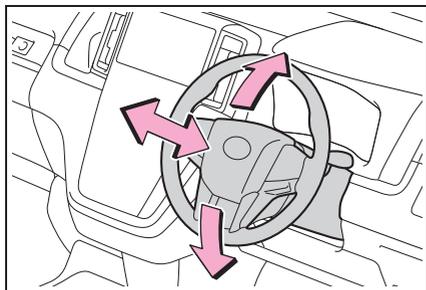
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下・前後に動かして、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

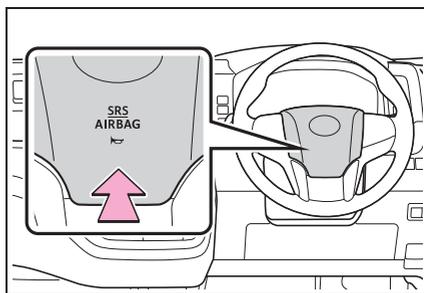
■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができるため、優れた後方視認性を確保できます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

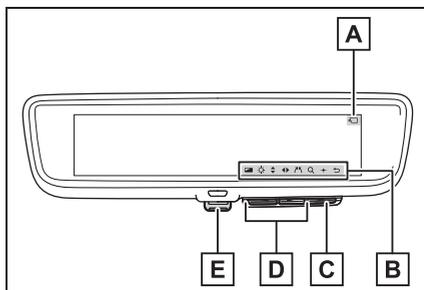
警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.119)
- ・ 鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
- ・ デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



A カメラインジケータ

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン(→P.119)などが表示されます。

C メニュー／決定スイッチ

調整アイコンの表示や、項目の決定を行います。

D 選択スイッチ

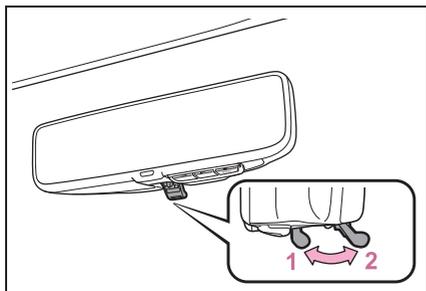
調整アイコンの選択や、ディスプレイ表示の調整を行います。

E 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに  が表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



知識

■ デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

エンジンスイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■ デジタルミラーモードについて

- ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴や雪が付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 映像の色と実際の色が異なって見える
 - ・ 後続車のライトの高さなどによっては、

- 後続車の周囲が白くぼやけて見える
- ・ 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

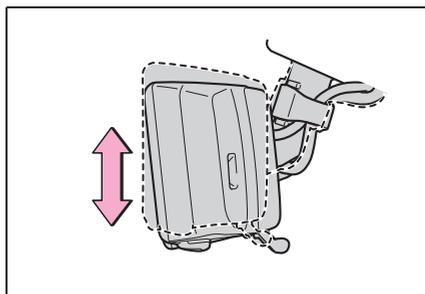
- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わずらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

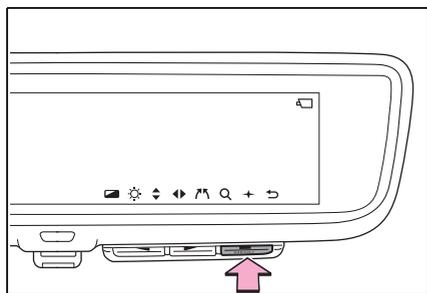
鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



■ ディスプレイの調整 (デジタルミラーモード)

デジタルミラーモードの調整や機能の ON / OFF ができます。

- 1 メニュー／決定スイッチを押す
調整アイコンが表示されます。



- 2 選択スイッチの  または  を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

- 3 選択スイッチの  または  を押して設定を変更し、メニュー／決定スイッチを押す

 と  の ON / OFF を選択するときは、選択スイッチの  または  を押して  (ON) または  (OFF) にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押します。

- 4 選択スイッチの  または  を押して  にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	自動防眩機能の ON / OFF を切りかえることができます。* ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 エンジンスイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。

調整アイコン	設定内容
🔍	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
✦	<p>PLS モードの ON / OFF を切りかえることができます。</p> <p>ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑え、ディスプレイが見えにくくなることを防止します。(デジタルミラーモードで使用時)</p> <p>PLS モードが ON のときはディスプレイ左上に ✦ が表示されます。</p>

※ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

■ 自動防眩機能の ON / OFF 切り換え (鏡面ミラーモード)

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON / OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

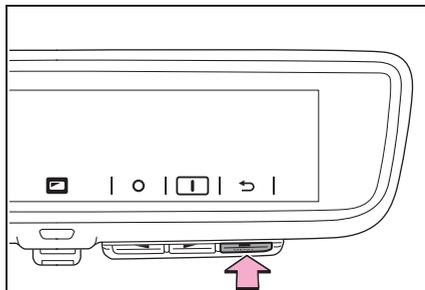
▶ デジタルミラーモード使用時

→P.119

▶ 鏡面ミラーモード使用時

1 メニュー／決定スイッチを押す

設定画面が表示されます。



2 選択スイッチの  または  を押して  (ON) または  (OFF) にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

設定画面の表示が消えます。

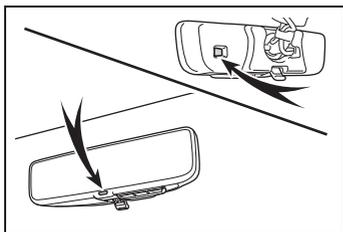
📖 知識

■ ディスプレイの調整について (デジタルミラーモード)

- 約 10 秒以上スイッチを操作しなかったときは、調整アイコンの表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわりません。

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

● 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなる場合があります。あらかじめ、乾いたやわらかい布

などで汚れをそっとふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

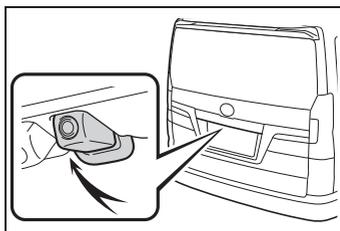
カメラに水滴・雪・泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。

カメラ洗浄用のウォッシャーを動作させることで、カメラレンズの汚れを洗浄することができます。(→P.158)

📖 知識

■ カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



■ ウォッシャー液によるカメラ洗浄について

- カメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液により、映像が見えにくくなる場合がありますので、周囲の状況に注意して運転してください。
- カメラ洗浄後にウォッシャー液がカメラレンズ面に残った場合、夜間に後方車両のヘッドライトの高さや傾きにより、映像が見えにくくなる場合があります。この場合、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- カメラ洗浄をしても、汚れによっては

完全にきれいにならない場合があります。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

- カメラ洗浄は、カメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、カメラ周辺に付着した氷や雪などの映り込むものについては、洗浄することができません。

注意

■ デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

ミラー本体の取り外し・分解・改造はしないでください。

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

- ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取りつけ角度がずれるおそれがあります。
- ・ カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。

- ・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。

カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

- ・ カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

- ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

- ・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間など暗いところで使用した ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・ カメラ付近の温度が高い、または低い ・ 外気温が低い ・ 雨天時など湿度が高い ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・ 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ・ 排気ガスが映り込んでいる 	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 (カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください)
	カメラのレンズに水滴・雪・泥など異物や汚れが付着している	<ul style="list-style-type: none"> ・ カメラ洗浄用のウォッシャーを作動させ、カメラレンズの汚れを洗浄してください。(→P.158) ・ 鏡面ミラーモードに切りかえてください。 ・ 大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に  が表示され、 ディスプレイに表示される映像が暗くなった ディスプレイ上の  が消灯した	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に  が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い (徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます)	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 (ミラーの温度が下がると  が消えます) ミラーの温度が下がっても  が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 (メニュー／決定スイッチを約10秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます)

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.241)

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

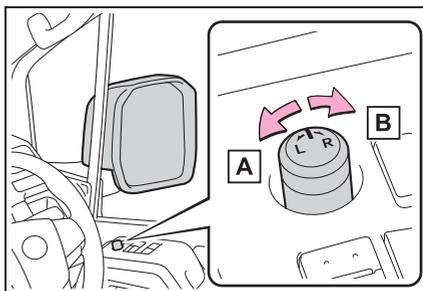
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーヒーターが作動しているとき
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整するには

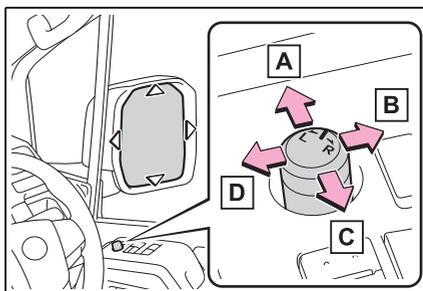
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左

B 右

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

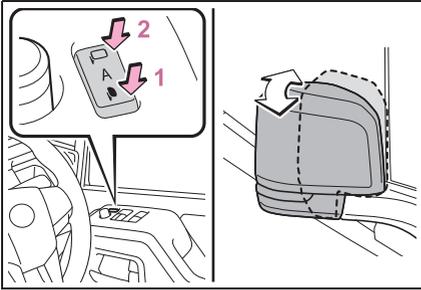
D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

ドアミラーを格納・復帰するには



- 1 ミラーを格納する
 - 2 ミラーをもとの位置にもどす
- スイッチを中立の位置（“A”）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

■ 寒冷時にオート作動で使用するとき

寒冷時にオート作動で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

オート作動の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.358）

警告

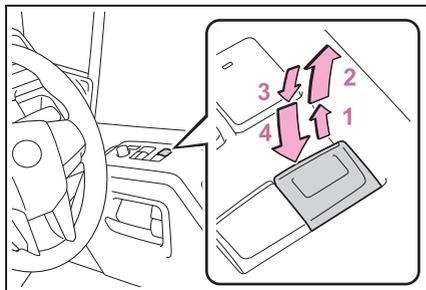
■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、自動でドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しくなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれ

ると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切ら

ない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

● メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。^{*} (→P.337)

● ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。^{*} (→P.81)

^{*} トヨタ販売店で設定が必要です。

■ 窓開警告機能

エンジンスイッチがOFFでドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.358)

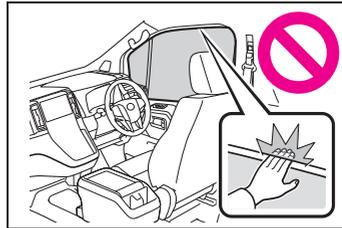
警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

● 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.130)

● ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



● ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

● 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

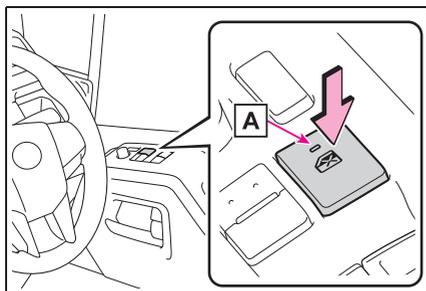
警告**■巻き込み防止機能**

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケータ—**A** が点灯し、助手席のドアガラスが非作動になります。

**知識****■作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	132
荷物を積むときの注意	138

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ	140
オートマチックトランスミッション	144
方向指示レバー	147
パーキングブレーキ	148

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	149
AHB（オートマチックハイビーム）	152
フォグランプスイッチ	154
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	156
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	158

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	160
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	162
PCS（プリクラッシュセーフティ）	166
LDA（レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]）	173
RSA（ロードサインアシスト）	180
レーダークルーズコントロール	183
先行車発進告知機能	191
Stop & Start システム	192

BSM（ブラインドスポットモニター）	198
クリアランスソナー	202
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	210
パーキングサポートブレーキ（静止物）	216
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	219
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	220
運転を補助する装置	226
AUTO LSD	230
排出ガス浄化装置	231

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	235
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンを始動する

→P.140

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする (→P.144)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→P.148)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける (→P.148)

長時間停車する場合は、シフトレバーをPまたはNにします。(→P.144)

■ 駐車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.148)、シフトレバーをPにする (→P.144)
- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め (→P.327) を使用してく

ださい。

■ 上り坂で発進する

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します (→P.226)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行しているとき
- アクセルペダルを離したとき
- エンジン出力の抑制について (ブレーキオーバライドシステム)
- アクセルペダルとブレーキペダルが同

時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.325)

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は S ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→P.226）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。
- AUTO LSD が作動しているときは、ドライブスタートコントロールは作動しません。(→P.230)

■ 運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ エンジン停止前のアイドリング運転について

ターボ装置の損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドリング運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約 1 分

■ 環境に配慮した運転

→P.69

■ 路面状態の悪い泥水路を走行したあとは

尿素水インジェクターの冷却フィンに詰まった異物（泥や木の葉）を取り除いてください。

必要に応じてトヨタ販売店にご相談ください。

▲ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

警告

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.308 を参照してください。

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.144)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・デジタルインナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- すべりやすい路面を運転するとき
- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

 **警告****■ シフトレバーを操作するとき**

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたりしたままにしておく、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

- 車から離れるときは、必ずシフトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけて、エンジンを停止し、施錠してください。エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

注意

■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。(→P.133)
- 排気管・エアクリーナなどには純正部品または同等品をお使いください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- 極寒の環境では、エンジン始動後に30秒以上アイドリング運転を行ってください。また、アイドリング運転中は空ぶかしをしないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。(→P.350)

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.326を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合

 注意

- エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかつたり、荷物が視界をさえぎつたり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物は荷室に積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージスペースに積まないでください。
- 寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- 荷室に人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

 **警告**

● 次の場所には荷物を積まないでください。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

● 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ **荷物の重量・荷重のかけ方について**

● 荷物を積み過ぎないでください。

● 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.148）
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。表示されないと、エンジンは始動しません。
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

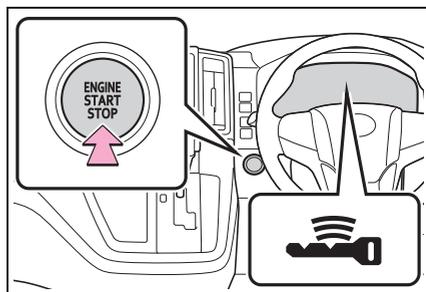
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

（予熱表示灯）が点灯後消灯したらエンジンが始動します。

エンジンスイッチのどのモードからでも

エンジンを始動できます。



知識

■ 電子キーの検知に関する留意事項

電子キーはポケットなどに携帯してください。

電子キーがフロア上、ダッシュボード上、オープントレイ内、カップホルダー内、荷室内などにあるときは、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しません。（作動範囲：→P.100）

■ エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.55）
トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.339を参照してください。

■ 電池の消耗について

→P.78

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

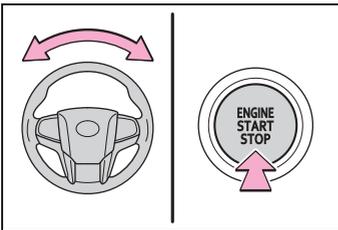
→P.101

■ご留意いただきたいこと

→P.102

■ステアリングロック機能

- エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。
- ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに“ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください”が表示されます。シフトレバーがPの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを短く確実に押してください。



- 短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10秒程度でもとの状態にもどります。

■スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池交換

→P.296

■エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.337を参照してください。

▲警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲注意

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

⚠ 注意

- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて（→P.148）、シフトレバーをPの位置にする（→P.144）
- 3 エンジンスイッチを短く確実に押す
- 4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”や“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

⚠ 警告

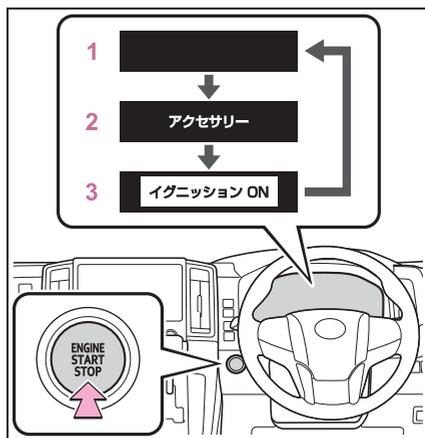
■ 緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→P.308）ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、エンジンスイッチを押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



1 OFF*

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。マルチインフォメーションディスプレイに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに“イグニッション ON”が表示され

ます。

※ シフトレバーが P 以外ときは ACC になり、OFF になりません。

知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上 ACC か 1 時間以上 ON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“イグニッション ON”の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに“アクセサリー”が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを短く確実に 1 回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチが ACC になるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 *1
S	S モード走行 *2 (→P.146)

*1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

*2 S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションに比べエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に S モード走行中に 5 または 4 レンジにシフトダウンしても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。(→P.183)

■ オートマチックトランスミッション保護機能

ぬかるみや砂地・雪道などでスタックしてタイヤが空転する状態が続くとときや、走行時にアクセルペダルをくり返し踏んだり離したりする状況が続くと、トランスミッションが高温になり損傷するおそれがあります。

このとき、トランスミッションが損傷ないように、ギヤが一時的に固定される場合があります。

トランスミッションの温度が下がるとギヤの固定は解除され、通常作動に戻ります。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.133

■ AI-SHIFT

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

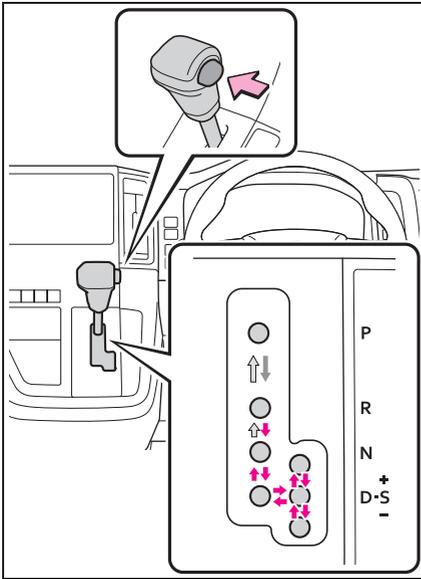
AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているとき自動的に作動します。(シフトレバーを S にすると機能が解除されます。)

警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチが ON の

状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押しながら操作します。*

← シフトレバーのボタンを押

しながら操作します。

← シフトレバーのボタンを押

さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

* シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを最初に押してもシフトロックは解除されません。

知識

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

エンジンスイッチが ON でブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

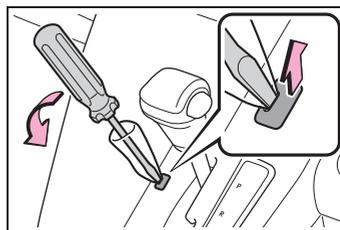
ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

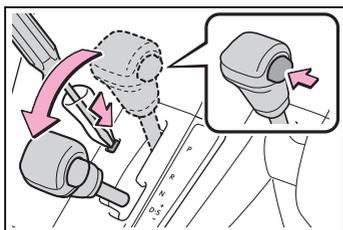
- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

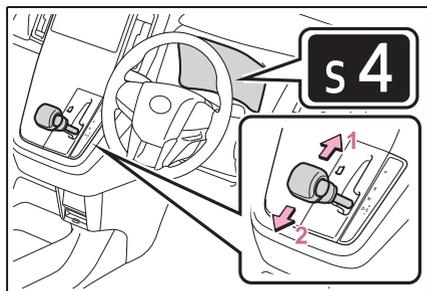
■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Sモードでのシフトレンジ選択

シフトレバーをSポジションにすると、Sモードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりのシフトレンジを選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

1～6レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

Sポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて5または4レンジに設定されます。

ただし、DポジションにてAI-SHIFT制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが3レンジになる場合があります。

(→P.144)

■シフトレンジ機能

- 車速と走行状況によって、1～6速を自動的に選択します。しかし、選択したシフトレンジによってギヤは制限されます。
- エンジンプレーキ力は、6段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、エンジンプレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■Sモードについて

- 4レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると6レンジに設定されます。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします

■シフトダウン制限警告ブザー

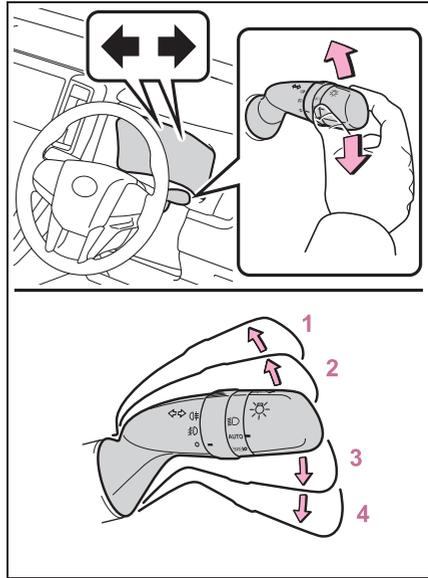
安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

- シフトレバーをSにしても、シフトポジション表示がSにならないとき

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

方向指示レバー

操作のしかた



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

- 3 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

- 4 右折

知識

■ 作動条件

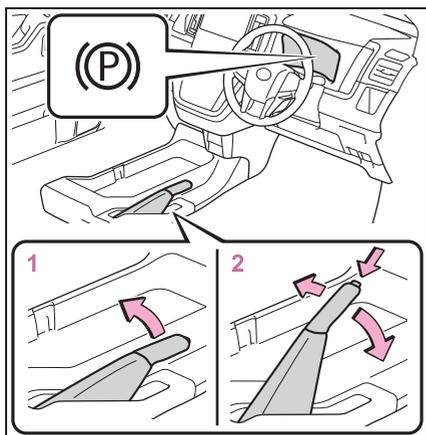
エンジンスイッチがONのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

各方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた



1 パーキングブレーキをかける

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引いてください。

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 パーキングブレーキを解除する

レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどします。

パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

知識

■ 駐車するとき

→P.132

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P.319

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.235

⚠ 注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

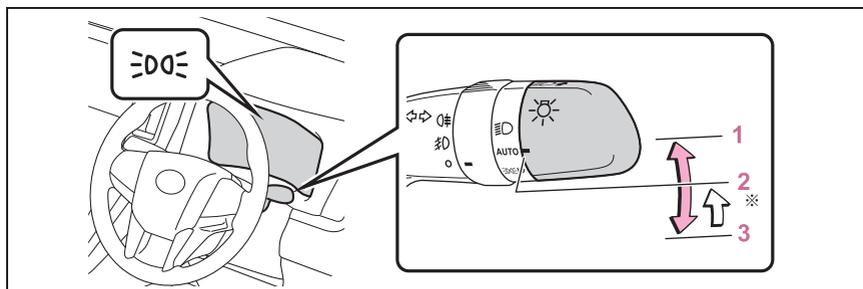
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO※ ¹	LED デイライト (→P.150) が点灯	ヘッドライト・スモールランプが点灯
3  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

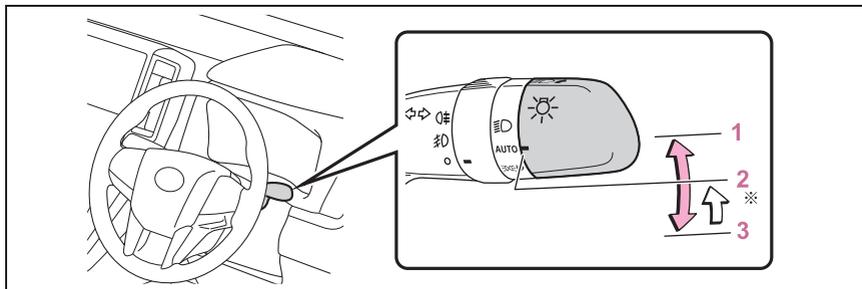
※¹ 操作するたびに、**2** AUTO による点灯状態と **3**  による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2** AUTO による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

 スイッチを **3**  の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1** か **3** の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを **3** の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTOの位置へ戻ります。

点灯状態		
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト (→P.150) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■ AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ LED デイライト機能

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

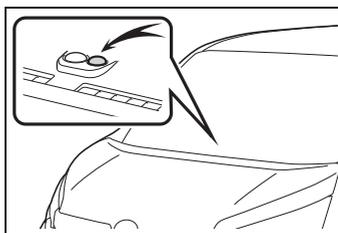
■ 自動で点灯 / 消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯 / 消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、セン

サーをふさぐようなものをフロントウィンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを ACC または OFF にしてバックドアを除くいずれかのドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または

 の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態でエンジンスイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが ACC または OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

エンジンスイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。*

* トヨタ販売店での設定変更が必要です。

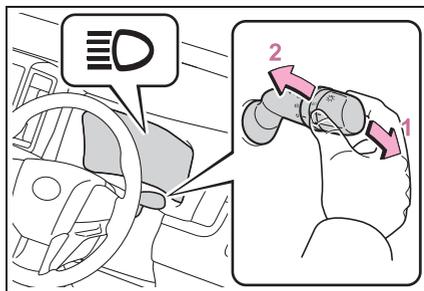
■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.359)

⚠ 注意

■ **バッテリーあがりを防止するために**
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AHB (オートマチックハイビーム)

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

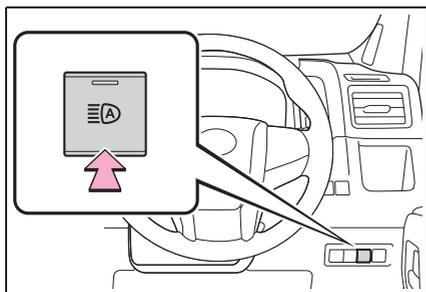
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

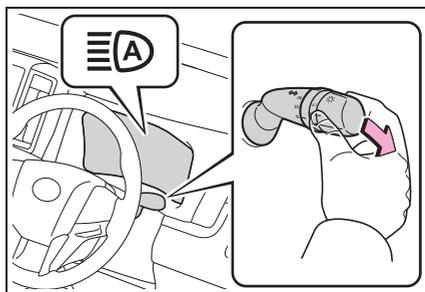
オートマチックハイビームを使うには

- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す



- 2 ランプスイッチをAUTOまたは  にし、レバーを前方へ押す
オートマチックハイビームが作動すると、

AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ 前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ 前方カメラが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき

- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

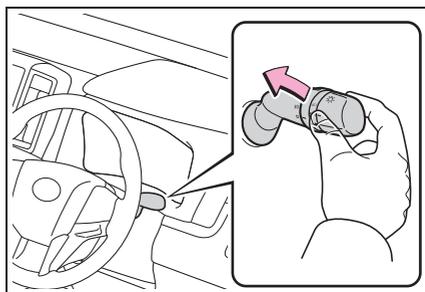
手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押しします。

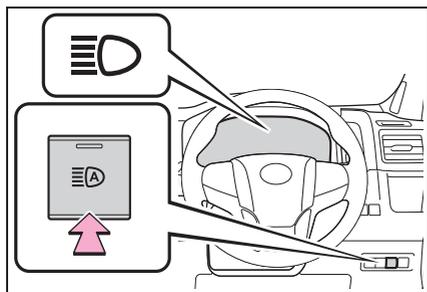


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。

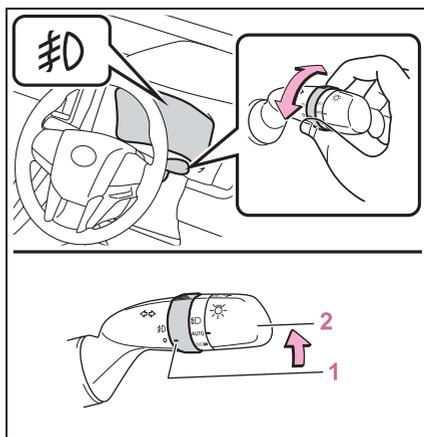


フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

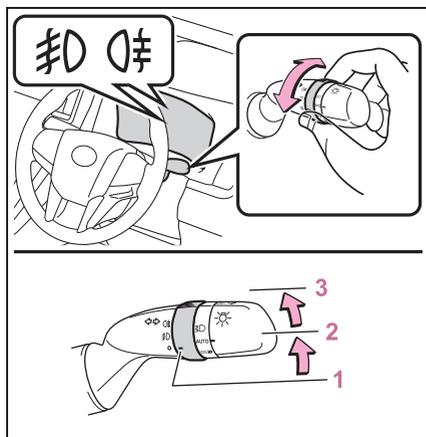
操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車



- 1 ○ 消灯する
- 2 ㊦ 点灯する

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



- 1 ○ 消灯する
- 2 ㊦ フロントフォグランプを点灯する
- 3 ㊧ フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ㊦ の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

□ 知識

■ 点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ★：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■ リヤフォグランプ★について

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後

続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー&ウォッシャー (フロント)

レバー操作で、ワイパーの作動を自動/手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

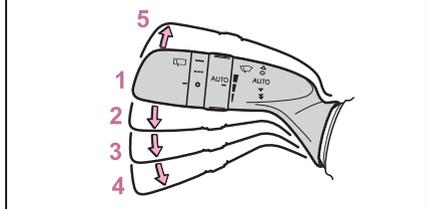
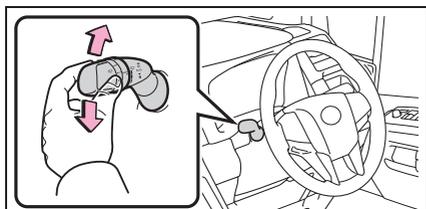
⚠ 注意

■ フロントウィンドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

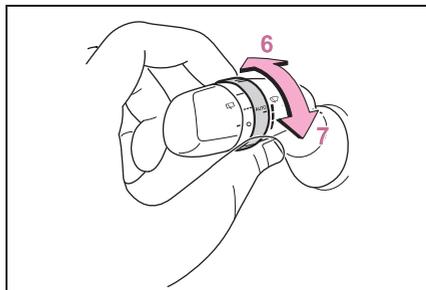


- 1 ○ 停止
- 2 AUTO 雨滴感知オート作動 (AUTO)
- 3 ▼ 低速作動 (LO)
- 4 ▼ 高速作動 (HI)

5 △ 一時作動 (MIST)

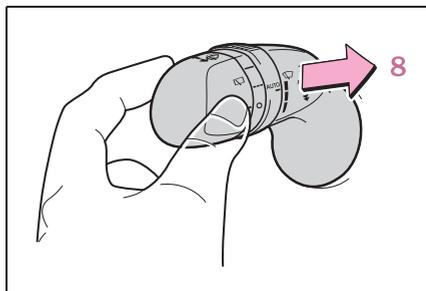
AUTO を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

AUTO が選択されているときは、次のようにつまみをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整 (高)

7 雨滴センサーの感度調整 (低)



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。)

エンジンスイッチがONの状態でもヘッドランプが点灯しているとき、5回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

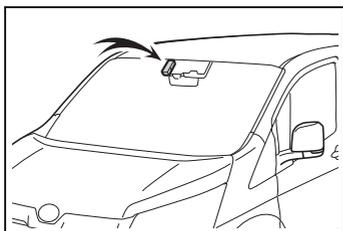
■ 車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ 雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたる時や、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- エンジンスイッチが ON のときに AUTO を選択すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 90 °C 以上または - 15 °C 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO 以外を選択してワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ ドア開連動ワイパー停止機能

AUTO 選択中、シフトレバーが P の位置にある状態でワイパーが作動していると

きにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■ 走行中にエンジンを緊急停止したときは

エンジンを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にエンジンスイッチを ON にすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

警告

■ AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

⚠ 注意

■ ノズルがつまったらときは

ノズルがつまったらときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

■ 雨滴感知センサー

フロントウインドウガラスに撥水コーティングを行うと雨滴感知センサーが雨滴量を正確に感知できず、オート作動が正常に作動しないことがあります。

ワイパー&ウォッシャー (リヤ)

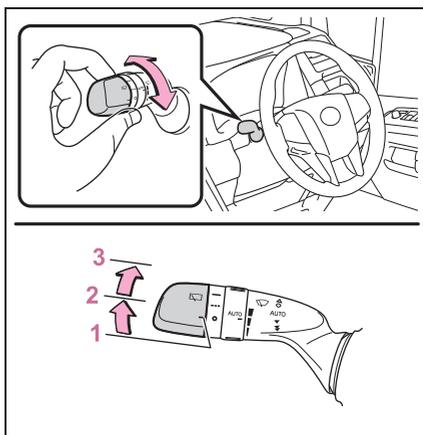
⚠ 注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているときは

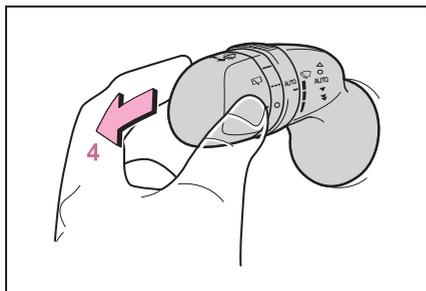
ワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



- 1 ○ 停止
- 2 --- 間欠作動
- 3 — 通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押しとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。デジタルインナーミラー（→P.122）を洗浄するウォッシャーも同時に作動します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。*

* トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが ・・ で作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトレバーを R の位置にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.359）

注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチをOFFにしてください。
- 燃料の種類を確認してください。



知識

燃料の種類について

超低硫黄軽油（S10ppm 以下）



警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。



注意

■ 給油するとき

指定の軽油を使用してください。指定以外の軽油や他の燃料（粗悪ガソリン・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

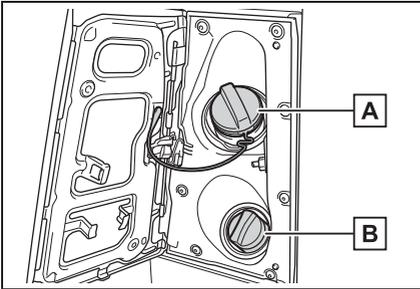
⚠ 注意

- 排出ガス浄化装置が正常に機能しない

指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

- ※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

給油口の位置



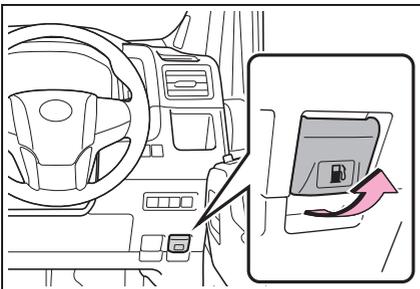
A 給油口

B AdBlue[®] 補給口 (→P.278)

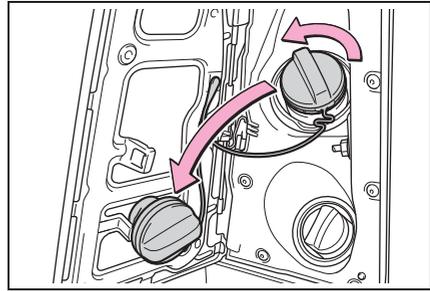
給油口の開け方／閉め方

■ 給油口を開けるには

- 1 オープナーを引いて、給油扉を開く



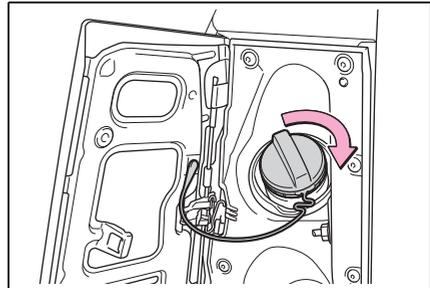
- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



■ 給油口を閉めるには

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
→P.166
- LDA（レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]）
→P.173
- AHB（オートマチックハイビーム）
→P.152
- RSA（ロードサインアシスト）
→P.180
- レーダークルーズコントロール
→P.183
- 先行車発進告知機能
→P.191

⚠ 警告

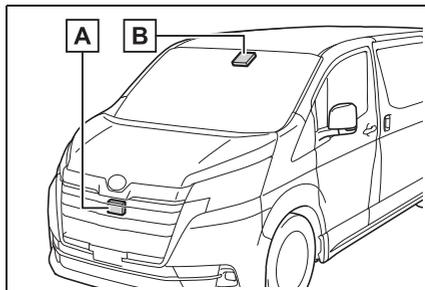
■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

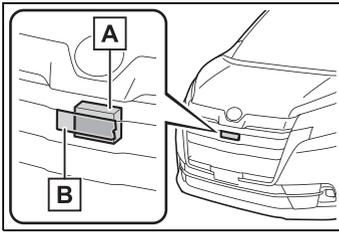
⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

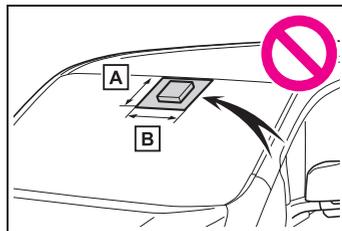
- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
 - ・ フロントバンパーを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
A：フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで
B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



 **警告**

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.241）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない



知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

- 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.241）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のと	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
	特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

状況	対処法
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ現在使用できません”が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

- 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のと
 - ・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
 - ・ 車両周囲の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
- その場合には “プリクラッシュセーフ

ティ現在使用できません”が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.166）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティのON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.168）

システムの作動対象

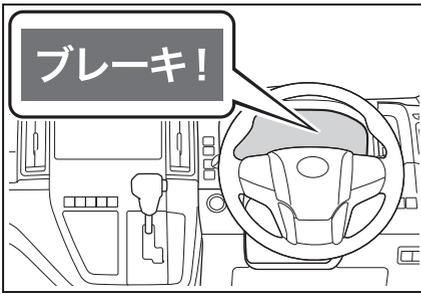
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき：
→P.170

- ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.171

- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模した物など）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたりと、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

警告

- ブリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。
- **ブリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

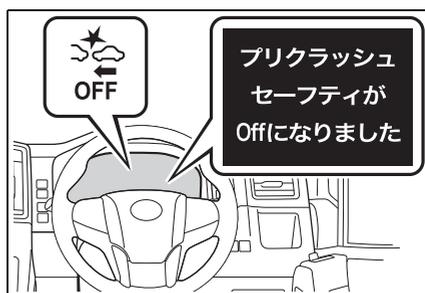
ブリクラッシュセーフティの設定変更

■ ブリクラッシュセーフティの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.355) から、ブリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

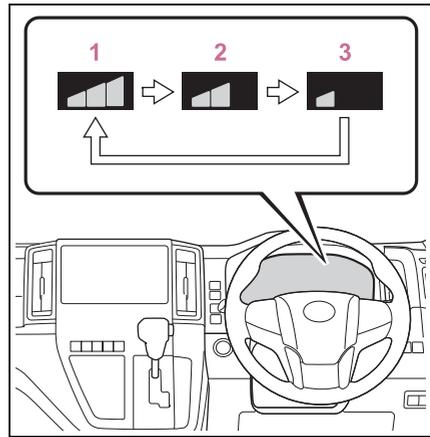


■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.355) から、衝

突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると “中間” に戻ります。



- 1 早い
- 2 中間
初期設定
- 3 遅い

知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

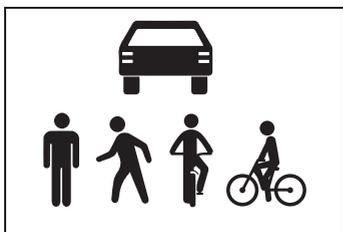
ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.171）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



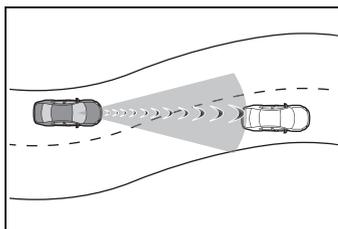
■ ブリクラッシュブレーキの作動解除

ブリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、ブリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

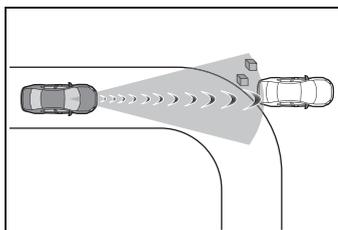
- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

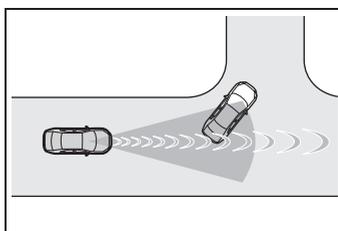
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
 - ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
 - ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
 - ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



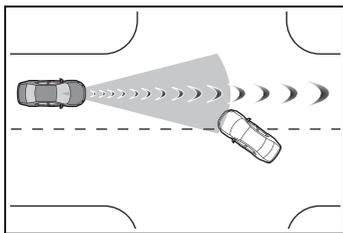
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



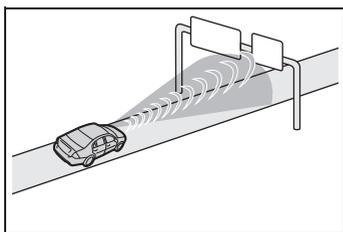
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつかにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



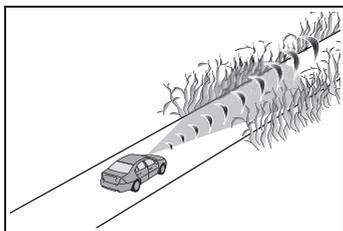
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



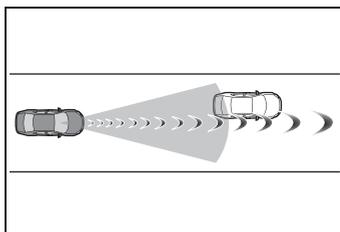
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行すると

き

- ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

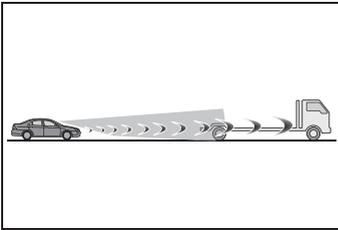
■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき

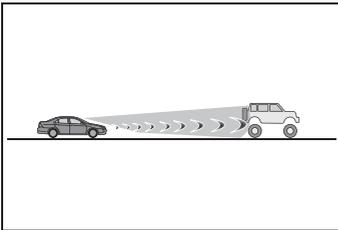


- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき

- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

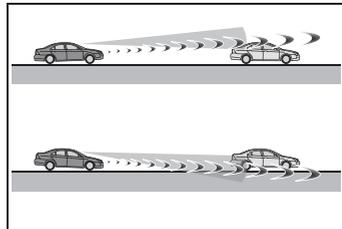


- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラックター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロン

- グスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき
- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

- ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
- ・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■ VSC を停止したとき

- VSC の作動を停止（→P.227）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します”が表示されます。

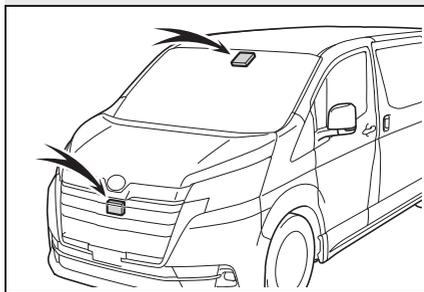
LDA（レーンディパーチャアラート※【ヨーアシスト機能付き】）

※ 車線逸脱警報

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるための進路修正の一部を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



⚠ 警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

警告

- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

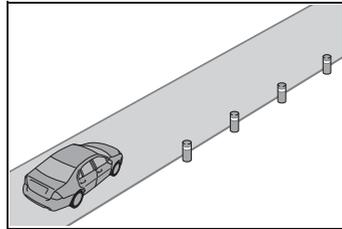
■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルパー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

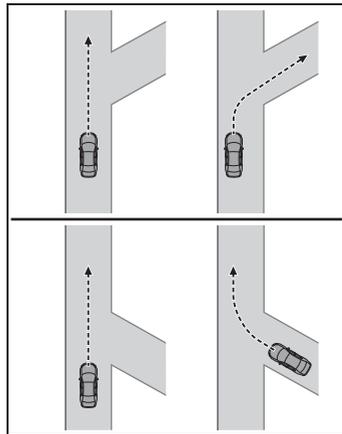
■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）

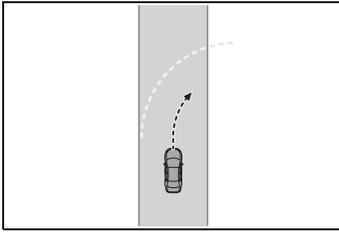


- 分岐・合流路などを走行するとき



警告

- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき

LDAに含まれる機能

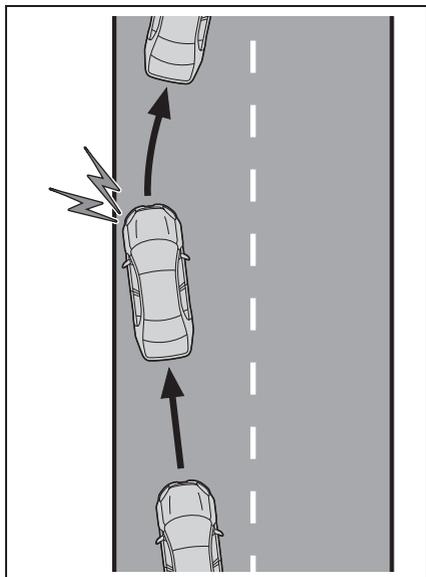
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたは

ハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白(黄)線または走路※内の中央付近にもどってください。

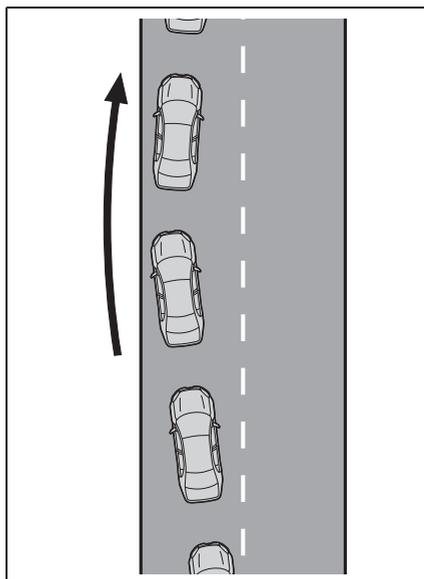
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ 車線逸脱抑制機能 (ヨーアシスト機能)

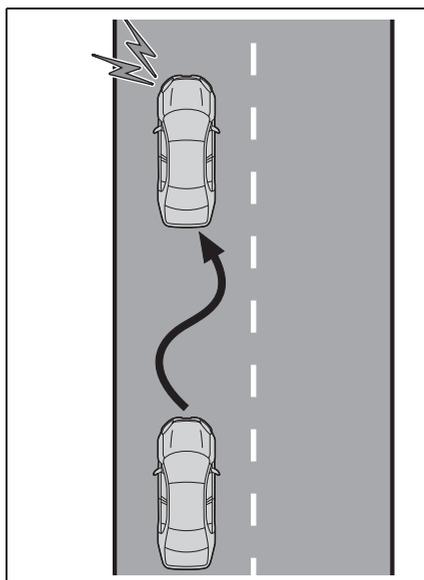
車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、ブレーキを作動させて、車線からの逸脱を避けるために必要な進路修正の一部を支援します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



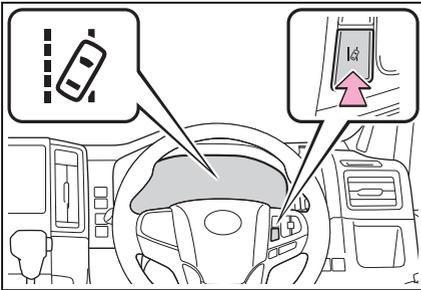
設定のしかた

LDAスイッチを押すごとにLDAのON / OFFが切りかわります。

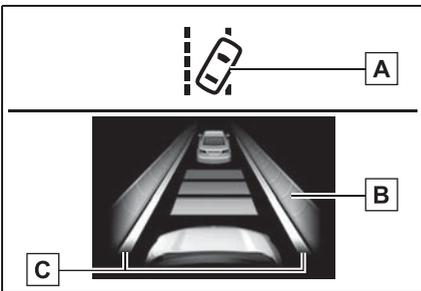
LDAをONにするとLDA表示灯が白色に点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

LDAをOFFにするとLDA表示灯が橙色に点灯します。

エンジンスイッチをONにするたびにLDAはONになります。



マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：ヨーアシスト機能が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

橙色に点灯：LDA OFF 時、LDA システム異常時または LDA システム一時使用不可時

B ヨーアシスト機能の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

ヨーアシスト機能が作動中であることを示しています。

C 車線逸脱警報機能表示

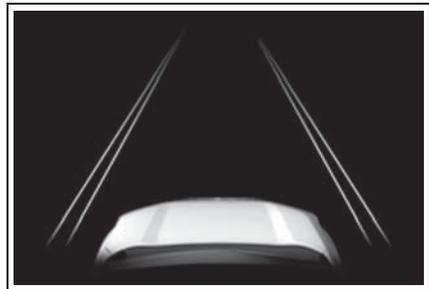
マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路[※]を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路[※]を認識できていない、またはシステムが一時

的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白(黄)線または走路※を認識しているとき(白[黄]線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します)
- ・ 車線の幅が約 3 m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき(→P.179)

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイので“ヨーアシスト”を“ON”に設定しているとき(→P.355)
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCSが作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイ

ので“ふらつき検知”を“ON”に設定しているとき(→P.355)

- ・ 車速が約 50 km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3 m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき(→P.179)

■機能の一時解除

- 作動条件(→P.178)が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱抑制機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- この機能によるヨーアシストは、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

- 車線逸脱抑制機能作動中に、ブレーキペダルを踏んだとき、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■車線逸脱警報機能について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- “LDA 故障販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “LDA 現在利用できません”
 - ・ 前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。
いったん LDA を OFF にして、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください。
 - ・ 短時間に車線または走路[※]からの逸脱を繰り返したため、システムが一時停止しています。エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。

- “LDA 現在の車速では使用できません”

車速が LDA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

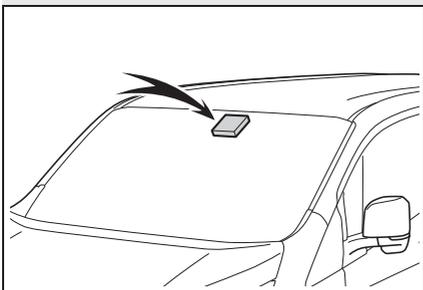
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
(カスタマイズ一覧：→P.360)

RSA (ロードサインアシスト)

前方カメラを使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。

⚠ 警告

■ RSA をお使いになる前に

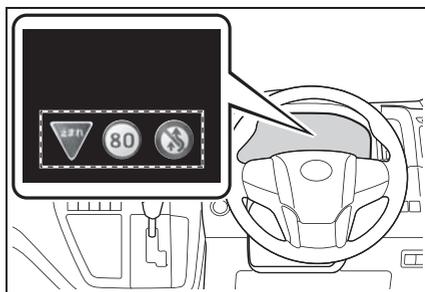
RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラによって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

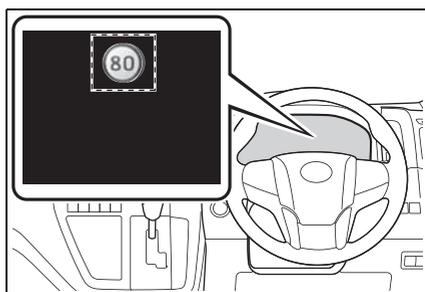
● 運転支援機能情報表示画面を選

択したときは、最大 3 つの標識を表示できます。(→P.67)



● 運転支援機能情報表示画面以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。

- ・ 最高速度標識
- ・ 車両進入禁止標識 (告知時のみ)



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



最高速度



車両進入禁止



一時停止



はみ出し通行禁止



終わり*

* マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、は

み出し通行禁止標識の点滅やハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■ 設定のしかた

→P.355

■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっ

ているとき

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■ 速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“RSA 故障 販売店で点検してください”が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（→P.355）

レーダークルーズコントロール

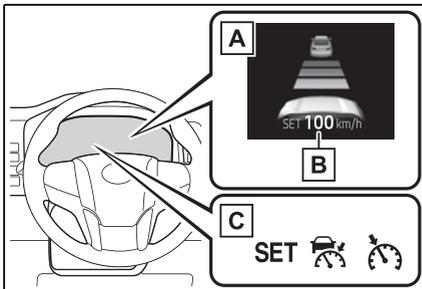
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード (→P.185)
- 定速制御モード (→P.188)

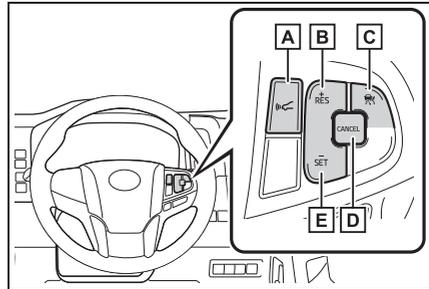
システムの構成部品

■ メーター表示



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

■ 操作スイッチ



- A** 車間距離切りかえスイッチ
- B** “+RES” スイッチ
- C** クルーズコントロールメインスイッチ
- D** キャンセルスイッチ
- E** “-SET” スイッチ

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.189
- ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.190

▲ 警告

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロールを使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
 - 交通量の多い道
 - 急カーブのある道
 - 曲がりくねった道
 - 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
 - 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
 - センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

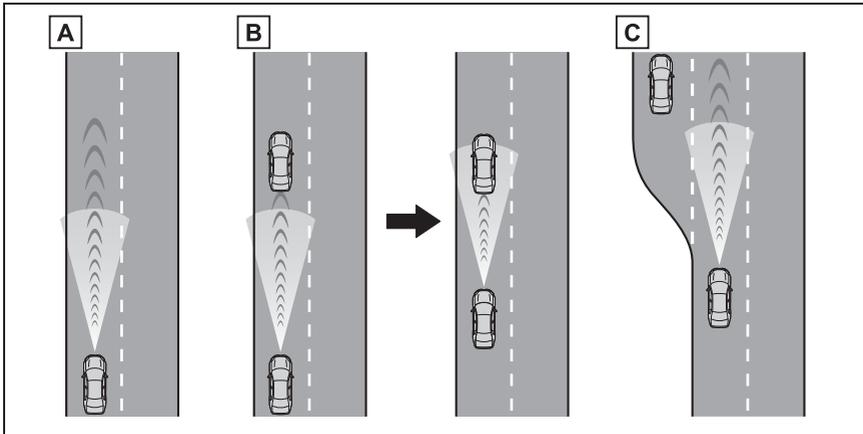
警告

- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんばんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんばんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

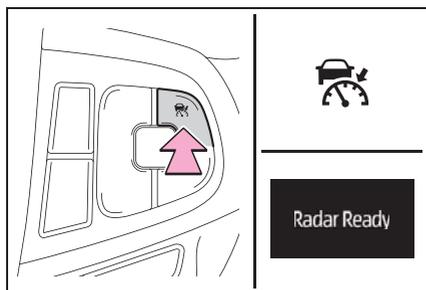
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

- 1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF するには再度スイッチを押します。

クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。(→P.188)

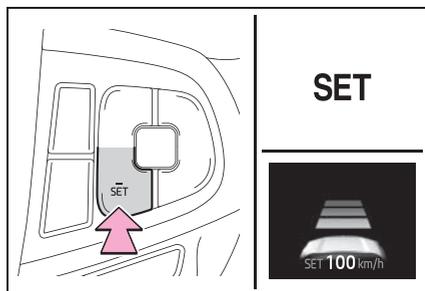


- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET”スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

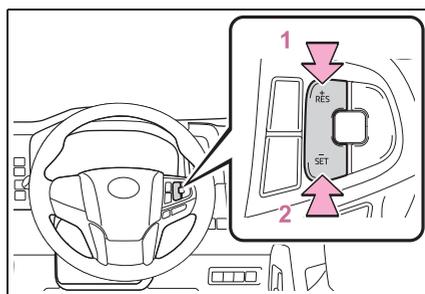
スイッチを離れたときの車速で定速走行

できます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+RES”スイッチまたは“-SET”スイッチを押します。



- 1 速度を上げる
- 2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

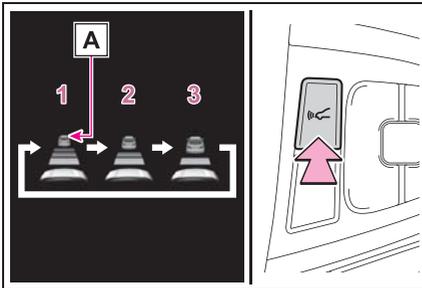
定速制御モード（→P.188）では、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク **A** も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

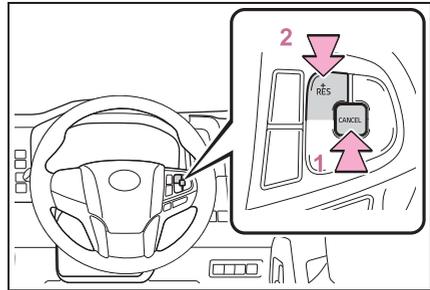
次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

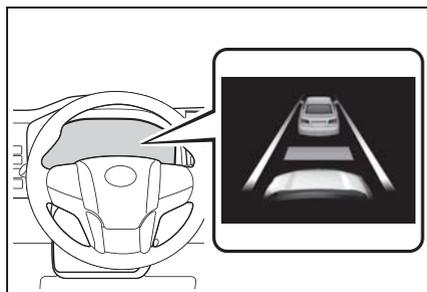
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 制御を復帰させるに

は、“+RES” スイッチを押す
ただし、車速が約 25km/h 未満のときは復帰しません。

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

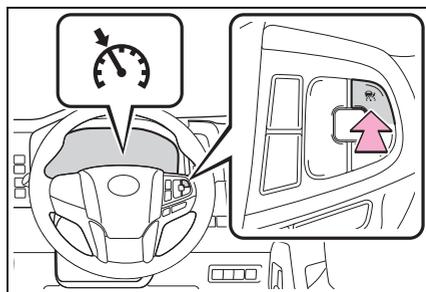
定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが

可能です。



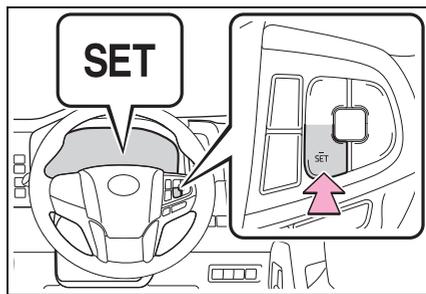
- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.186）

制御を解除する・復帰させる（→P.187）



知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D のとき設定できます。
- 制御モードによって、設定できる車速は次のとおりです。
 - ・ 車間制御モード：約 30km/h 以上のとき
 - ・ 定速制御モード：約 30km/h 以上のとき

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 車速が約 25km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)

上記以外の理由で定速制御モードが自動

解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

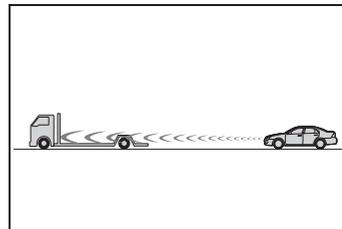
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→P.165, 322)

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報(→P.187)も作動しないおそれがあります。

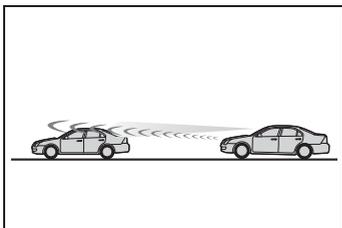
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき(荷物を積んでいないトレーラーなど)



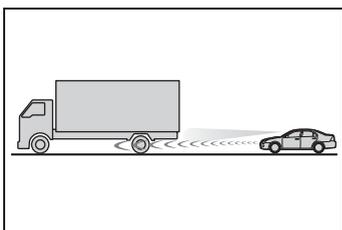
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、

レーダーの検知のさまたげになる場合

- 自車の車両姿勢が上向きになる場合
(重い荷物を積んだときなど)



- 先行車の車高が極端に高いとき

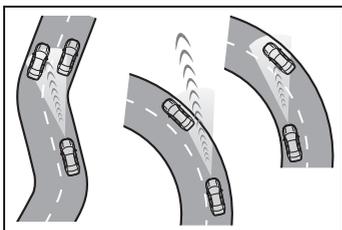


■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

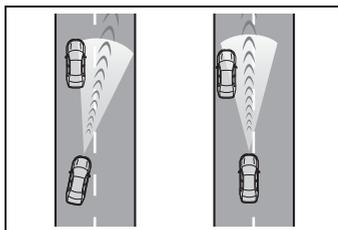
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



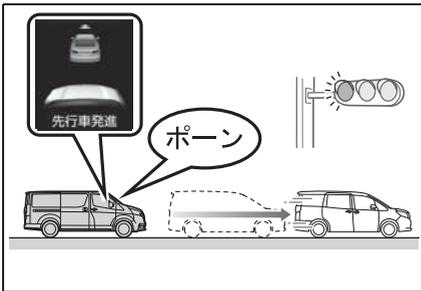
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき

■ 先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき

- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき

- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき

- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき

- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき

- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき

- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき

- ブリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■ 先行車が発進していても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝

撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
 - 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき
- 先行車発進告知機能の設定を変更するには

- 先行車発進告知機能の ON / OFF

システムの ON / OFF を切りかえることができます。(→P.355)

- 先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。(→P.355)

Stop & Start システム

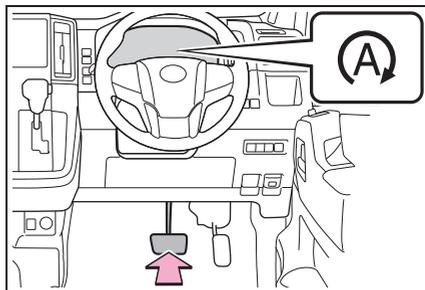
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start システムの作動

■ エンジンが停止する

シフトポジションを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start システムによるエンジン停止中は表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

エンジンが再始動すると表示灯は消灯します。

□ 知識

■ 使用にあたり知っておいていただきたいこと

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押した場

合、エンジンは自動で再始動しないため、通常のエンジン始動操作（→P.140）でエンジンを始動してください。

- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリソケットなどが使用できないことがあります。異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 長時間停車する場合には、エンジンスイッチを OFF にしエンジンを停止してください。
- Stop & Start システムの作動によるエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にハンドルが重く感じることがあります。

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - ・ 一度、走行したあと
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
 - ・ シフトポジションが D のとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ フロントデフロスターが OFF のとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ エンジンが十分暖まっているとき
 - ・ ヒーターアイドルアップスイッチまたはパワーヒータースイッチが OFF のとき
 - ・ 外気温が -5°C 以上のとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき（詳しくは“ボンネットを開けたとき（→P.194）”をご参照ください）
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合

がありますが異常ではありません。

- ・ エアコンを使用しているとき
- ・ 定期的な充電中のとき
- ・ バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）
- ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- ・ エンジン再始動後の経過時間が短いとき
- ・ 渋滞などで、断続的に停車するとき
- ・ エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
- ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
- ・ ハンドル操作をしているとき
- ・ 標高が高いとき
- ・ バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
- ・ バッテリーを脱着した後、しばらくの期間
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）
 - ・ エアコンを ON にしたとき
 - ・ フロントデフロスターを ON にしたとき
 - ・ シフトポジションを D または P 以外にしたとき
 - ・ ヒーターアイドルアップスイッチまたはパワーヒータースイッチを ON にしたとき
 - ・ シフトポジションを P 以外にしたとき（P レンジで Stop & Start システムによるエンジン停止中）
 - ・ 運転席シートベルトをはずしたとき
 - ・ 運転席ドアを開けたとき
 - ・ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
 - ・ パーキングサポートブレーキを作動さ

せたとき

- ・ ハンドルを操作したとき
- ・ アクセルペダルを踏んだとき
- ・ 坂道などで車両が動き出したとき
- ・ 先行車が発進したとき（先行車発進告知機能有効時のみ）
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）
- ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
- ・ エアコンを使用しているとき
- ・ エアコンに関わる操作をしたとき（デフロスタースイッチなど）
- ・ バッテリーの充電量が低下しているとき

■ ボンネットを開けたとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作（→P.140）でエンジンを始動してください。
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

- オート設定で空調システムを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、

ファンを停止したりすることがあります。

- 空調の効きをよりよくしたいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- フロントウインドウガラスが曇ったとき

フロントデフロスターを ON にしてください。（→P.241）

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコンふきだし口から臭いが発生したとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムの作動を停止してください。

■ エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の長さの切りかえについて

メーターディスプレイの  画面（→P.355）から、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さを切りかえることができます。（エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません）

■ アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→P.73

■ メーターディスプレイのメッセージについて

次のとき、メーターディスプレイに

 と、メッセージが表示されること
があります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

 “ブレーキをもう少し踏んでくだ

さい”

- ・ ブレーキペダルを踏む力が足りない

→ ブレーキペダルを踏み足すと作動します。

 “専用バッテリー非装着”

- ・ Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある

→ Stop & Start システムが作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。

 “バッテリー充電中”

- ・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある

→ バッテリー充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止しますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

- ・ リフレッシュ充電中の可能性がある

→ 最大 1 時間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。

- ・ 長期間（1 時間以上）にわたって継続的に表示される

→ バッテリー劣化の可能性がありますので販売店に相談してください

 “アイドリングストップできません”

ん”

- ・ 一時的にアイドリングストップを禁止している

→ エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。

- ・ ボンネットが開いている状態でエンジ

ンを始動した可能性がある

→ ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。

 “作動準備中”

- ・ 標高が高い
- ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下している

→ ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。

 “エアコン優先”

- ・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している

→ エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。

- ・ フロントデフロスターを ON にしている
- ・ ヒーターアイドルアップスイッチまたはパワーヒータースイッチを ON にしたとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

 “作動準備中”

- ・ ブレーキペダルを強く踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした

→ 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。

 “エアコン優先”

- ・ エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している
- ・ フロントデフロスターを ON にした



“バッテリー充電中”

- ・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある

→ エンジンをしばらく作動させることでバッテリーが充電されると作動可能状態になります。

■ ブザーが鳴ったとき

Stop & Start システムによるエンジン停止中、シフトポジションが D レンジでアイドリングストップ中に運転席ドアが開いたときは警告ブザーが鳴ると同時に Stop & Start 表示灯が点滅します。ブザーを止めるには運転席ドアを閉めて下さい。

■ Stop & Start システム保護機能

- 大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。オーディオを再度使用するには、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってからアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしてください。
- バッテリーの端子をはずして再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。
- ・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■ バッテリーを交換するとき

→ P.342

■ Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “アイドリングストップ故障 販売店で点検してください” が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ Stop & Start システムが作動しているとき

換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動するため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、必要に応じてブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

⚠ 注意

■ Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき

⚠ 注意

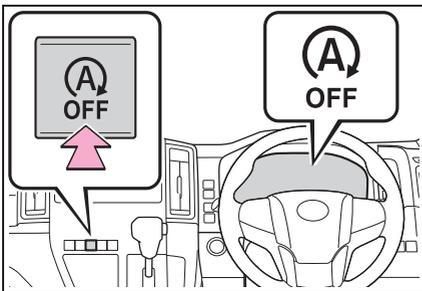
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、メーターディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON (→P.250) のときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているにもかかわらず、メーターディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON (→P.250) のときにインテリアランプが点灯しないとき

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押して下さい。

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Startシステムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからエンジンを始動することによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えがかわったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

BSM (ブラインドスポットモニター)

ブラインドスポットモニターは、リアバンパー上方にあるレーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

▲ 警告

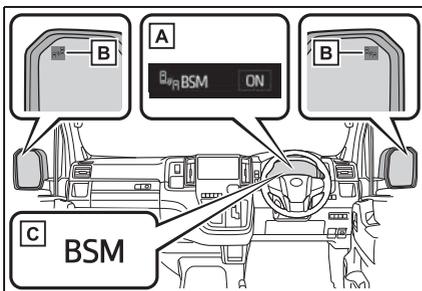
■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが正しく機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認を行う必要があります。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切り替えます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの  画面でブラインドスポットモニターの ON (作動)・OFF (停止) の切りかえができます。(→P.355)

□ 知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとなど周囲の環境によっては、ドアミラーインジケーターが見えづらいたことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“BSM 現在使用できません”が表示されたときは

電圧異常やセンサー周辺のリアバンパー上方に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。(→P.199)

センサー周辺のリアバンパー上方の氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環

境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“BSM 故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

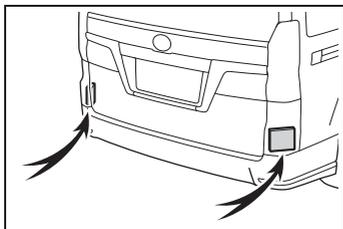
センサーの故障や位置、向きずれなど

■ レーダーセンサーの取り扱いについて

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

警告

■ システムを正しく作動させるために
ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー上方の内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- センサー周辺のリヤバンパー上方は常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパー上方に汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.198）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、ブラインドスポットモニターの作動条件（→P.201）でしばらく走行してください（目安：約10分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

が考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

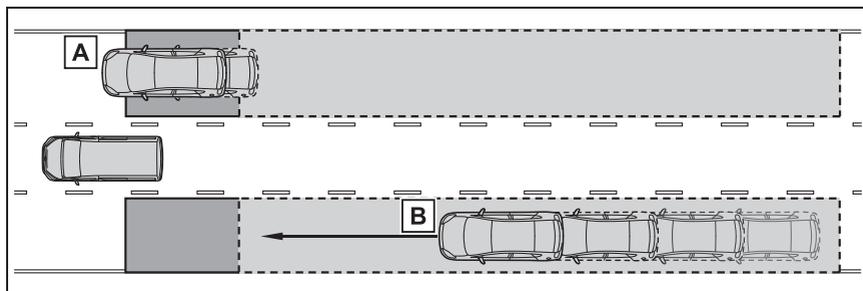
お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.361）

- センサー周辺のリヤバンパー上方への強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
 - ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ センサー周辺のリヤバンパー上方などに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方にアクセサリーをつけたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方を改造しない
- センサーやリヤバンパー上方の脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- リヤバンパー上方の塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

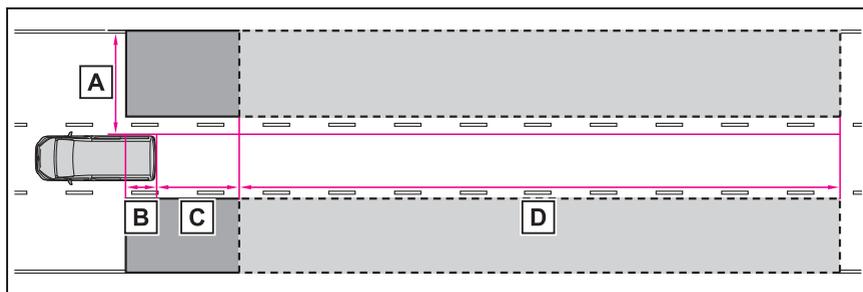
ブラインドスポットモニターはレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域^{※1}
- B** リヤバンパーから約 1m 前方の領域
- C** リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- D** リヤバンパーから後方約 3m ~ 60m の領域^{※2}

^{※1} 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※² 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケータは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■ ブラインドスポットモニターの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトレバーが R 以外するとき
- 車速が約 16km/h 以上するとき

■ ブラインドスポットモニターが車両を検知する条件

次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いつかれるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いつくとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが検知しない条件

次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など^{*}
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物^{*}
- 同じ車線を走行する後続車^{*}
- 2 つ隣の車線を走行する他車^{*}
- 大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追いつくとき^{*}

^{*} 状況によっては検知をすることがあります。

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリアバンパー上方に付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリやけん引フックを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さ 차이가ありすぎるとき
 - ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

- ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき
- ・ 雨や雪を後方に巻き上げているとき

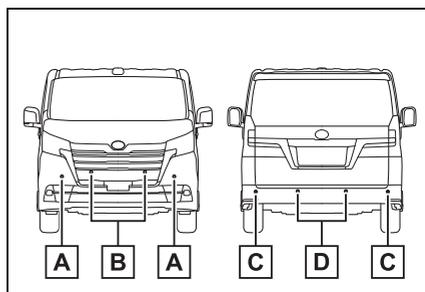
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディアディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内★で運転者にお知らせします。

★：販売店オプションのナビゲーションシステム装着車

システムの構成部品

■ センサーの位置・種類

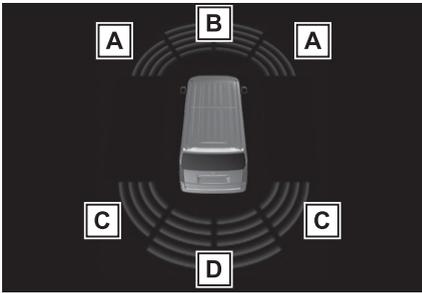


- A** フロントコーナーセンサー
- B** フロントセンターセンサー
- C** リヤコーナーセンサー
- D** リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

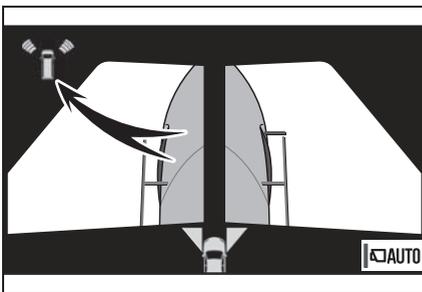
壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディアディスプレイに表示されます。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

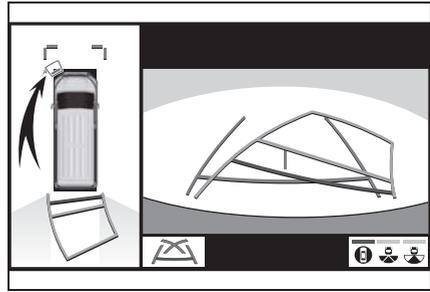


- A** フロントコーナーセンサー作動表示
- B** フロントセンターセンサー作動表示
- C** リヤコーナーセンサー作動表示
- D** リヤセンターセンサー作動表示

▶ マルチメディアディスプレイ
作動対象を検知するとマルチメディアディスプレイ上に自動表示されます。(割込み表示)



パノラミックビュー&ワイドフロントビューまたはパノラミックビュー&サイドクリアランスビューの選択中に作動対象を検知すると、画面上に自動表示されます。



システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。
(→P.68)

- 1 **◀**または**▶**を押して を選択する
- 2 **▲**または**▼**を押して を選択し、**OK**を押す

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→P.61) が表示されます。

いったんクリアランスソナー機能を ON / OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

警告

- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
 - センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - 改造・分解・塗装をしないでください。
 - ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
 - 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- クリアランスソナーを OFF にするとき**

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識**■ 作動条件**

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチが ON のとき
 - ・ シフトレバーが P 以外にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき（シフトレバーが R にあるときは除く）
- フロントセンターセンサー：
 - ・ エンジンスイッチが ON のとき
 - ・ シフトレバーが P 以外にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー・リヤセンターセンサー：
 - ・ エンジンスイッチが ON のとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー使用できません”が表示されたときは

- 大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。
- バッテリーを脱着したあとに、初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。

初期化を行っても表示が消えない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー故障 販売店で点検してください”が表示されたときは**

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **バッテリーを脱着したときは**

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■ **センサーの検知について**

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ **システムが正しく検知できないことがある静止物**

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの

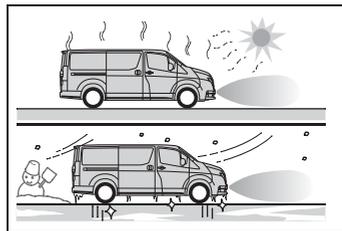
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ **システムが正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（溶ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時



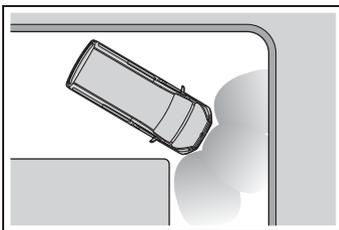
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進

行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

- 風が強いとき
 - 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
 - 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
 - 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
 - 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
 - センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
 - 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

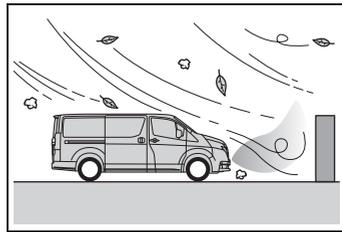
- 狭い道路を走行するとき



- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐

車場のバーなど）に向かって走行するとき

- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



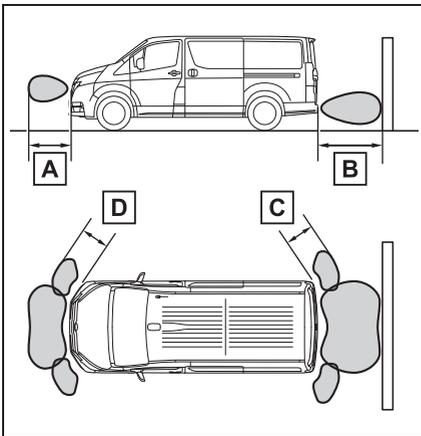
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

● 静止物を検知できる範囲



- A** 約 100cm
- B** 約 150cm
- C** 約 60cm
- D** 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディアディスプレイの作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。

- 静止物までのおおよその距離：
150cm～60cm（リヤセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ※	マルチメディアディスプレイ※

※ 点灯

- 静止物までのおおよその距離：
100cm～60cm（フロントセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ※	マルチメディアディスプレイ※

※ 点灯

- 静止物までのおおよその距離：
60cm ~ 45cm

マルチイン フォメーション ディスプレイ※	マルチメディアディス プレイ※
	

※ 点灯

- 静止物までのおおよその距離：
45cm ~ 30cm

マルチイン フォメーション ディスプレイ※	マルチメディアディス プレイ※
	

※ 点灯

- 静止物までのおおよその距離：
30cm ~ 15cm

マルチイン フォメーション ディスプレイ※	マルチメディアディス プレイ※
	

※ 点灯及び枠が遅い点滅

- 静止物までのおおよその距離：
15cm 以下

マルチイン フォメーション ディスプレイ※	マルチメディアディス プレイ※
	

※ 点灯及び枠が早い点滅

■ 音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

販売店オプションのナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音“ピピピ”から連続音“ピー”になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 障害物を車両の前後で同時に感知したとき
 - フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は“ピピピピピピピ ピー”をくり返します。
 - フロント側、またはリヤ側で障

害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は“ピピピー”をくり返します。ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

知識

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。クリアランスソナー、RCTAのブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.68）

- 1  または  を押して  を選択する
- 2  または  を押して  を選択し、 を押し続ける
- 3  を押して音量を選択する

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

設定が完了したら、メーター操作スイッチの  を押す

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

 を押すとクリアランスソナー、RCTAのブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトレバーを切りかえたとき
- センサー異常やシステムが一時使用不

可となったとき

- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- シフトレバーが D または S で、車速が約 15km/h 以上のとき
- クリアランスソナースイッチを OFF にし、再度 ON にしたとき

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.361）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）があります。

駐車支援機能

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→P.216

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

→P.219

警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき

警告

- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

注意

- マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

エンジンスイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスセンサー周辺の汚れを取り除いてください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）を一括で ON/OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。
(→P.68)

- 1 **◀**または**▶**を押して  を選択する
- 2 **◀**または**▶**を押して  を選択し、**OK**を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯 (→P.62) が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  から  を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディアディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

- エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディアディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

- エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディアディスプレイ表示：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”

アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されず。

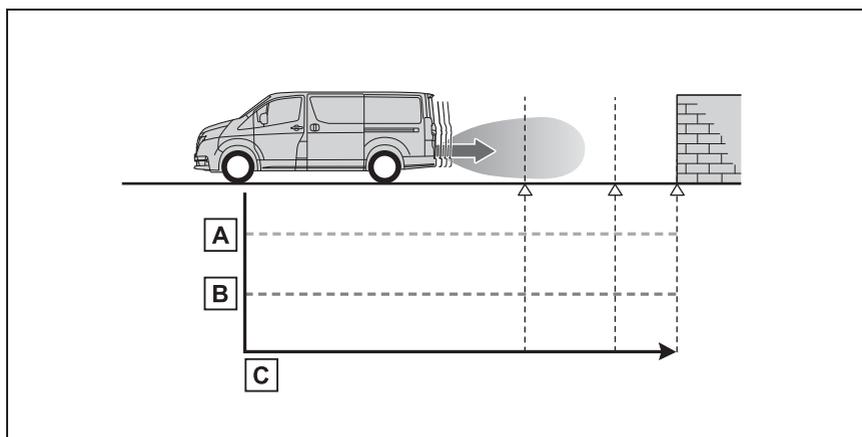
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

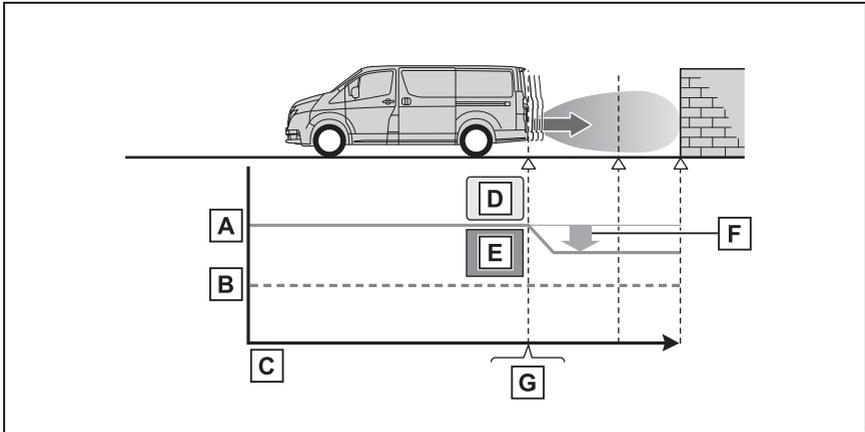


A エンジン出力

B 制動力

C 時間

● 図 2 (エンジン出力抑制制御時)



A エンジン出力

B 制動力

C 時間

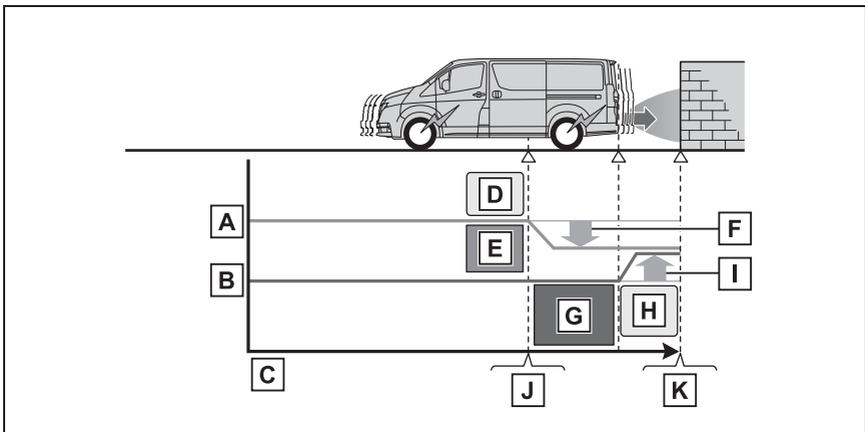
D エンジン出力抑制制御開始

E 作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき

F エンジン出力を抑える

G 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “ブレーキ！”

● 図 3 (エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時)



A エンジン出力

- B** 制動力
- C** 時間
- D** エンジン出力抑制制御開始
- E** 作動対象と衝突の可能性があるときシステムが判断したとき
- F** エンジン出力を抑える
- G** 作動対象と衝突の可能性が非常に高いときシステムが判断したとき
- H** ブレーキ制御開始
- I** ブレーキ制御を上げる
- J** 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “ブレーキ！”
- K** 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直して下さい”

知識

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合、次のいずれかを行うと、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰します。このとき、PKSB OFF 表示灯が消灯します。（→P.62）

- PKSB システムを ON（作動）にする（→P.211）

- エンジンスイッチを OFF にしてから、ON モードにする

- シフトレバーを P にする

- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する

- 車両の進行方向を切りかえる

■ マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ現在使用できません” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。
- 大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに” パーキングサポートブレーキ 現在使用できません” と” クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅しているときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。
- 大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

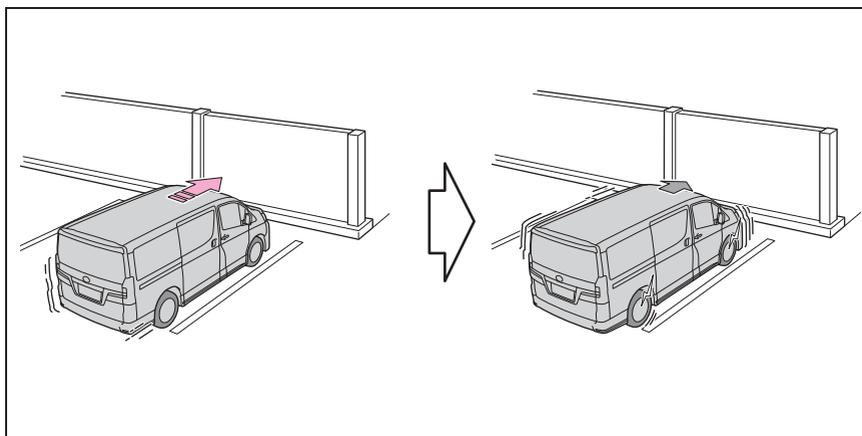
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

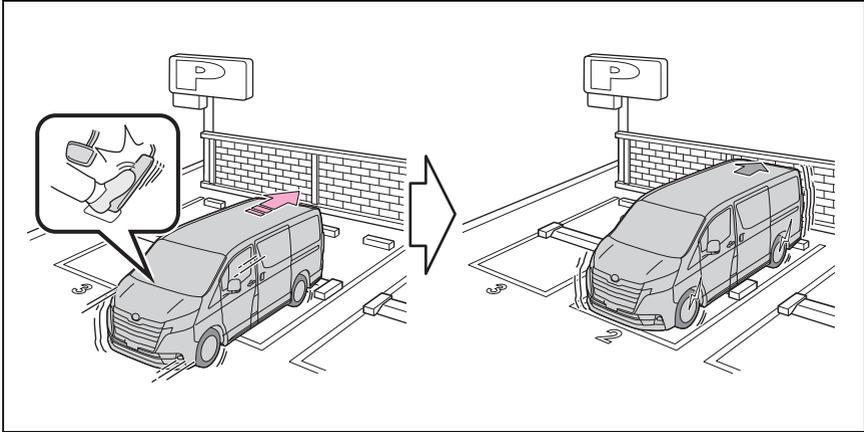
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

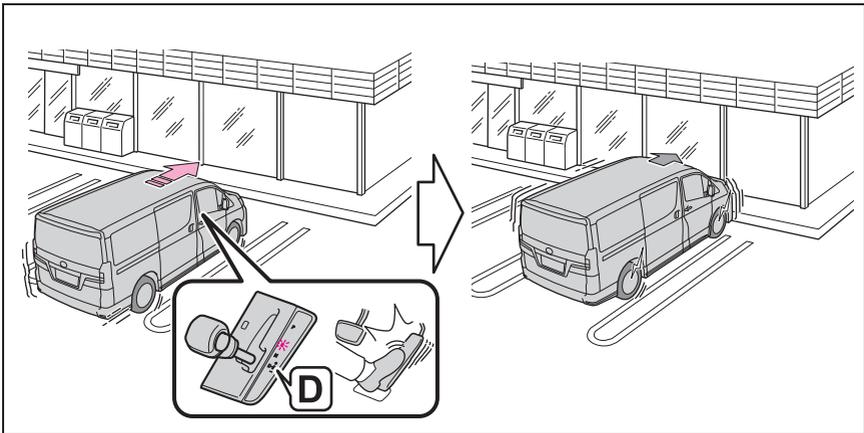
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーをDに入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→P.202

▲ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.203

■ 万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P.214

■ 洗車時の注意

→P.204

☐ 知識

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.61, 62）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● エンジン出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
- ・ エンジン出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- エンジン出力抑制制御
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）
- ブレーキ制御
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.207）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサ

ポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.205

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.206

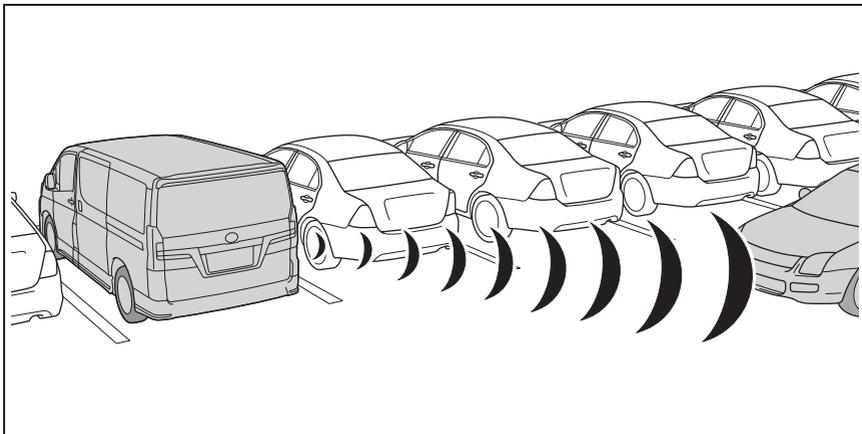
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

- 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.199



警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.199



知識

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.61, 62）しておらず、次の条件を

すべて満たすと作動します。

- エンジン出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
 - ・ シフトレバーが R にあるとき
 - ・ 接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
 - ・ エンジン出力抑制制御作動中
 - ・ 接近車両への衝突回避には、急ブレー

キ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- エンジン出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき
- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.222）とは異なります。そのため、RCTA が後方接近車両をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.224

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.225

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー上方にあるブラインドスポットモニターのレーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

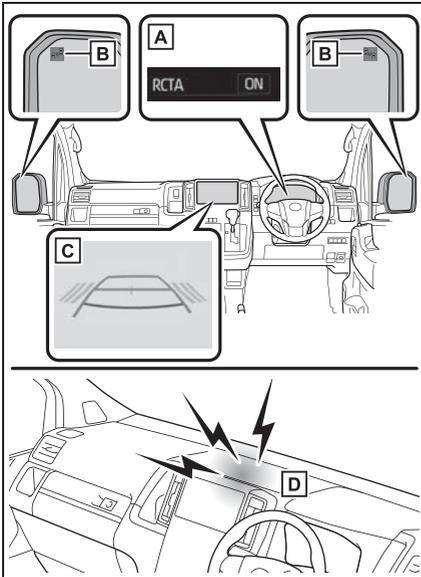
■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.198）

■ システムを正しく作動させるために

→P.199

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

RCTA 機能の ON / OFF を切りかえます。RCTA 機能を OFF にすると、RCTA OFF 表示灯が点灯します。(→P.62)

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチメディアディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイに検知した側の RCTA アイコン (→P.222) が点灯します。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの  画面で RCTA 機能の ON (作動)・OFF (停止) の切りかえができます。(→P.355)

RCTA 機能が OFF のときは、RCTA OFF 表示灯 (→P.62) が点灯します。(エンジンスイッチが ON モードになるたび、RCTA 機能は ON になります。)

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとなど周囲の環境によっては、ドアミラーインジケーターが見えづらことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“RCTA 現在使用できません”が表示されたときは

電圧異常やセンサー周辺のリヤバンパー上方に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。(→P.199)

センサー周辺のリヤバンパー上方の氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“RCTA 故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

センサーの故障や位置、向きすれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

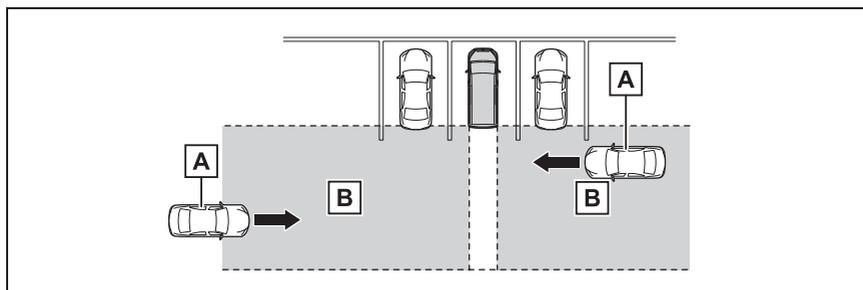
■ レーダーセンサーについて

→P.199

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



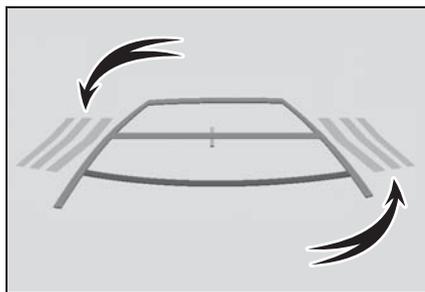
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

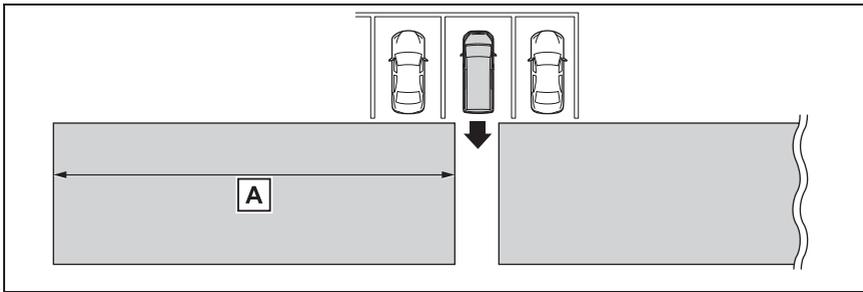
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディアディスプレイ上に次の表示をします。

イラストは両後方から車両が接近している例です。



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
28km/h（速い）	20m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- RCTA 機能が ON のとき
- シフトレバーが R のとき
- 自車の車速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ~ 28km/h のあいだのとき

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

RCTA、クリアランスソナーのブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.68）

- 1 ◀または▶を押して⚙️を選択する

- 2 ▲または▼を押して“RCTA”を選択し、OK を押し続ける

- 3 OK を押して音量を選択する

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

設定が完了したら、メーター操作スイッチの▶を押す

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されません。

OK を押すと RCTA、クリアランスソナーのブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトレバーを切りかえたとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

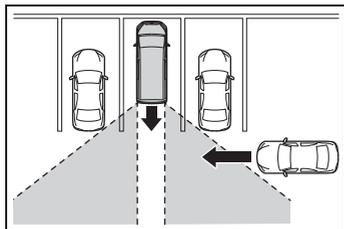
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.361）

■ システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

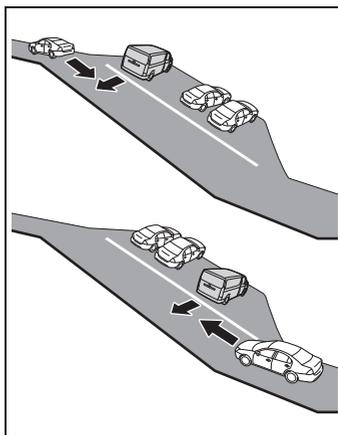
■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

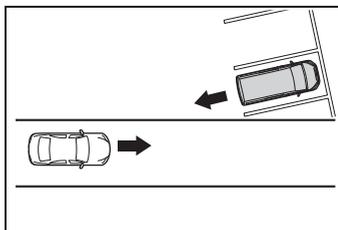
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・

サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

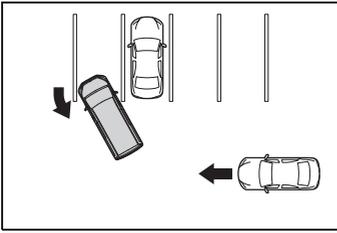
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



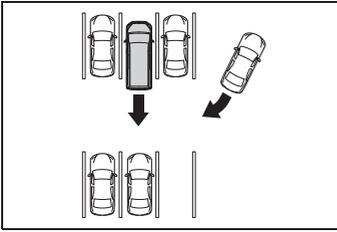
- 斜めの駐車場から出庫するとき



- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



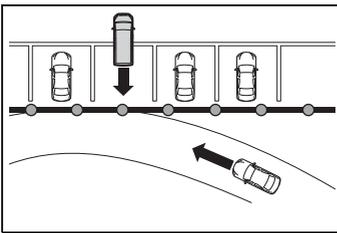
- 旋回しながら車両が近づいてきたとき



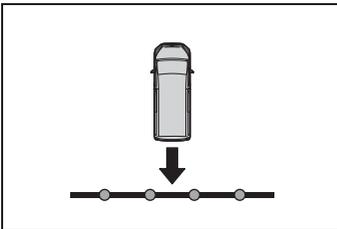
■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



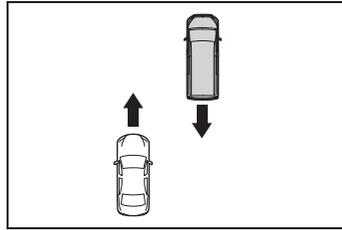
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



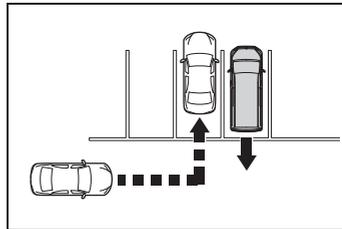
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・

サイクルキャリア・除雪装置（スノーブロー）などを取り付けたとき

- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき

- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

- グレーチングや側溝

- 炎天下や寒冷時

- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けられたとき

- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC (ビークルスタビリティコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続

車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

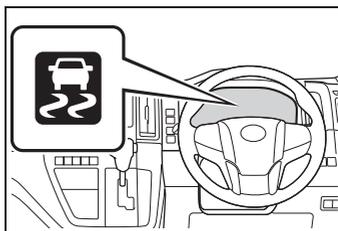
■ セカンダリーコリジョンブレーキ (SCB)

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■ TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

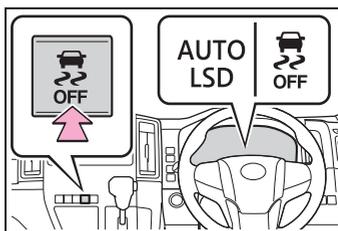


■ TRC を停止するには (AUTO LSD を ON にする [→P.230])

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには素早く  を押す



AUTO LSD と VSC OFF のインジケータが点灯します。

もう一度  を押し、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。*

もう一度  を押し、システム作動可能状態にもどります。

* ブリクラッシュセーフティも OFF になります。(衝突警報のみ作動状態になります) PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.173)

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外 (前進または後退での上り坂発進時)
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N のシフト位

置にした

- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

■ ブレーキシステムの長時間の使用について

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示され、TRC とヒルスタートアシストコントロールが一時的に作動出来なくなります。この場合、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。(この間の通常走行は可能です) しばらくして、TRC OFF 表示灯が消えれば、TRC とヒルスタートアシストコントロールが作動可能となります。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、エンジンスイッチを OFF にすると、システム作動可能状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし次のいずれかのとき、システムは作動しません。

- 車速が約 10km/h 未満のとき
- 構成部品が破損したとき

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のとき、自動的にシステムが解除されます。

- 車速が約 10km/h 未満になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

⚠ 警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーキング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告****■ スリップ表示灯が点滅しているときは**

TRC・VSCが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

（→P.353）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

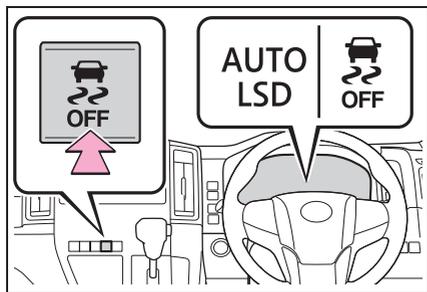
AUTO LSD

AUTO LSD はタイヤの片方のみが空転すると、TRC によりエンジンやブレーキを制御して駆動力を補助します。

すべりやすい路面や凹凸のある路面などで片方のタイヤが空転した場合のみシステムを使用してください。

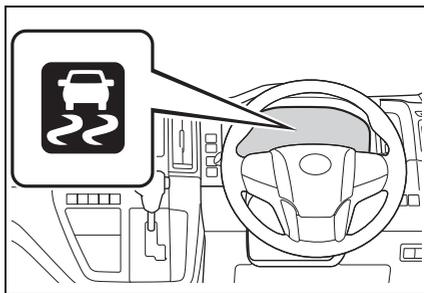
AUTO LSD を ON にするには

 を押すと AUTO LSD が ON になり、AUTO LSD と VSC OFF のインジケータが点灯します。AUTO LSD を OFF にするには、もう一度、 を押します。



AUTO LSD が作動しているとき

タイヤが空転したときにスリップ表示灯が点滅している場合、タイヤの空転を抑制しています。



知識

■ エンジンを再始動したときは

AUTO LSD が停止し、表示灯は自動的に消灯します。

■ VSC の自動復帰について

AUTO LSD を ON にしている状態で車速が高くなると、VSC と TRC が自動的に作動可能状態にもどります。

■ ブレーキシステムが異常過熱したときは

AUTO LSD をひんばんに使用すると、ブレーキアクチュエーターの温度が上昇する事があります。このときは、警告ブザーが断続的に鳴るとともに“AUTO LSD”表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに“TRC Off しました”と表示されます。一時的に AUTO LSD が機能しなくなりますが、しばらくして AUTO LSD 表示灯が点灯すると、AUTO LSD は作動可能状態となります。また、この間の通常走行は可能です。

警告**■ 事故を防ぐために**

次のことをお守りいただかないと、ハンドルが重くなるため車のコントロールがしにくくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべりやすい路面や凹凸のある路面以外で AUTO LSD システムを使用しないでください。
- 常に AUTO LSD を ON にした状態で走行しないでください。

注意**■ 運転中の作動について**

タイヤがスリップしている状態で AUTO LSD を作動させないでください。タイヤのスリップを止めた状態にしてから、AUTO LSD を ON にしてください。

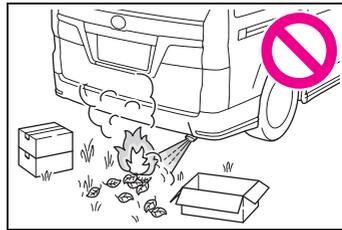
排出ガス浄化装置

排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

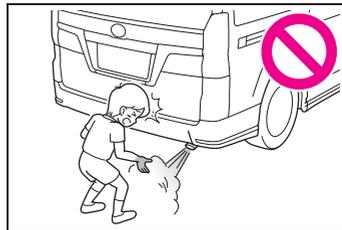
警告**■ ススの燃焼（再生）処理中は**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。

- 燃えやすいものや乾いた草などの近くに車を停車しない



- 排気管周辺に人がいないことを確認する



- 車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼（再生）処理を行わない
- 燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

⚠ 注意

● 排出ガス浄化装置の故障を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不可 販売店で点検してください”と表示※されたまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などがないか定期的に点検する
異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 警告メッセージに合わせてエンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

● 燃焼（再生）処理について

- 一般走行では数百km※ 走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。自動で燃焼処理が行われているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生中”が表示されます。
- ススが規定量以上になったとき、燃焼処理を行うことができます。（→P.233）

※ 気候や走行状況等により異なります。

● 排出ガス浄化装置について

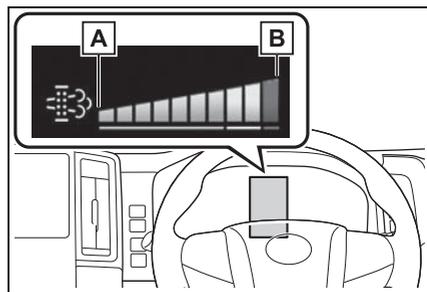
排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

- 燃焼処理中はアイドリング回転数が上がる
- 排気ガスの臭いが従来のディーゼル車とは異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

● 排ガス浄化装置堆積モニターについて

マルチインフォメーションディスプレイ内の表示でススの堆積量を確認することができます。

排出ガス浄化スイッチを押したとき、または警告メッセージと一緒に表示されません。表示される情報は、参考としてご利用ください。



A 少ない

B 多い

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたときは

- マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不十分 取扱書を確認してください”と表示されたときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

▶ 走行して燃焼処理を行う場合

次の運転手順を推奨します。*1

- ・ 継続運転（例：時速 60km で 20 ～ 30 分間）
- ・ 短い距離の走行を回避、または継続運転（長時間エンジンをかけたまま）

燃焼（再生）処理の運転を行う前にエンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、シフトダウンしてエンジン回転数を上げることでエンジンを暖めてください。*2

燃焼（再生）処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えます。運転の状況（渋滞など）によってはススがさらに堆積し、警告メッセージが消えないことがあります。運転後も警告メッセージが消えないときは、スイッチ操作で燃焼処理を行ってください。

*1 走行時は道路交通法に従い、天候、路面状況、地形、交通状況を考慮し、十分に注意してください。

*2 状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでシフトダウンする必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

▶ スイッチを操作して燃焼処理を行う場合

- 1 車を安全な場所に停車する
 - 2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- エンジンは停止しないでください。

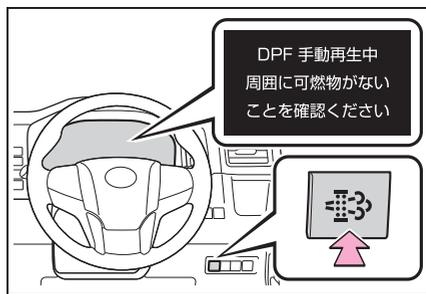
また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。（→P.231）

エンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、アクセルペダルを踏み込んでエンジンを暖めてください。*1

3 排出ガス浄化スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、アイドリング回転数が上がります。

燃焼（再生）処理が終了するまでに、約 15 ～ 40 分 *2 程度の時間が必要です。



燃焼（再生）処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消え、アイドリング回転数がもとにもどります。

*1 状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでアクセルペダルを踏み込む必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

※²燃焼（再生）に必要な時間は、外気温により異なります。また、排出ガス浄化スイッチを押してから10分後のエンジン回転数が約2000rpmのときは、排気ガスの温度が低い状態です。その場合は、アクセルペダルを踏み込んで、しばらくのあいだ約3000rpmまでエンジン回転数を上げてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不十分取扱書を確認し手動再生を実施ください”と表示されたときは、スイッチ操作で燃焼処理を行ってください。（→P.233）
- マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不可販売店で点検してください”と表示※されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 警告メッセージに合わせてエンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

知識

■ 燃焼処理について

- 排出ガス浄化スイッチを押したあとは、アクセルペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。
- 燃焼（再生）処理が終了した後は、排気管をきれいにするために数回空ぶかしをしてください。
- 走行直後など排気管の温度が高いときに行うと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

■ エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。（→P.350）

■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージについて

走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドルングストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示される場合があります。

注意

■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたとき

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯します※。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ このときは、排出ガス浄化スイッチが機能しなくなります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
 - ・ 燃料
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。
タイヤは4輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.283）

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃

料配管のつまりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以下にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安※
JIS 2号軽油	-5℃
JIS 3号軽油	-12℃
JIS 特3号軽油	-19℃

※ 環境や使用状況により異なります。

警告

■ 冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける

警告

- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]）を使用しない

注意**■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪

を取り除いてください。

- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識**■ 寒冷地用ワイパーブレードについて**

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意**■ ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてくだ

さい。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。

※¹輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※²ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

5-1. エアコンの使い方

フロントオートエアコン 240

リヤオートエアコン 246

シートヒーター 248

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 250

5-3. 収納装備

収納装備一覧 254

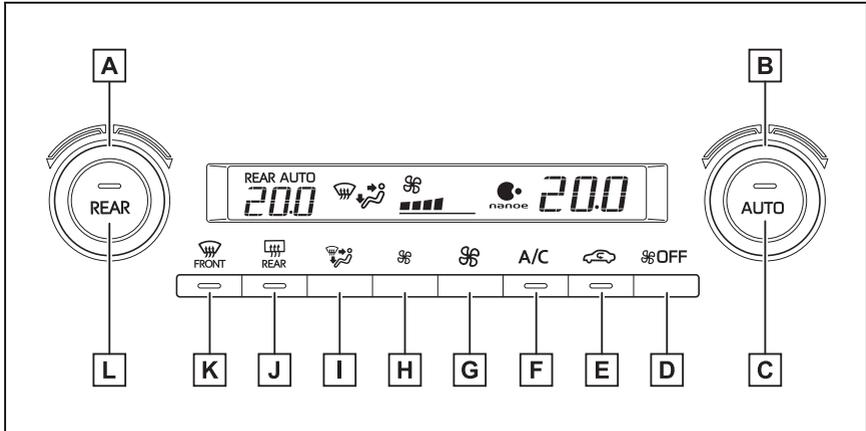
5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 261

フロントオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



- A** リヤ側温度調整ダイヤル
- B** フロント側温度調整ダイヤル
- C** AUTO スイッチ（オート設定）
- D** OFF スイッチ
- E** 内外気切りかえスイッチ
- F** 冷房・除湿スイッチ
- G** 風量増スイッチ
- H** 風量減スイッチ
- I** 吹き出し口切りかえスイッチ
- J** リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチ
- K** フロントデフロスタースイッチ
- L** REAR スイッチ（リヤオートエアコンの作動／停止）

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときはフロント側温度調整ダイヤルを右へまわし、

下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

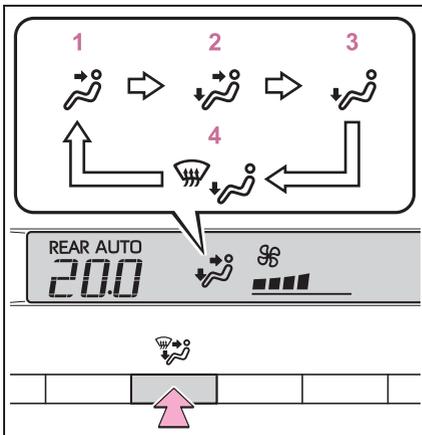
風量を増やすときは風量増スイッチを押し、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スwitchを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように設定が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ エアコン（冷房・除湿機能）を切りかえるには

冷房・除湿スイッチを押す

冷房・除湿機能が ON のときは、作動表示用が点灯します

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒーター

リヤウィンドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウィンドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウィンドウデフォグガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ヒーターアイドルアップ機能★

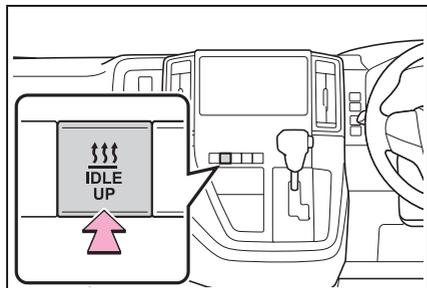
寒冷時に暖房効果を高めるために使用してください。

アイドルアップ機能を使用するには、ヒーターアイドルアップス

イッチを押す

アイドル回転数が上がります。もう一度スイッチを押すと、もとのアイドル回転数にもどります。

スイッチを押した状態でエンジン停止後にエンジンを再始動すると、アイドル回転数が上がります。



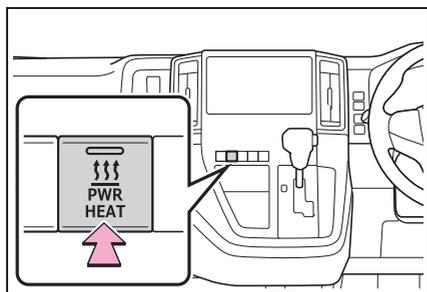
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーヒーター★

エンジン冷却水の温度が低いとき、寒冷時に車内を急速に暖めるとき、車内の暖房効果を保持するときにご利用ください。

パワーヒーターを使用するには、パワーヒータースイッチを押す
パワーヒーターが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

スイッチを押した状態でエンジン停止後にエンジンを再始動すると、アイドル回転数が上がります。



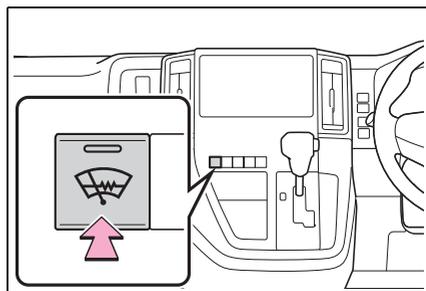
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

☐ 知識

■ ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● 冷房・除湿スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

● 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

● トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

● 設定温度や室内温度などにより、自動

的に切りかわる場合があります。

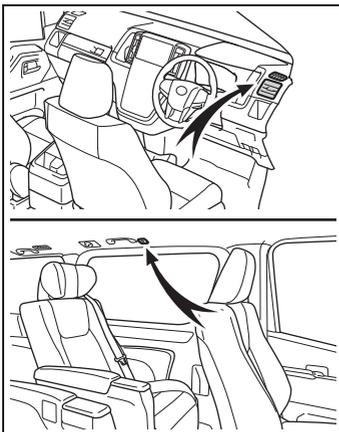
■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ 「ナノイー」※¹ について

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席外側吹き出し口・後席「ナノイー」吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※²。

- ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。
- 「ナノイー」の作動中、吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のときに効果を発揮します。それ以外の条件では、効果が十分に得られない場合があります。
- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 「ナノイー」作動中は、運転席外側吹き出し口、後席の「ナノイー」吹き出し口付近で、小さな作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。



※¹「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※²温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→P.291

■ カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.362)

▲ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

警告**■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーターが作動しているとき**

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ ウインドシールドデアイサー★が作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 「ナノイー」について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意**■ 「ナノイー」の損傷を防ぐために**

運転席外側吹き出し口または、後席「ナノイー」吹き出し口（→P.243）の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する**1 エアコン操作スイッチの AUTO スイッチを押す**

冷房・除湿機能が作動し、風量と吹き出し口が自動で設定されます。

オート設定が ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

2 フロント側温度調整ダイヤルで温度を設定する

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

知識**■ オート設定の作動について**

風量は温度設定により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

前席からリヤエアコンを操作する**1 エアコン操作スイッチの REAR スイッチを押す**

冷房・除湿機能が作動し、風量と吹き出し口が自動で設定されます。

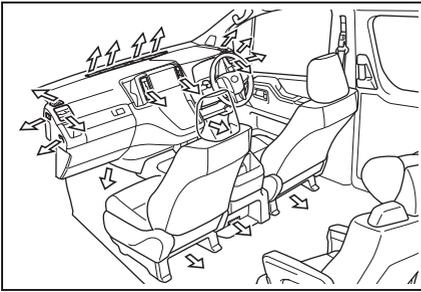
リヤエアコンが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

2 リヤ側温度調整ダイヤルで温度を設定する

ファンを止めたいときは、再度 REAR スイッチを押す

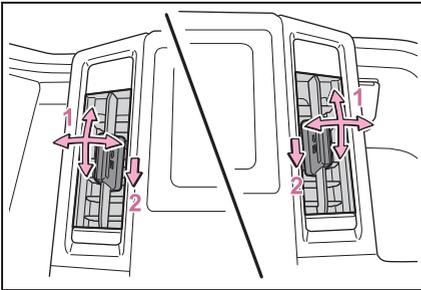
吹き出し口の配置・操作**■ 吹き出し口の位置**

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

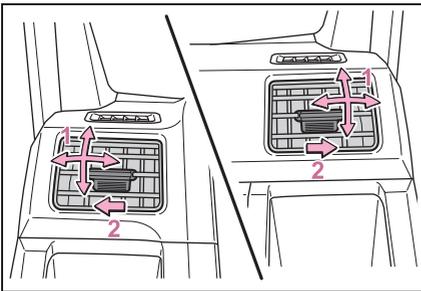


1 風向きの調整

2 吹き出し口を閉じる

風向きを下側いっぱい調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

▶ 左右吹き出し口



1 風向きの調整

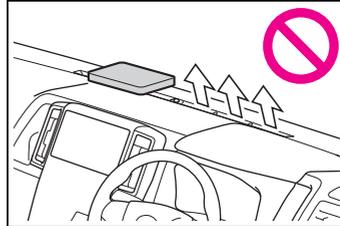
2 吹き出し口を閉じる

風向きを車両外側いっぱい調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

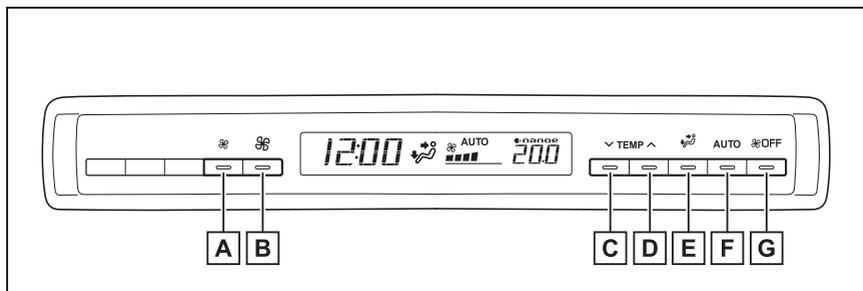
吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



リヤオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リヤエアコン操作スイッチについて



- A** 風量減スイッチ
- B** 風量増スイッチ
- C** 温度調整（下げる）スイッチ
- D** 温度調整（上げる）スイッチ
- E** 吹き出し口切りかえスイッチ
- F** AUTO スイッチ（オート設定）
- G** OFF スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整（上げる）スイッチを、下げるときは温度調整（下げる）スイッチを押す

■ 風量を切りかえる

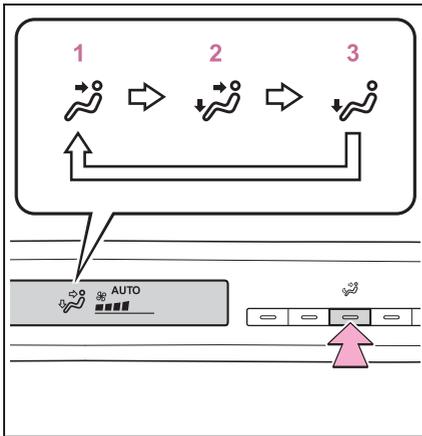
風量を増やすには風量増スイッチを、減らすには風量減スイッチを押す

送風を停止するときには、OFF スイッチを押します。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押

す
押すたびに吹き出し口が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風

知識

■「ナノイー」について

→P.243

■エアコンの臭いについて

- リヤエアコン使用中に、車室内のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■「ナノイー」について

→P.244

注意

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

→P.244

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量と吹き出し口が自動で設定されます。

2 温度を設定する

風量や吹き出し口を切りかえると、モニター部の“AUTO”が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

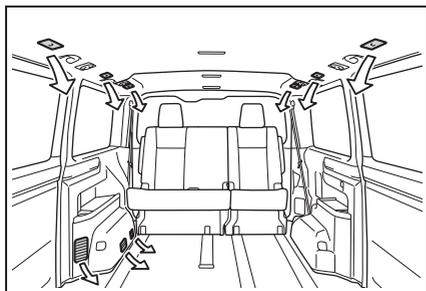
前席からリヤエアコンを操作する

→P.244

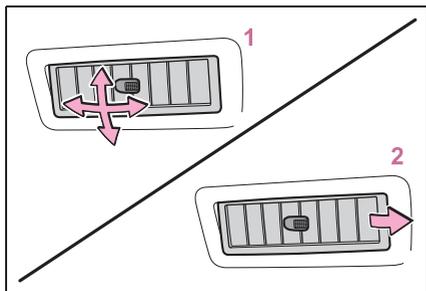
吹き出し口について

■吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉（天井吹き出し口）



1 風向きの調整

2 吹き出し口を閉じる

風向きを車両後方側いっばいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

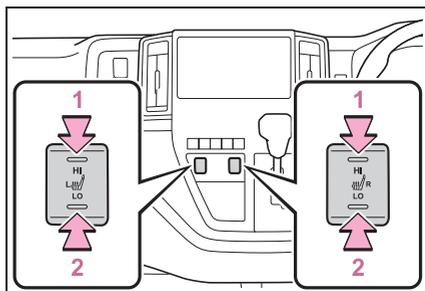
シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

シートヒーターを操作するには

■ フロントシート

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



1 HI（強）

2 LO（弱）

作動中はインジケーターが点灯します。作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、インジケーターが消灯します。

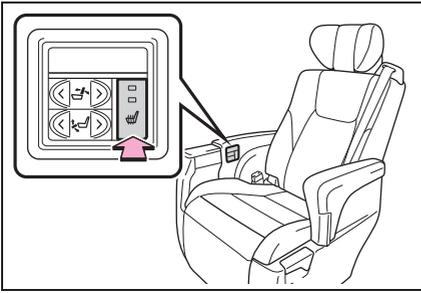
■ リヤパワーシート

スイッチを押してシートヒーターを作動させる

作動中はインジケーターが点灯します。

スイッチを押すたびに作動状態が次のように切りかわり、インジケーターの数が変わります。

強（2個点灯）→弱（1個点灯）→OFF



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

⚠ 警告

■ 低温やけどや異常過熱を防ぐために

- 次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続使用しない
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しない

⚠ 注意

■ シートヒーターの損傷を防ぐために

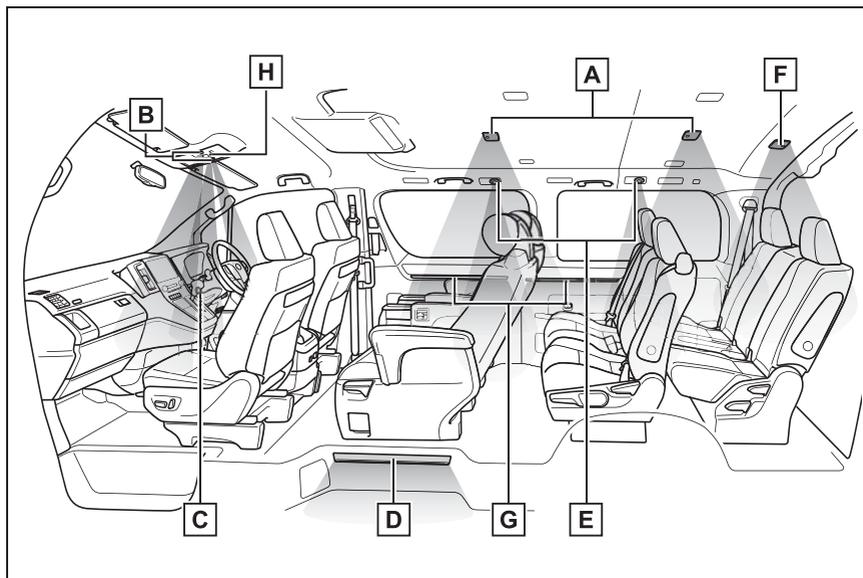
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置



- A** リヤインテリアランプ (→P.251)
- B** フロントインテリアランプ・パーソナルランプ (→P.251)
- C** エンジンスイッチ照明
- D** ステップランプ (→P.90)
- E** 読書灯 (→P.251)
- F** ラゲージルームランプ (→P.98)
- G** サイドカラーイルミネーション
- H** シフトレバー照明

知識

■各部照明の自動点灯/消灯について

- 電子キーの検知・ドアの施錠/解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。(イルミネーテッドエント

リーシステム)

- エンジンスイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から

強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。)

■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。(→P.362)



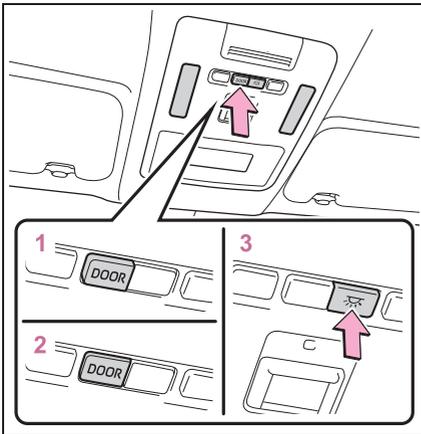
注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

インテリアランプを操作するには

■ フロントインテリアランプ



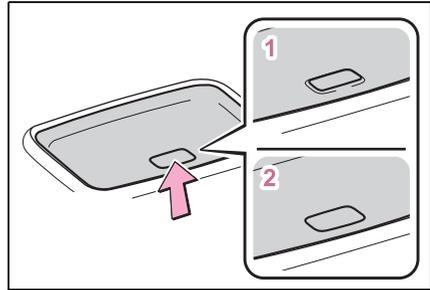
- 1 ドア連動を OFF にする
- 2 ドア連動を ON にする (ドアポジション)
- 3 ランプを点灯/消灯する

ドア連動 ON にしていると、フロントドアまたはスライドドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます

- 3 ランプを点灯/消灯する

リヤインテリアランプが連動して点灯・消灯します。

■ リヤインテリアランプ



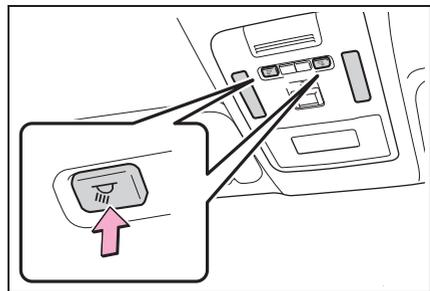
- 1 ランプを点灯する
- 2 ドア連動を ON にする (ドアポジション)

フロントドアまたはスライドドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

フロントインテリアランプに連動してランプが点灯・消灯します。

パーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する



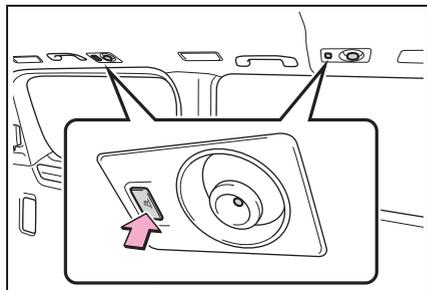
読書灯を操作するには

点灯/消灯

スイッチを押すたびに明るさを 4 段階に切りかえることができます。

スイッチを押し続けると、どの段階の明

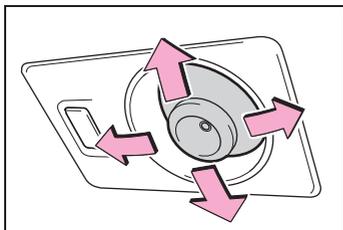
るさからでも消灯します。



□ 知識

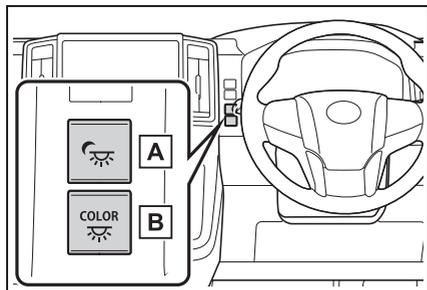
■ 読書灯について

お好みの角度に調整できます。



サイドカラーイルミネーションを操作するには

▶ フロント



□ A 点灯／消灯

スイッチを押すたびに明るさを 4 段階に切りかえることができます。

スイッチを押し続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。

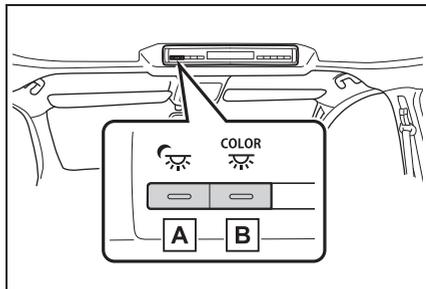
フロントドアまたはスライドドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

□ B 色をかえる

スイッチを押すたびに切りかえることができます。

3 色から選択できます。

▶ リヤ



□ A 点灯／消灯

スイッチを押すたびに明るさを 4 段階に切りかえることができます。

スイッチを押し続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。

フロントドアまたはスライドドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

□ B 色をかえる

スイッチを押すたびに切りかえることができます。

3 色から選択できます。

□ 知識

■ サイドカラーイルミネーションについて

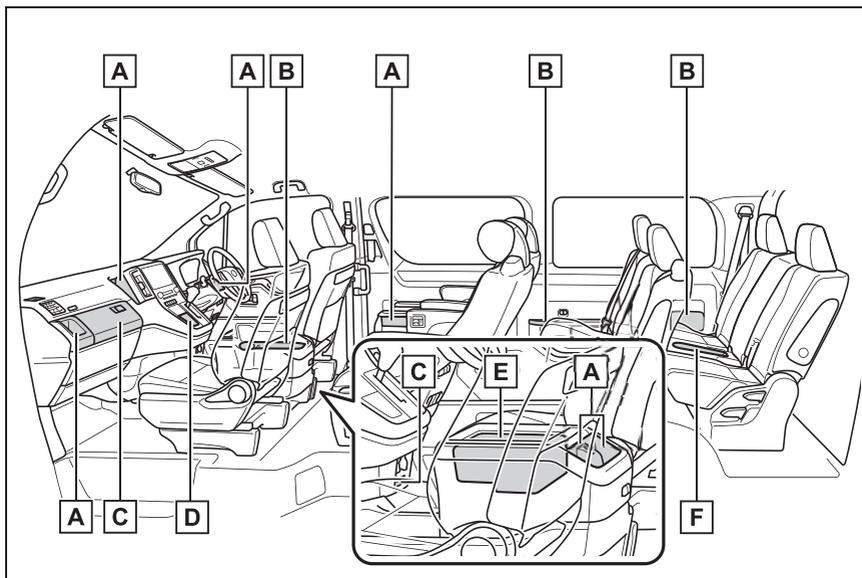
- サイドカラーイルミネーションを消灯させたあとで再度点灯させたときは、消灯前と同じ明るさになります。
- エンジンスイッチが OFF のときにサイドカラーイルミネーションを点灯しても、エンジンスイッチを ON にすると

消灯します。

- サイドカラーイルミネーションが部分的に点灯している、またはカラーが混ざって点灯しているときは、使用しないでトヨタ販売店で点検を受けてください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** カップホルダー (→P.256)
- B** ボトルホルダー (→P.257)
- C** グローブボックス (→P.255)
カードホルダー (→P.259)
- D** 小物入れ (→P.258)
- E** コンソールボックス (→P.255)
- F** オープントレイ (→P.259)

警告**■ 収納装備に放置してはいけないもの**

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

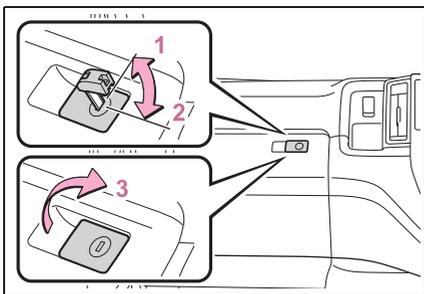
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

■ 収納装備を使用しないときは

フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

グローブボックスを使うには

レバーを引いて開ける



- 1 メカニカルキーで解錠
- 2 メカニカルキーで施錠
- 3 開ける（ノブを引く）

知識**■ グローブボックスランプ**

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

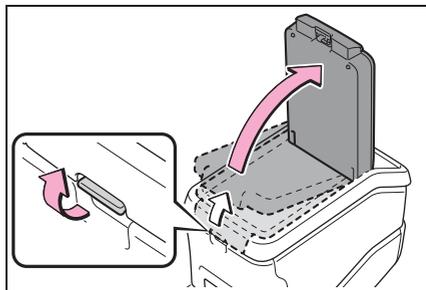
警告**■ 走行中の警告**

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックスを使うには

レバーを引いてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

**知識**

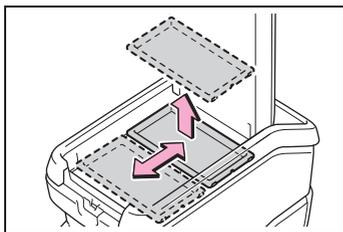
■ コンソールボックスを使用するとき
フタを開けるときは、上部のトレイに物がないことを確認して開けてください。

■ コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

■ コンソールボックス内のトレイについて

トレイはスライドさせたり、取りはずすことができます。



⚠ 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

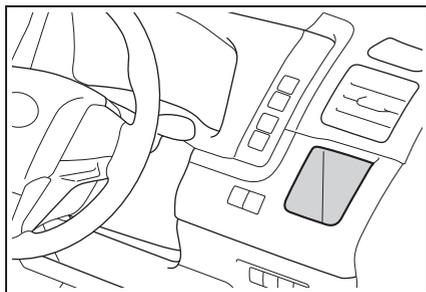
■ コンソールボックスの損傷を防ぐために

過度の負荷をかけないでください

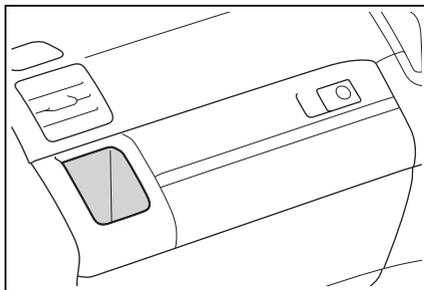
カップホルダー／ボトルホルダーを使うには

■ カップホルダー

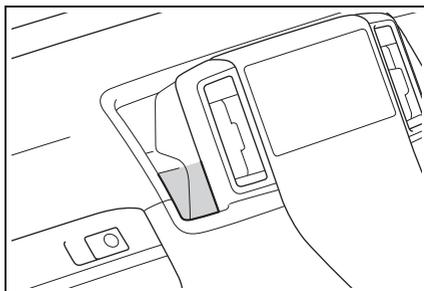
▶ 運転席側



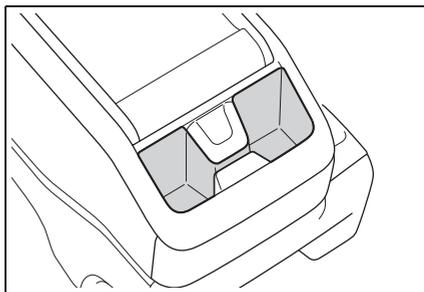
▶ 助手席側



▶ 中央側

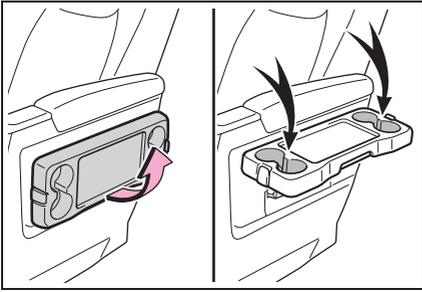


▶ コンソールボックス

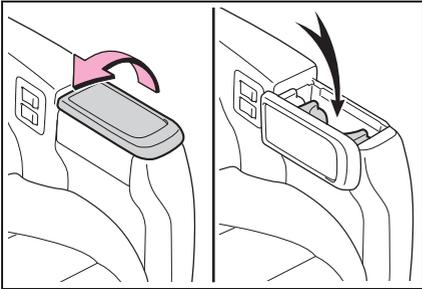


▶ サイドテーブル

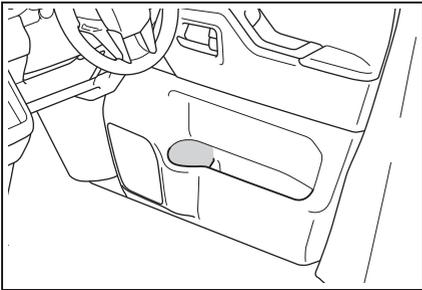
サイドテーブルを引き起こす
(→P.265)



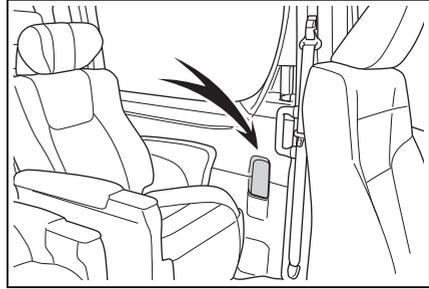
▶ リヤパワーシートアームレスト
カバーを開ける



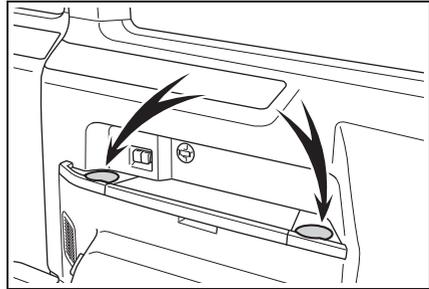
■ ボトルホルダー
▶ フロント



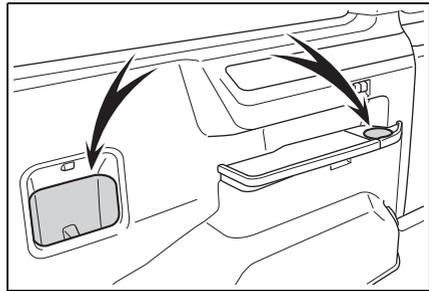
▶ スライドドア



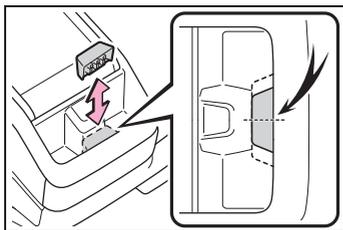
▶ リヤクォータートリム右側



▶ リヤクォータートリム左側



 知識

■ カップホルダーの仕切りについて（コンソールボックス部）


- 位置を調整することができます。
- 清掃のために取りはずすことができます。

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 **警告**
■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。

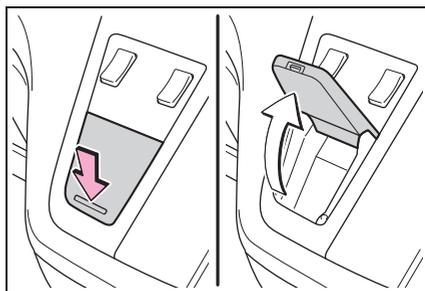
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを開けておいてください。

 **注意**
■ 収納してはいけないもの

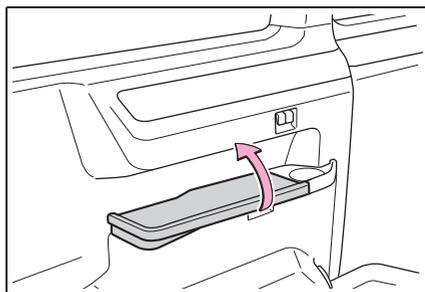
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れを使うには

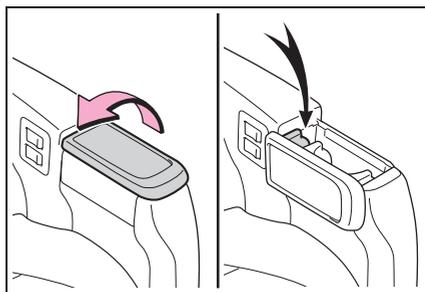
- ▶ センターパネル
フタを押して開ける



- ▶ リヤクォータートリム左側
カバーを取りはずす



- ▶ リヤパワーシートアームレスト
カバーを開ける



知識

■ 三角表示板等の収納について（リヤクォータートリム左側）

- 三角表示板等を収納することができます。
- 三角表示板等のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

警告

■ 走行中の警告

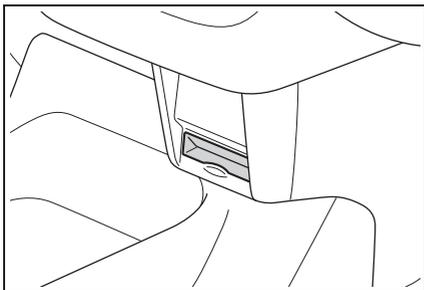
小物入れを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 三角表示板等を収納するときは（リヤクォータートリム左側）

確実に収納されていることを確認してください。確実に収納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板等が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

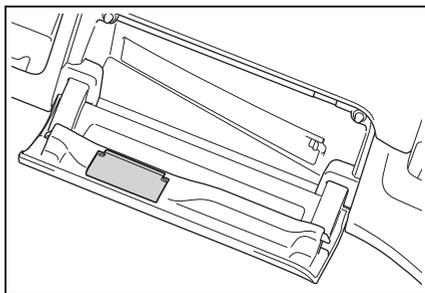
カードホルダーを使うには

▶ インストルメントパネル下部

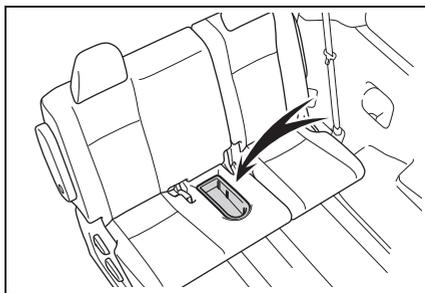


▶ グローブボックス内

グローブボックスを開ける



オープントレイ（チップアップシート）



知識

■ チップアップシートをチップアップするときは

オープントレイに物が無いことを確認してからシートをチップアップしてください。

警告

■ 収納してはいけないもの

オープントレイに物を置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

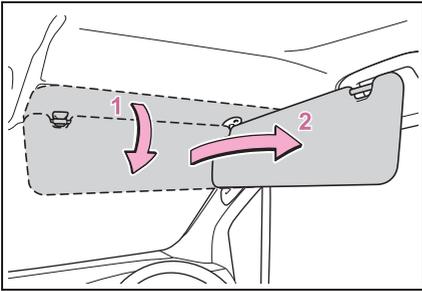
- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。

 **警告**

- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには

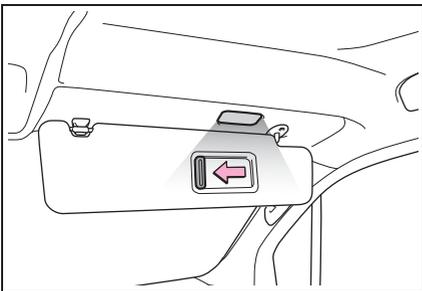


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

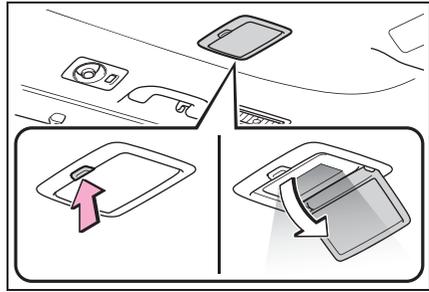
■ フロント

カバーをスライドして開ける
カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



■ リヤ★

ボタンを押して開ける
ランプが点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

📖 知識

■ 自動消灯について

エンジンスイッチがOFFの場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

■ リヤバニティミラーについて

リヤバニティミラーは走行中の振動で動くことがあるため、停車中に使用することをおすすめします。

⚠️ 注意

■ リヤバニティミラーを使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

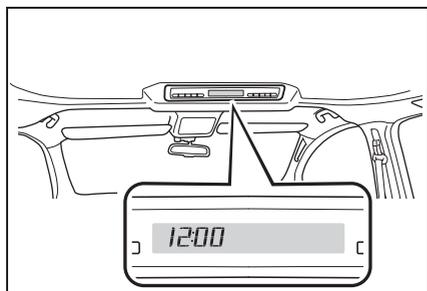
時計

■ 表示部

▶ メーター部

→P.64

▶ リヤエアコン表示部



■ 時刻の調整

GPS の時計情報（GPS 時計）を利用して時刻を自動で調整します。詳しくは別冊の「マルチメディア取扱書」を参照してください。



知識

■ 時刻が表示されるとき

エンジンスイッチが ON のとき

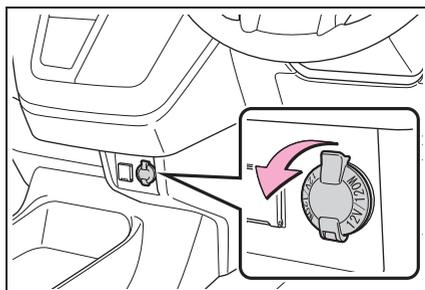
アクセサリースOCKETを使うには

DC12 V/10 A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリースOCKETに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

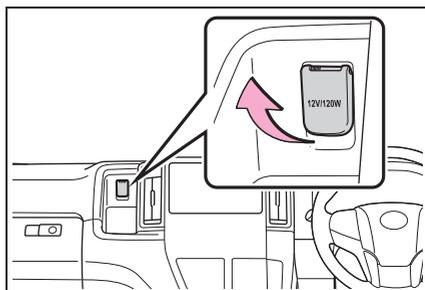
■ インstrumentパネル

フタを開けて使用する



■ 中央側カップホルダー

フタを開けて使用する



知識

■ アクセサリースOCKETを使用するとき

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

■ Stop & Start システムが作動しているときは

Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリースOCKETが使用できないことがあります。異常ではありません。

⚠ 注意

■ アクセサリーソケットを使用しないときは

ショートや故障を防ぐために、アクセサリソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリソケットを長時間使用しないでください。

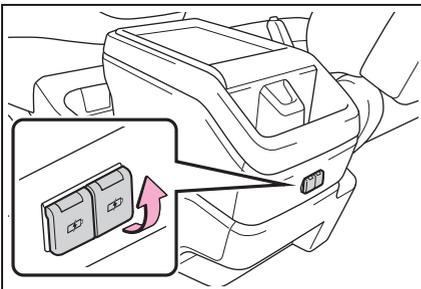
充電用 USB Type-C 端子を使うには

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

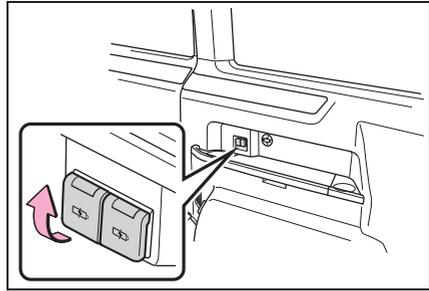
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB Type-C 端子を使用するには

- ▶ コンソールボックス
フタを開けて使用する



- ▶ リヤクォータートリム
フタを開けて使用する



□ 知識

■ 充電用 USB Type-C 端子の作動条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ 充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 注意

■ 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。

⚠ 注意

- 充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

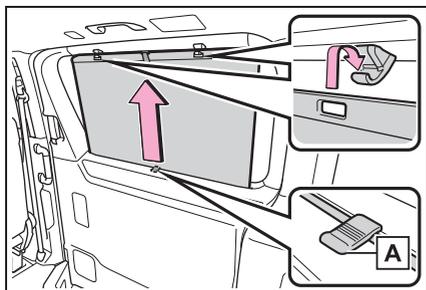
エンジンが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

後席用サンシェードを使うには

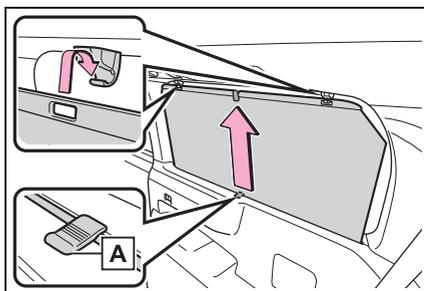
ツマミを **A** しっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくり収納します。

▶ スライドドアガラス



▶ リヤクォーターガラス



⚠ 注意

■ 正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- 後席用サンシェードにものを貼らない
- 後席用サンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない
- スライドドアが開閉しているときは、スライドドアガラス用サンシェードを操作しない
- 収納するときに傾けた状態で収納しない
傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

■ 後席用サンシェードの破損を防止するために

次のことをお守りください。

- フックが片方はずれた状態で使用しない
スライドドアを開閉するときに後席用サンシェードが破損するおそれがあります。
- フックにかけた状態でスクリーン部をひっぱらない
スクリーン部が破損するおそれがあります。

リヤアームレスト（可倒式）を 使うには

手前に倒して使用します。



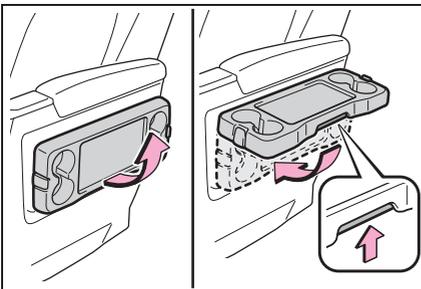
⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

サイドテーブルを使うには

サイドテーブルを引き起こす
サイドテーブルがロックしていることを
確認してください。

格納するときは、レバーを上へ引いて
テーブルを押します。



⚠ 警告

■サイドテーブルについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に傷害につながるおそれがあり危険です。

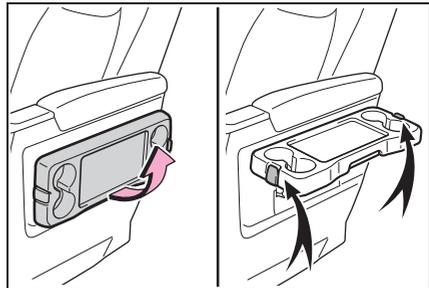
- サイドテーブルの上に乗ったり、重いものを乗せないでください。
- 使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

⚠ 注意

■サイドテーブルの損傷を防ぐために
重いものを乗せないでください。

買い物フックを使うには

サイドテーブルを引き起こす
(→P.265)



⚠ 注意

■買い物フックの損傷を防ぐために

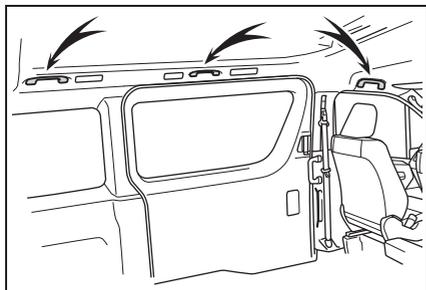
2kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

アシストグリップを使うには

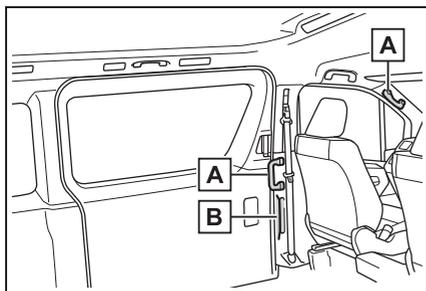
▶ 回転式

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



▶ 固定式

乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップをお使いください。



A アシストグリップ (大人用)

B アシストグリップ (子供用)

⚠ 警告

■ アシストグリップについて (回転式)

乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

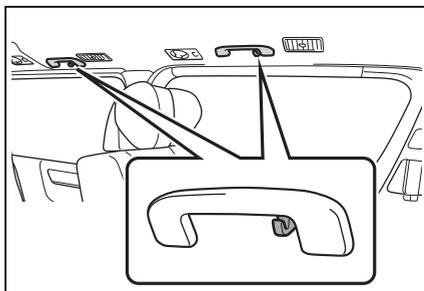
■ アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

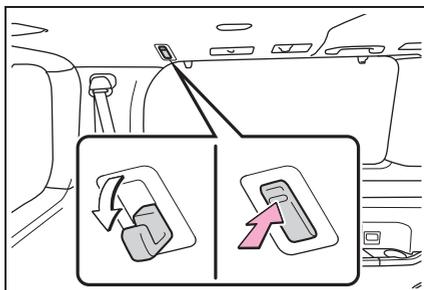
▶ 固定式

コートフックは、セカンドシート／サードシートのアシストグリップに付いています。



▶ 格納式

使用するときには、コートフックを押しします。



 **警告****■コートフックへかけてはいけないもの**

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■コートフックについて**

- コートフックに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。
- セカンドシートにあるコートフックを使用するときは、スライドドアを開閉する際にドアへ引っかからないよう注意してください。

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 270

内装の手入れ 274

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 276

AdBlue[®]（尿素水）の補充 278

ガレージジャッキ 281

ウォッシャー液の補充 282

タイヤについて 283

タイヤ空気圧について 290

エアコンフィルターの交換 291

ワイパーゴムの交換 293

電子キーの電池交換 296

ヒューズの点検・交換 298

電球（バルブ）の交換 300

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

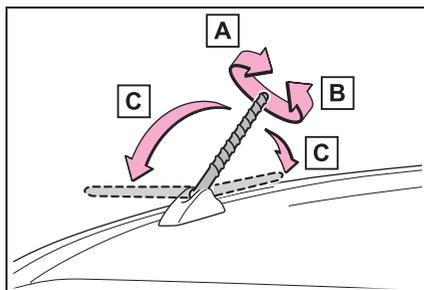
- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、脱着または格納することができます。



A 取りはずす

B 取り付ける

C 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■ 自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ アンテナを取りはずす
 - ・ パワースライドドアを停止する

車両前側から洗車してください。走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■ 高圧洗車機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。近付

けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠/解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.101）

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておく、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。

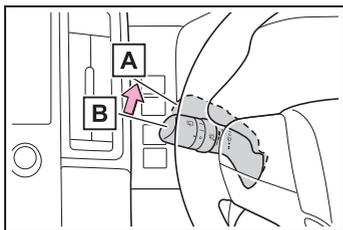
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

● 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

● 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

● フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

● 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニターについて

リアバンパー上方の塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

● 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- ・ 海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

 注意

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

■ 自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1 % にうすめてやわらかい布に含ませふき取る水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

- 車内で可燃性のスプレー（洗剤・消臭剤・潤滑剤など）を使用する場合は、電気部品などにかからないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P.32）電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- **内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

 注意

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.162)

■ リヤウィンドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5 % とうすめて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

 注意

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

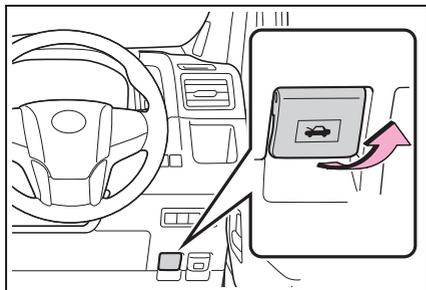
合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1 % とうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

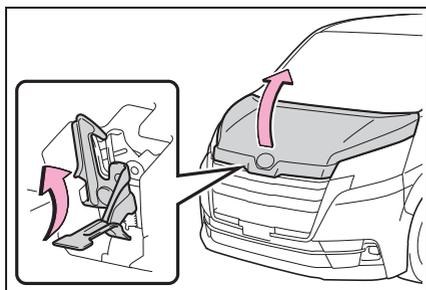
ボンネット

ボンネットを開けるには

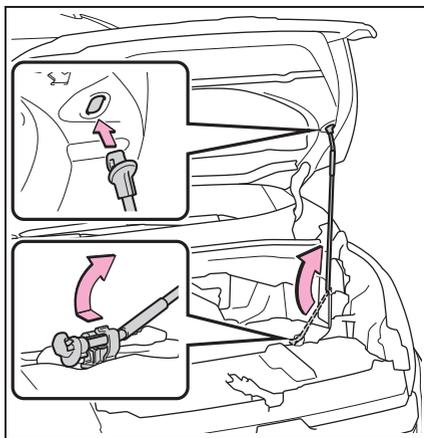
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げてボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

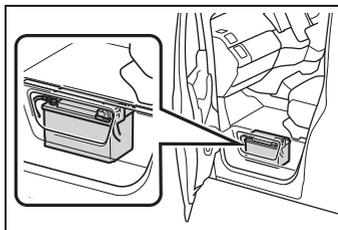


知識

■バッテリーについて

この車両のバッテリーは助手席側の足元の下にあり、エンジンルームには搭載されていません。

バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して処置を行います。(→P.339)



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ けがを防ぐために

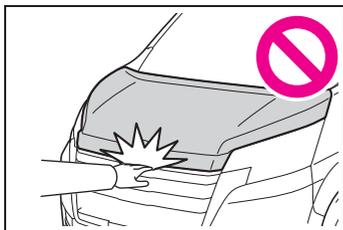
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ ボンネットへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

注意

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

AdBlue[®]（尿素水）の補充

この車は排気ガス中の窒素酸化物を低減するために AdBlue[®] を使用しています。AdBlue[®] について、次のことにご留意ください。

- AdBlue[®] は走行に従って消費されます。
- AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを再始動できなくなります。

走行可能距離について

AdBlue[®] の消費量は運転状況や走行環境などにより異なります。

AdBlue[®] の消費量が多くなると、AdBlue[®] の補給が必要になるまでの走行可能距離が短くなります。

走行可能距離		
短 ^{※1}		長
		
[高負荷走行]	[通常走行] ^{※2}	[低負荷走行]
<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセルを深く踏み込んでいるとき ・ 長い上り坂を走行しているとき ・ 排出ガス浄化装置が働いているとき 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 短距離を走行するとき ・ 渋滞のとき

^{※1} 高地（標高が高いとき）や気温が低い時も、AdBlue[®] の消費量が増加します。

^{※2} 通常の走行では、約 1000km 走行すると、1L の AdBlue[®] を消費します。また、最大まで補充した状態から約 13000km 走行すると、残量がなくなります。

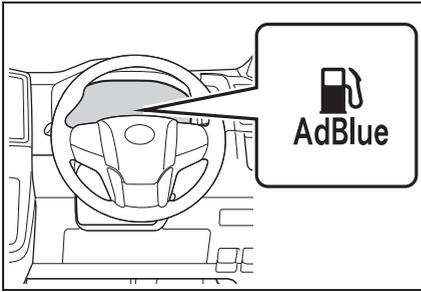
AdBlue[®] の警告灯・警告メッセージ

AdBlue[®] の残量が少なくなると警告メッセージ（→P.279）と警告灯でお知らせします。

走行可能距離が約 3000km になると警

告メッセージが表示されます。

走行可能距離が約 2000km 以下になると警告灯が点灯し、警告メッセージが表示されます。



■ マルチインフォメーションディスプレイに AdBlue[®] に関する警告メッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

警告メッセージ	対処方法
AdBlue を 3000km 以内に補充必要 取扱書を確認	AdBlue [®] を補充してください。
AdBlue が低下 2000km 以内に補充必要 取扱書を確認 ※1	
あと 800km で再始動不可 AdBlue 補充必要 取扱書を確認 ※1, 2	ただちに AdBlue [®] を補充してください。 表示されている距離をこえて走行すると、エンジンを再始動できなくなります。
エンジン再始動不可 AdBlue 補充必要 取扱書を確認 ※2	ただちに AdBlue [®] を補充してください。 エンジンを停止させると、再始動できません。

※1 走行距離は、目安としてご利用くださ

い。補充方法・運転状況・走行環境などにより、表示された走行可能距離と実際の走行距離とが異なる場合があります。(→P.278)

※2 警告メッセージに合わせてブザーが鳴ります。

⚠ 注意

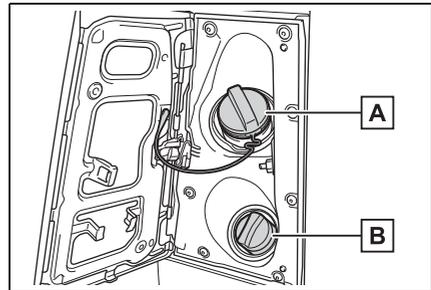
■ AdBlue[®] の残量が少なくなったとき

AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを始動できなくなります。

残量がなくなる前に AdBlue[®] を補充してください。

AdBlue[®] を補充するには

■ AdBlue[®] 補給口の位置



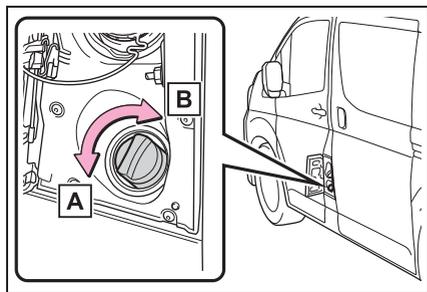
A 給油口 (→P.160)

B AdBlue[®] 補給口

■ AdBlue[®] の補充

AdBlue[®] の残量がなくなってエンジンが始動できなくなってしまうときは、約 5.0L 以上の AdBlue[®] を補充することで、エンジンを始動することができます。次の手順で AdBlue[®] を補充してください。(AdBlue[®] タンク容量は 13.1 L です)

- 1 平坦な場所に駐車してエンジンスイッチを OFF にし、給油扉を開ける (→P.160)
- 2 補給口のキャップを開け、あふれないようゆっくりと AdBlue[®] を補充する



A 開ける

B 閉める

キャップが“カチッ”と鳴るまで閉めてください。

- 3 エンジンが始動することを確認する

警告灯・警告メッセージが消えたことを確認してください。

知識

■ AdBlue[®] の補充について

AdBlue[®] (ISO 22241-1 に準拠したものを) を使用してください。

AdBlue[®] (アドブルー) はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

■ AdBlue[®] を補充するとき

AdBlue[®] の補充後は、エンジンが始動するまでの時間が通常よりも数秒、長くなることがあります。

⚠ 注意

■ AdBlue[®] を補充するとき

AdBlue[®] を補充するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

- AdBlue[®] 以外の尿素水を補充しない
- AdBlue[®] が車両の塗装部分に付着してしまった場合は、すぐに水で洗い流す

■ AdBlue[®] の保管について

AdBlue[®] を保管するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装の損傷、また、AdBlue[®] の成分が変質し異臭の発生につながるおそれがあります。

- AdBlue[®] を車内に放置しない
- AdBlue[®] の容器を密閉し、直射日光の当たらない、換気の良い冷暗所に保管する

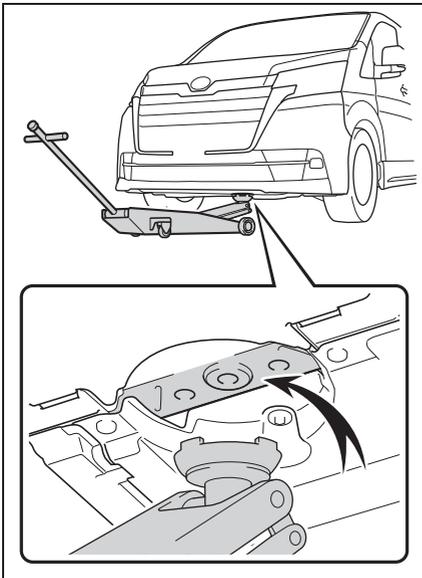
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

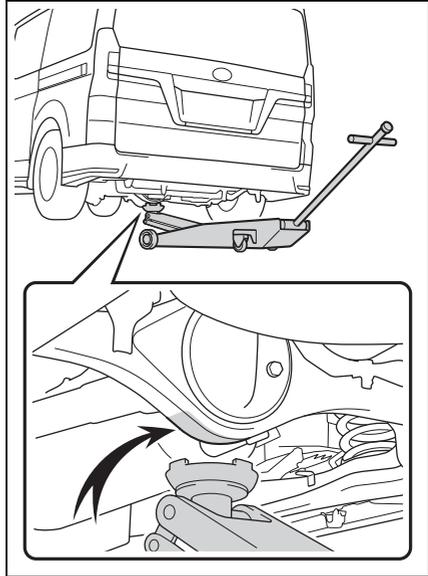
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



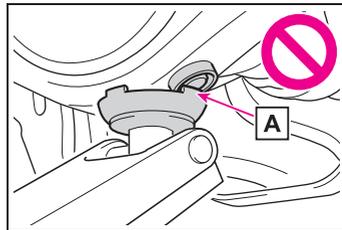
■ リヤ側



⚠ 注意

■ ガレージジャッキでリヤ側を持ち上げるとき

ガレージジャッキの受け皿の凸部がボルトにあたらないようにしてください。ボルトがゆるんでオイルがもれるおそれがあります。

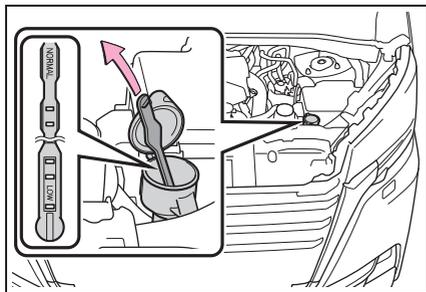


A 凸部

ウォッシャー液の補充

補充するには

液面が LOW の位置まで低下したら、ウォッシャー液を補充する

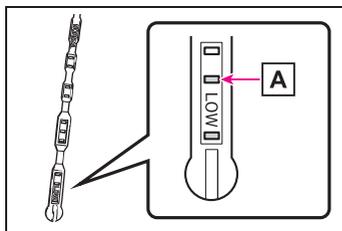


知識

■ ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった (LOW の位置まで低下した) ら、ウォッシャー液を補充してください。



A 現在の液量

警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を10000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無



知識

■ タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

前輪：300kPa (3.0kg/cm²) ※

後輪：350kPa (3.5kg/cm²) ※

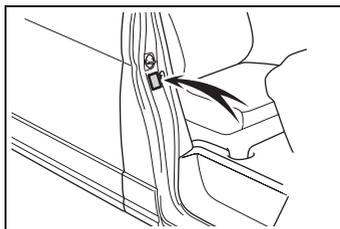
なお、乗車人数が5名以下の場合は、乗り心地を重視した次のタイヤ空気圧を使

用することができます。タイヤ空気圧を変更したあとは、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください（→P.286）。タイヤ空気圧を変更した場合、燃費やタイヤの摩耗に影響がありません。

前輪：300kPa (3.0kg/cm²) ※

後輪：300kPa (3.0kg/cm²) ※

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

● 燃費の悪化

● 乗り心地や操縦安定性の低下

● 摩耗によるタイヤ寿命の低下

● 安全性の低下

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ 点検・交換時について

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない
- タイヤ空気圧は乗車人数に合わせて使用する

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

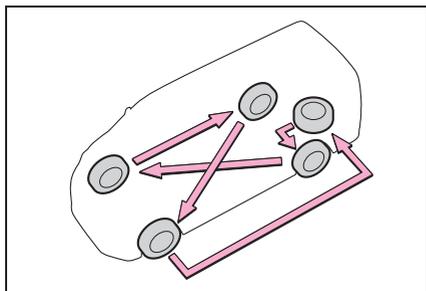
段差や凹凸のある路上を走行するときには注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。



タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→P.320)
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。



知識

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき
 - ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
 - ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
 - ・ 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
 - ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
 - ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・ スペアタイヤが電波受信の悪い環境にあるとき
 - ・ 電波受信に影響をおよぼすような大きな金属がラゲージルームにあるとき
- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・

空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき
- ・電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

● 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

● タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムの警報精度について

タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用のIDコードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.288）

□ 知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機のIDコードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約10分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約1分

間点滅、その後点灯します。

⚠ 注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

● タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。

● トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。

トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

● ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

● バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。

● バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要なとき

● タイヤローテーションを実施したとき

● 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき

● IDコードの登録を実施したとき

(→P.288)

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。また、タイヤの位置判定を行います。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20分以上エンジンを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

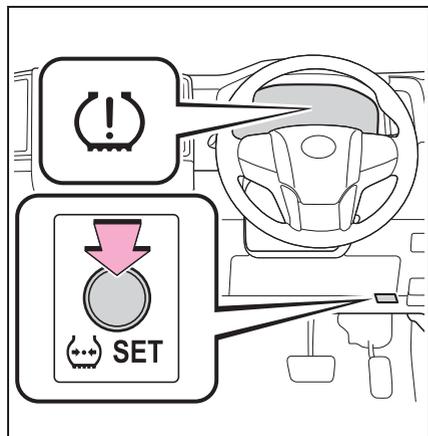
2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する (→P.353)

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 エンジンを始動する (→P.140)

4 タイヤ空気圧警告灯が3回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が“---”になり、タイヤの位置判定を開始します。



5 約40km/h以上を維持しながら約10～30分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチイ

ンフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

約40km/h以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了しますが、1時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約20分間停車したあと、再度走行し直してください。

□ 知識

■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するときは

- 通常は約30分以内の走行で初期化が完了します。
- 車速が約40km/h以上のときに行われます。
- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ 初期化操作について

- 初期化中にエンジンスイッチをOFFにしてしまった場合は、次回イグニッションONモードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらかじめリセットスイッチを押し直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押ししてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。
- **タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき**
 - 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
 - ・ 約 40km/h 以上を維持して走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - 1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。
 - 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
 - 初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
 - 上記の方法でも初期化できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードの登録について

- ID コード登録が必要なとき
- 新しいバルブ／送信機を装着したとき

- すでに ID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コードの登録のしかた

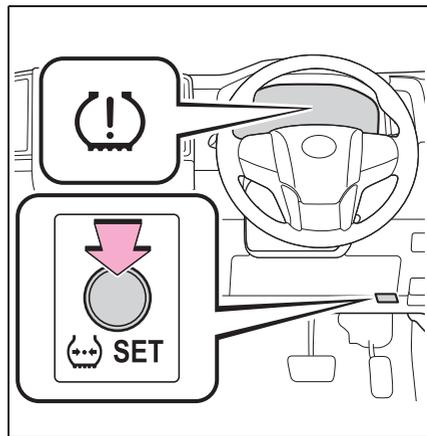
- 1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）
- 2 エンジンを始動する（→P.140）
- 3 リセットスイッチを素早く 3 回連続で押す

タイヤ空気圧警告灯が 3 回ゆっくり点滅します。

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が“---”になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。



- 4 約 2 分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合

5 タイヤ空気圧警報システムを初期化する (→P.286)

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合

5 約 40km/h 以上を維持しながらタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

6 タイヤ空気圧警報システムを初期化する (→P.286)

知識

■ ID コードの登録をするときは

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。すでに ID コードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。
- ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- 登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ/送信機を装着したホイールがないことを確認してください。
- ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録

が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ ID コード登録の中止について

- ID コードの登録を中止するには、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。
走行し始めたあとに登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。
 - ID コードの登録を中止した場合、次回エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。
タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。
 - しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチを OFF にしてください。
 - ID コードの登録がうまくいかないとき
 - 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - ・ 走行前に約 15 分以上駐車していない
 - ・ 約 40km/h 以上を維持して走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・ タイヤ空気圧バルブ/送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録中に車を後退させると、それまで

のデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

- 登録操作時に警告灯がゆっくり3回点滅しない場合、IDコードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でもIDコードを登録できない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

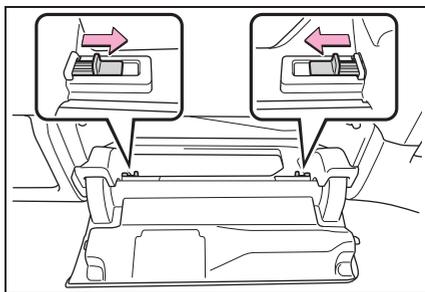
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気もれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

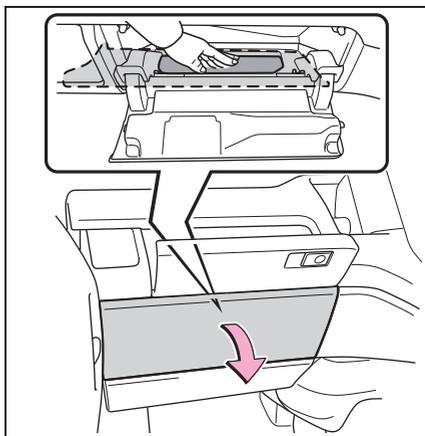
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

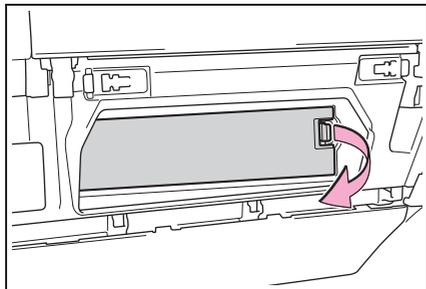
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ノブをスライドさせてロックを解除する



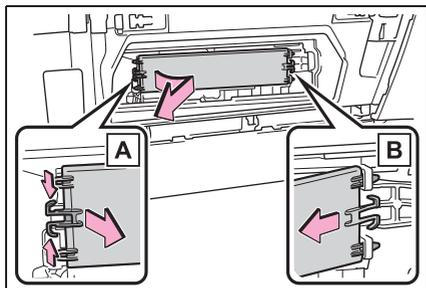
- 3 パネルをグローブボックスの内側から押しはさず



4 カバーをははずす

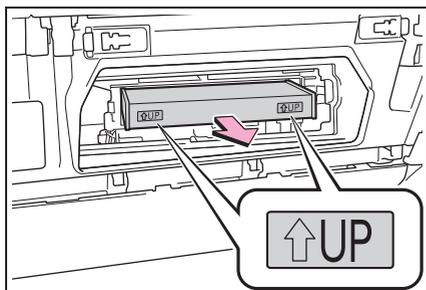


- 5 フィルターカバーのロックをははずし (A)、ツメからフィルターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす



- 6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。


 知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km[7,500km^{※1}]ごと、ただし12ヶ月をこえないこと^{※2}

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 注意

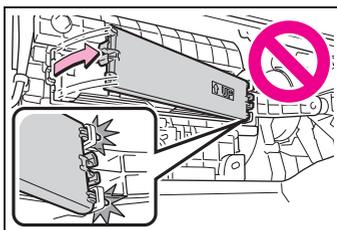
■ エアコンを使用するときの注意

● フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

● フィルターは交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの損傷を防ぐために

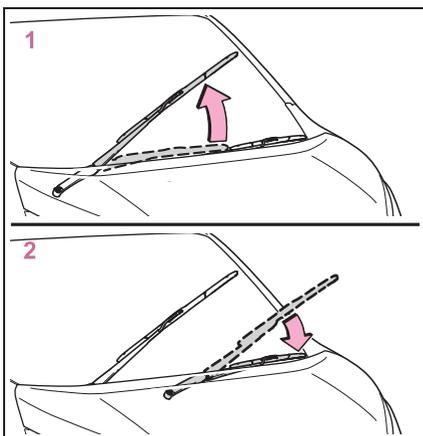
フィルターカバーを取りはずす際にフィルターカバーのツメに無理な力が加わらないように注意してください。ツメが損傷すおそれがあります。



ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領で作業を行ってください。

フロントワイパーアームの取り扱い方法

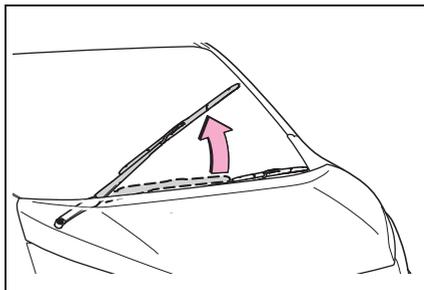


- 1 ワイパーアームを起こすときは、運転席側から助手席側の順番でアームを持ち上げる
- 2 もとの位置にもどすときは、助手席側から運転席側の順にアームを降ろす

フロントワイパー

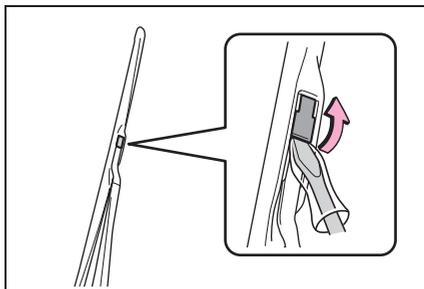
■ フロントワイパーブレードの脱着

- 1 ワイパーアームを起こす



- 2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起こす

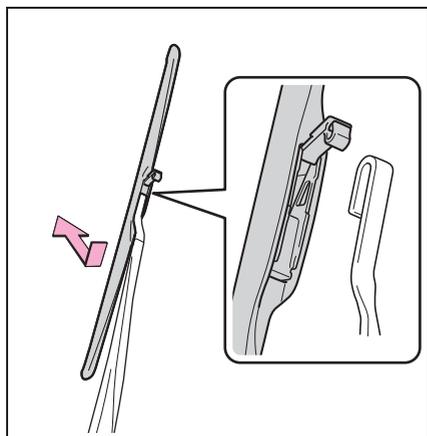
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

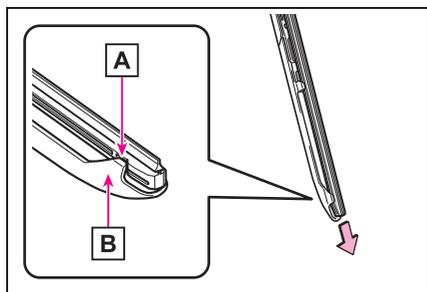
取り付けるときは、取りはずしたときと

逆の手順で取り付けます。



■ ワイパーゴムの交換

- 1 ワイパーゴムを引っ張り、ワイパーブレードのツメをストッパーからはずし、そのまま引き抜く



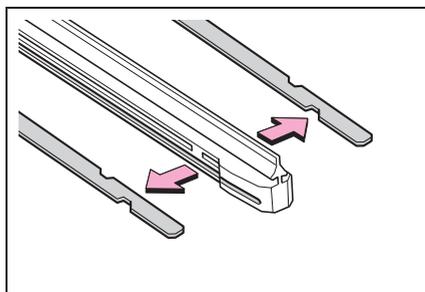
A ストッパー

B ツメ

- 2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート2枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認して

ください。

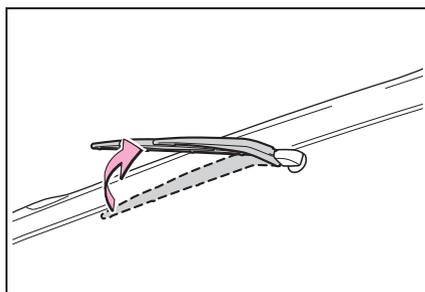


- 3 ストッパーがない側を先にし、ワイパーゴムをワイパーブレードに挿入する
- 4 ワイパーブレードのツメで、ワイパーゴムのストッパーを確実に固定する

■ リヤワイパー

■ リヤワイパーブレードの脱着

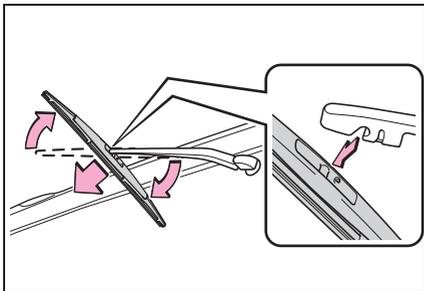
- 1 ワイパーアームを起こす



- 2 “カチッ”と音がしてツメのかん合がはずれる位置までワイパーブレードを起こし、ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してく

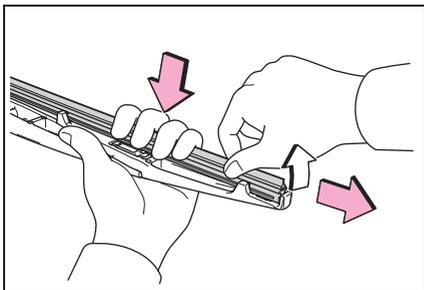
ださい。



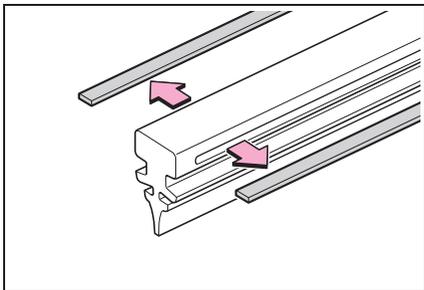
■ ワイパーゴムの交換

- 1 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

ワイパーブレードのツメとツメの中央付近を軽く握って押すとワイパーゴムが浮き上がり、引き抜きやすくなります。

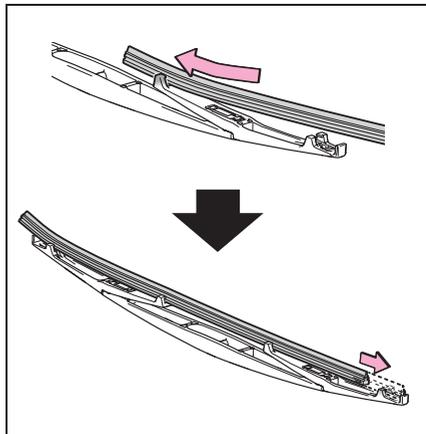


- 2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート2枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる



- 3 ワイパーブレード中央部のツメを通してワイパーゴムを挿入し、3つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った1つのツメに通す

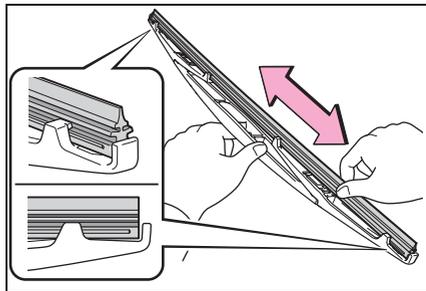
ワイパーゴムにウォッシュ液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



- 4 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。

ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



□ 知識

■ ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ 損傷を防ぐために

- ワイパーアームを起こすときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。
- ワイパーゴムを交換するときは、ツメの破損に注意してください。
- ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずしたあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

□ 知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

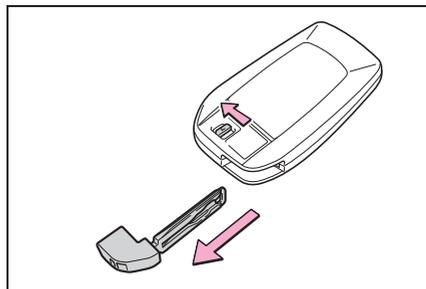
□ 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

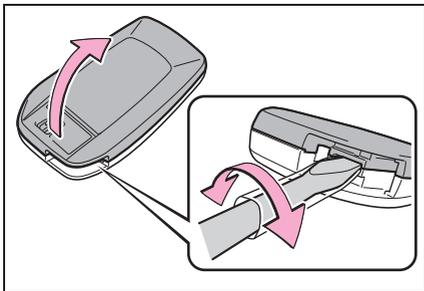
- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

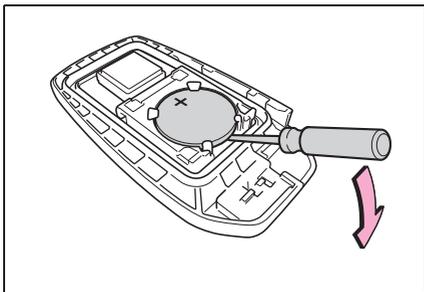


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
 - 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
 - カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- #### ■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために
- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
 - 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
 - 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

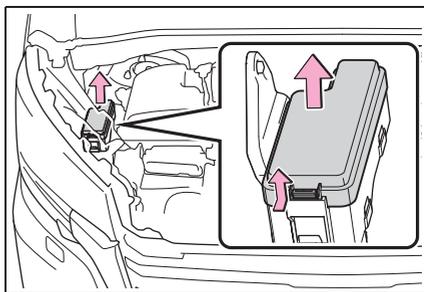
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系
統の装置が働かないときは、
ヒューズ切れが考えられます。
ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするに は

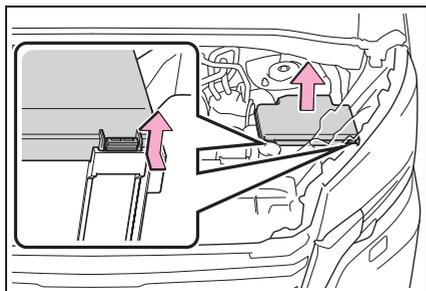
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
 - 2 ヒューズボックスを開ける
- ▶ エンジンルーム（ヒューズボッ
クス A）

ツメを押してロックをはずし、カバーを
持ち上げる

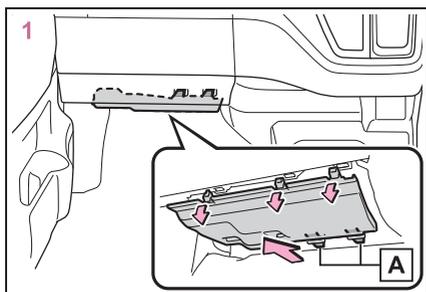


- ▶ エンジンルーム（ヒューズボッ
クス B）

ツメを押してロックをはずし、カバーを
持ち上げる

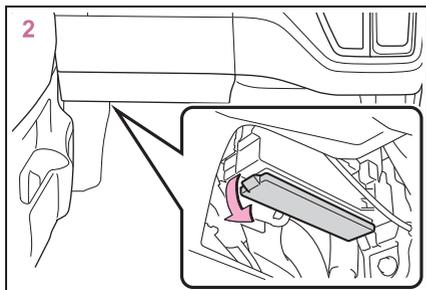


▶ 助手席足元



1 足元のカバーを取りはずす

元に戻すときは2箇所ツメ (A) をしっかり取り付けてください。

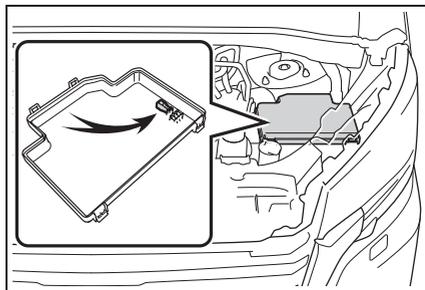


2 カバーを取りはずす

3 ヒューズを引き抜く

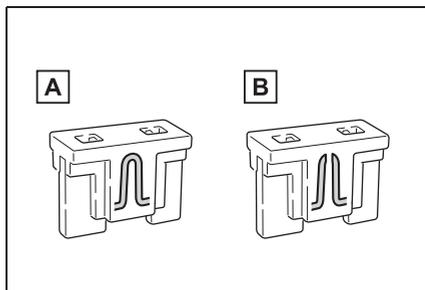
ヒューズはずしでヒューズを引き

抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ



知識

■ ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.300)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかる

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

⚠ 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

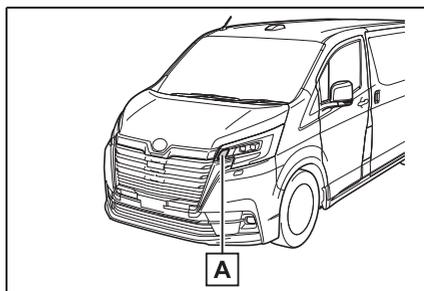
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.353）

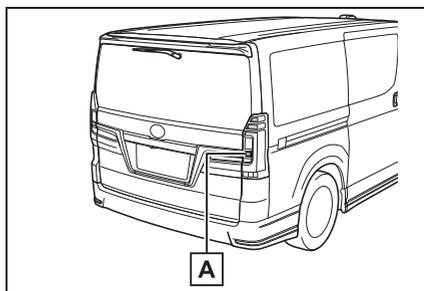
電球の位置

▶ フロント



A フロント方向指示灯／非常点滅灯

▶ リヤ



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

■ トヨタ販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯／LED デイライト
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- 制動灯
- 尾灯
- 後退灯
- リヤフォグランプ★
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ LED ランプについて

フロント方向指示灯／非常点滅灯とリヤ方向指示灯／非常点滅灯以外のランプはLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

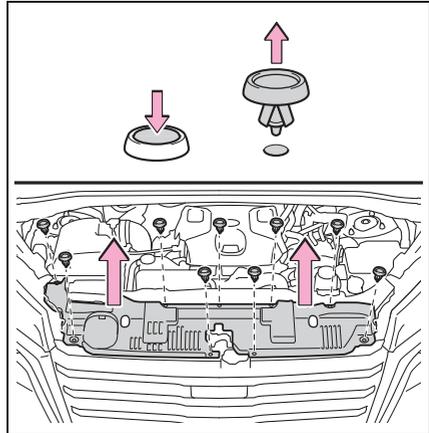
レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

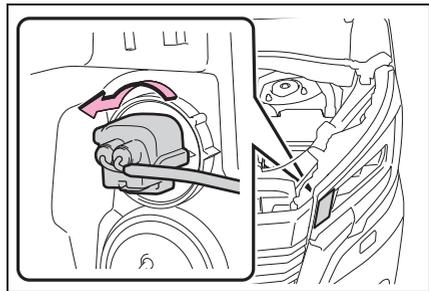
電球交換をするには

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

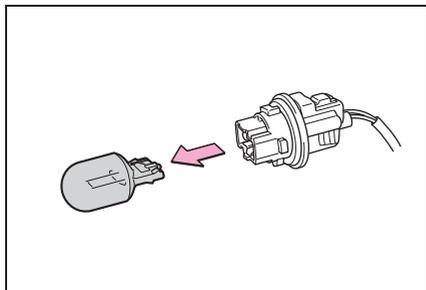
- 1 運転席側のみ：クリップを取りはずし、エンジンカバーを取りはずす



- 2 ソケットを左にまわして取りはずす



3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

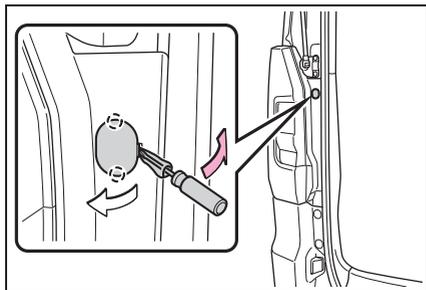
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

1 上側のカバーを取りはずす

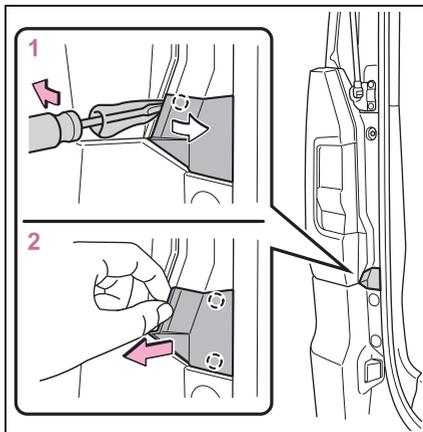
図のようにマイナスドライバーを使って、カバーのツメ（2箇所）をはずします。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

カバーをはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。



2 下側のカバーを取りはずす



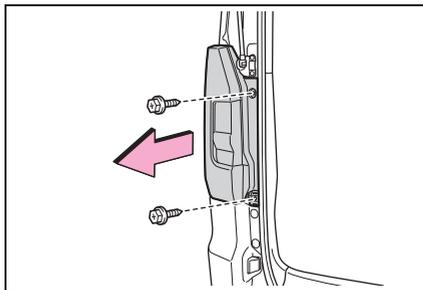
1 図のようにマイナスドライバーを使って、カバーのツメ（1箇所）をはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

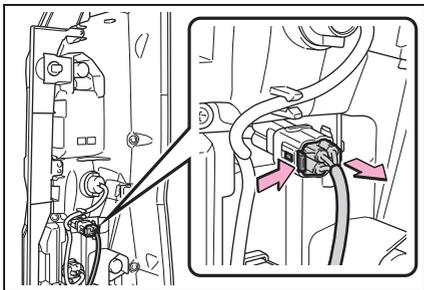
カバーをはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

2 カバーを後方にひいてツメ（2箇所）をはずす

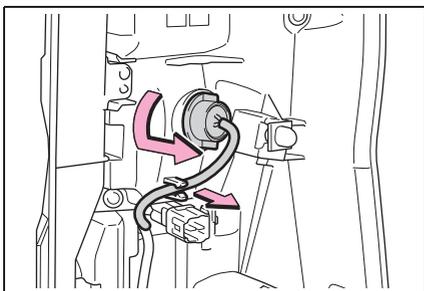
3 ネジを取りはずし、ランプ本体を取りはずす



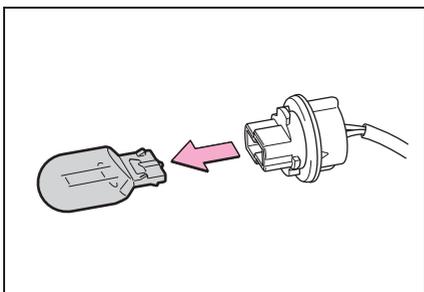
- 4 ロックを外して、コネクタを取りはずす



- 5 ハーネスを取りはずし、ソケットを左にまわして取りはずす



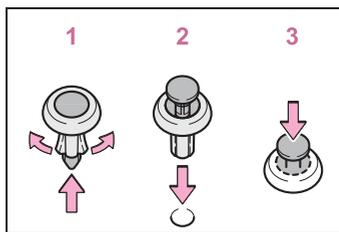
- 6 電球を取りはずす



- 7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

- エンジンカバーのクリップを取り付けるときは



- 1 クリップの中央部分を押し上げる
- 2 挿し込む
- 3 クリップの中央部分を押し下す

警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告****■ お車の故障や火災を防ぐために**

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

7-1. まず初めに

- 故障したときは 306
- 非常点滅灯（ハザードランプ） 307
- 発炎筒 307
- 車両を緊急停止するには 308
- 水没・冠水したときは 309

7-2. 緊急時の対処法

- けん引について 311
- 警告灯がついたときは 315
- 警告メッセージが表示されたときは
..... 322
- パンクしたときは 326
- エンジンがかからないときは .. 335
- キーをなくしたときは 336
- 電子キーが正常に働かないときは
..... 337
- バッテリーがあがったときは .. 339
- オーバーヒートしたときは 344
- スタックしたときは 347

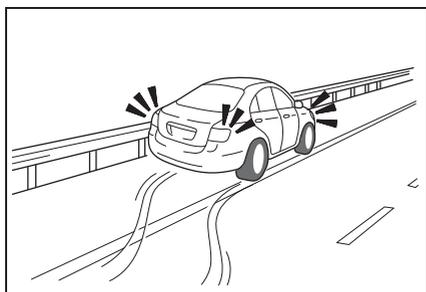
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

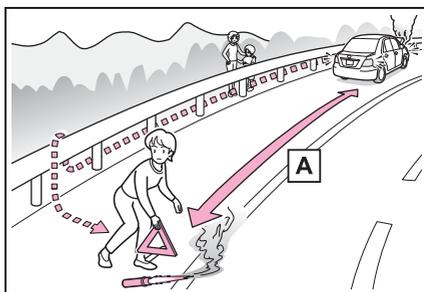
- 非常点滅灯 (→P.307) を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
- 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m以上後方 (A) に発炎筒 (→P.307) と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

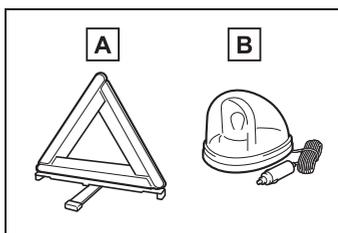
- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

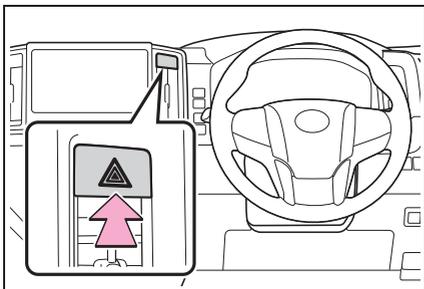
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■ 非常点滅灯について

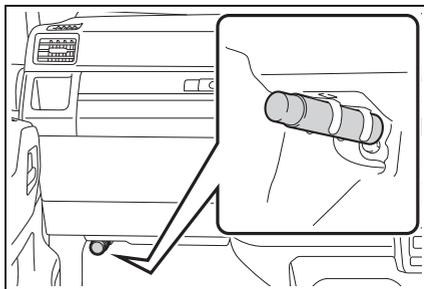
- エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。
(衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります)

発炎筒

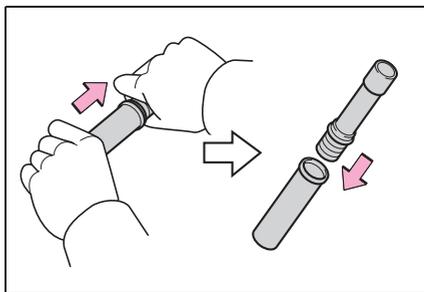
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください) 発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



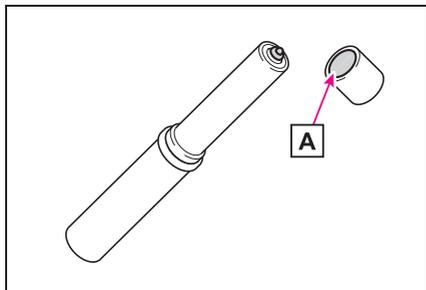
- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬 **A** で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

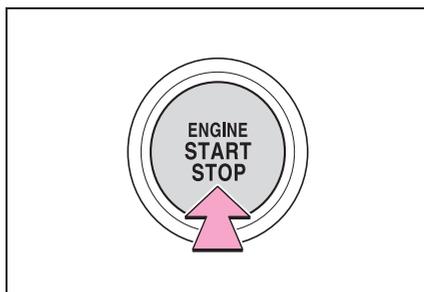
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 知識

■ エンジンを再始動するには

走行時のエンジン緊急停止後にエンジンを再始動するには、シフトレバーをNにしてからエンジンスイッチを短く確実に押します。

 **警告**

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

 知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー[※]の使用について**▶ 6人乗り**

この車両のフロントウインドウガラスとスライドドアガラスには合わせガラスが使用されております。

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー[※]で割ることができません。

▶ 8人乗り

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー[※]で割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

[※] 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

**警告****■ 走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

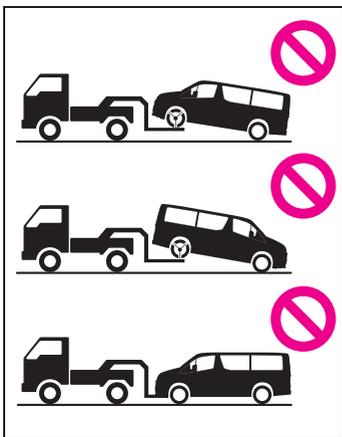
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチをOFFにしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけた
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

⚠ 注意

■ Stop & Startシステム装着車をけん引するとき

4輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチをOFFにしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチをONにしてください。

■ リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

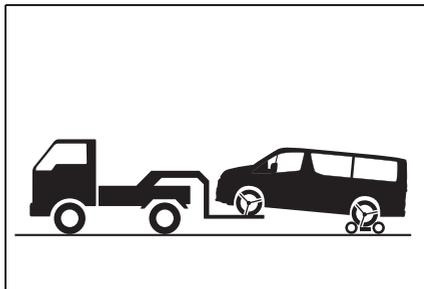
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかると車が動かない
- 異常な音がある

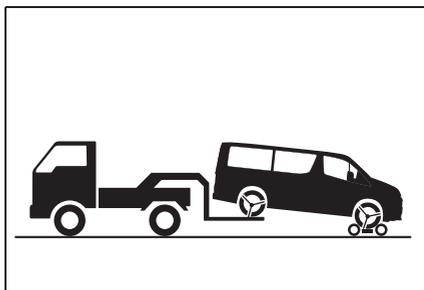
レッカー車でけん引するには

▶ 前向きにけん引するとき



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するとき

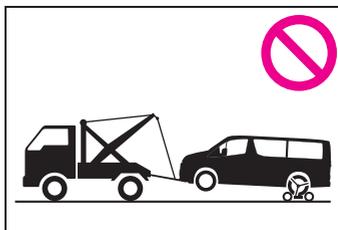


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

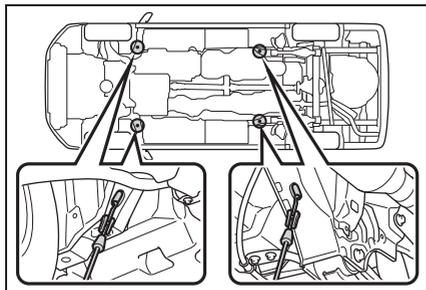
■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

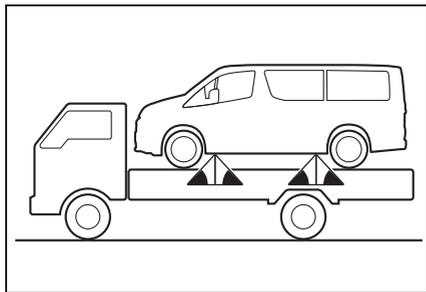


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



注意

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

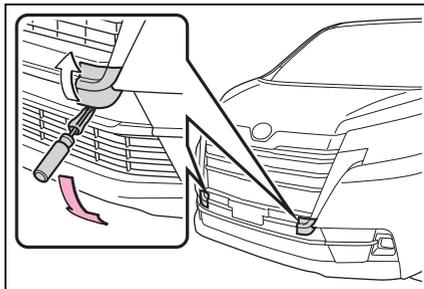
他車にけん引してもらおうとき

他車にけん引してもらおうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

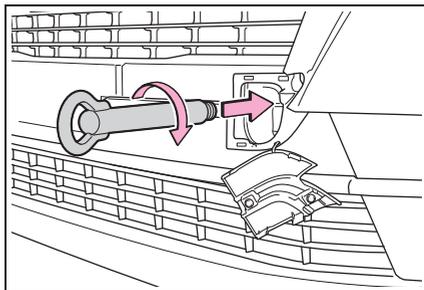
- 1 けん引フックを取り出す
(→P.326)

- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

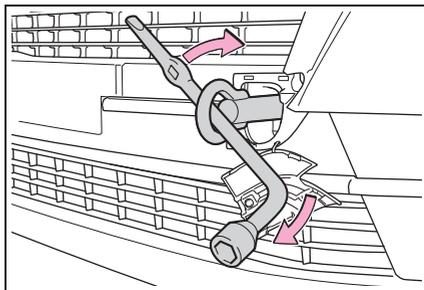
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



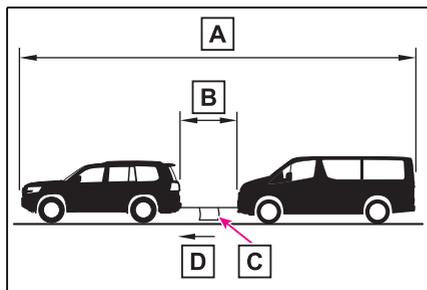
- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してくだ

さい。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

けん引される前に、いったんエンジンスイッチを OFF にしたあと、エンジンを始動してください。

パーキングサポートブレーキを OFF にしてください。(→P.211)

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.145

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

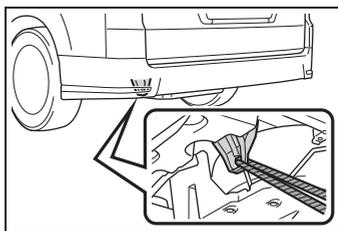
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

工具袋に搭載されています。(→P.326)

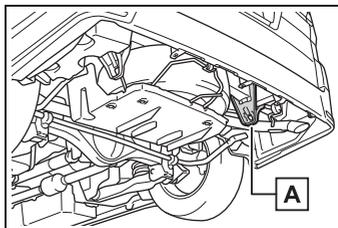
■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



A 輸送用フック

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキ液の不足 ●ブレーキシステムの異常 ●バキュームタンクの負圧低下* <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>

* 警告ブザーは作動しません。

■ 充電警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>充電システムの異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>

■ 高水温警告灯*（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジン冷却水の高温異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車してください。（対処方法：→P.344）</p>

* マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯*（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジン電子制御システムの異常 ● 電子制御スロットルの異常 ● トランスミッション電子制御システムの異常 ● 排出ガス浄化装置の異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ● SRS エアバッグシステムの異常 ● プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ● ABS の異常 ● ブレーキアシストの異常 <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ パワーステアリング警告灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>パワーステアリングの異常</p> <p>→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ PCS 警告灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 <p>(点滅または点灯)</p>	<p>警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.165, 325)</p> <p>プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC (ビークルスタビリティコントロール) システムが停止しているときも点灯します。 → P.173</p>

■ Stop & Start キャンセル表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 <p>(点滅)</p>	<p>Stop & Start システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ クリアランスソナー OFF 表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 <p>(点滅)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない ● クリアランスソナーの異常 <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.204) 警告メッセージが表示されたままの場合はただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ PKSB OFF 表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>ブザーが鳴った場合： パーキングサポートブレーキの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p> <p>ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.214)</p>

■ RCTA OFF 表示灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> ●レーダーセンサー周辺のリヤバンパー上方に汚れや付着物がある ●RCTA (リヤクロストラフィックアラート) の異常 <p>→ センサー周辺のリヤバンパー上方の氷・雪・泥などを取り除いてください。(→P.221) 警告メッセージが表示されたままの場合はただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●VSC システムの異常 ●TRC システムの異常 ●AUTO LSD システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 <p>ヒルスタートアシストコントロールを除く上記のシステムの作動時は点滅します。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。</p>

■ LDA 表示灯* (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (橙色)	<p>LDA (レーンディパーチャーアラート) の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.165)</p>

* マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブザーが鳴った場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 ●ドライブスタートコントロールの異常 <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>ブザーが鳴らなかった場合：</p> <p>ブレーキオーバーライドシステム作動時</p> <p>→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p> <p>パーキングサポートブレーキ（PKSB）作動時にも点灯します。（→P.210）</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パーキングブレーキ表示灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>パーキングブレーキの未解除</p> <p>パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p> <p>→ パーキングブレーキを解除する</p>

※ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：パーキングブレーキをかけたまま、車速が5km/hをこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>燃料の残量が約 10.5 L 以下になった</p> <p>→ 燃料を補給する</p>

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>運転席・助手席シートベルトの非着用</p> <p>→ シートベルトを着用する</p>

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※¹ (警告ブザー ※²)

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※¹ 車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

※² リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ AdBlue[®] 残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	AdBlue [®] の残量不足 → AdBlue [®] を補充してください。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 → トヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因 ●タイヤのパンク → ただちに安全な場所に停車し、対処方法 (→P.321) に従ってください。

■ AUTO LSD 表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	ブレーキシステムの過熱によりシステムが一時的に使用できない → P.230

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席またはリヤ席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席またはリヤ席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：

→P.326

パンクしていないときは：

エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

- 1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する
- 2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う（→P.285）

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整し

てください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.285

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

警告

- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯している場合はタイヤがパンクしている可能性がありますので、確認してください。タイヤがパンクしている場合はスペアタイヤに交換し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤの修理をしてください。
- 急ハンドル・急ブレーキは避けてください。もしタイヤの状態が悪化した場合、ハンドル操作またはブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- **タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合**

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

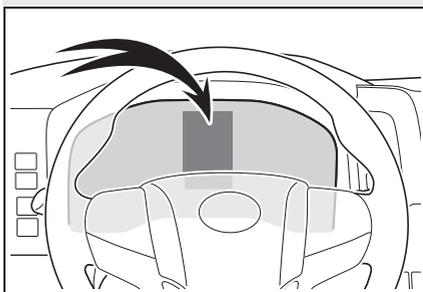
注意

■ タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ/送信機から送信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作(→P.285)では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー※	警告内容
—	あり	<ul style="list-style-type: none"> 走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	<ul style="list-style-type: none"> 電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “販売店で点検してください”の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

- アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき
 - ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロールなどの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。
 - ・ ドライブスタートコントロール・PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.133, 210）。画面の指示に従って対処してください。
- エンジンスイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないとき

や、誤操作の可能性があるときなどに、エンジンスイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。画面の指示に従って操作し直してください。

- シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。

その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

- 各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■ “取扱書を確認” の警告メッセージが表示されたとき

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
 - ・ “エンジン冷却水高温” (→P.344)
 - ・ “AdBlue を 3000km 以内に 補充必要” (→P.278)
 - ・ “AdBlue が低下 2000km 以内に 補充必要” (→P.278)
 - ・ “あと 800km で 再始動不可 AdBlue 補充必要” (→P.278)
 - ・ “エンジン再始動不可 AdBlue 補充必要” (→P.278)
 - ・ “DPF 再生不十分” (→P.233)
- “スマートエントリー&スタートシステム故障” のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ

販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

- ・ “エンジン油圧不足”
- ・ “故障のためブレーキ力が低下”
- “燃料フィルタに水がたまっています” のメッセージが表示されたときは、燃料フィルタ内に規定レベル以上の水がたまっています。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■ “駐車時はPレンジに入れてください” が表示されたとき

シフトレバーがP以外でエンジンスイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時はPにしてください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源をOffしました” が表示されたとき

自動電源OFF機能が作動したときに表示されます。

この場合、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたとき

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください” が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が必要です。

→P.233

■ “DPF 再生中” が表示されたとき

排出ガス浄化装置に捕集したススの燃焼処理が自動で行われています。→P.232

■ “アクセルとブレーキが両方踏まれています” が表示されたとき

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれているため、ブレーキオーバーライドシステムが作動しています。(→P.132) アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ 前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→P.165, 315)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き])
- AHB (オートマチックハイビーム)
- RSA (ロードサインアシスト)
- レーダークルーズコントロール
- 先行車発進告知機能

■ レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。(→P.165, 315)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き])
- レーダークルーズコントロール
- 先行車発進告知機能

■ “クルーズコントロール一時使用不可 取扱書を確認してください” が表示されたとき

レーダークルーズコントロールのシステムが一時的、または対処を行うまで使用

できません。(要因および対処方法：→P.165)

■ “クルーズコントロール現在使用できません” が表示されたとき

レーダークルーズコントロールのシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください。

⚠ 警告

■ 警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ エンジンオイル量に関する警告が表示されたとき

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

■ “燃料フィルタに水がたまっています 取扱書を確認してください” が表示されたとき

警告メッセージが表示されたまま走行しないでください。燃料フィルタ内に水がたまった状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプの損傷につながります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は P.283 を参照してください)

警告

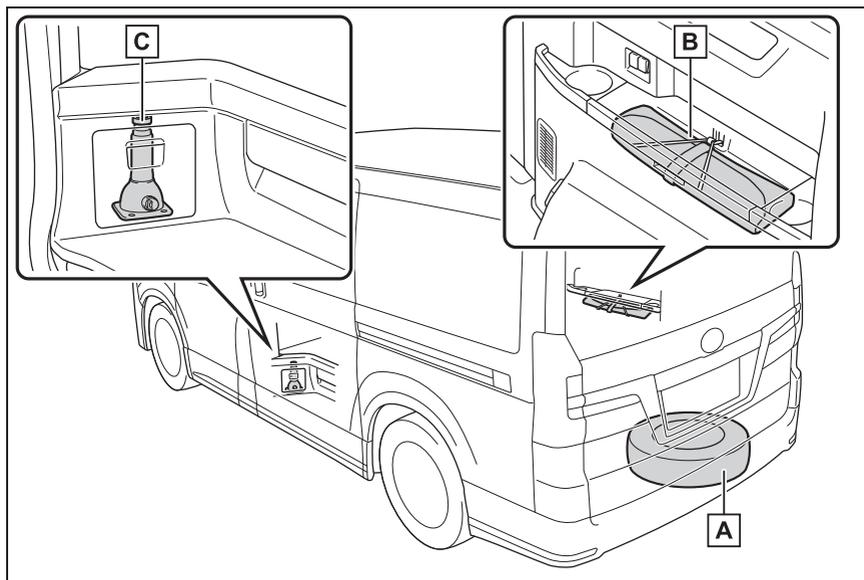
■ タイヤがパンクしたとき

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→P.307)
- パワードアオフスイッチを ON にする (→P.87)

スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置



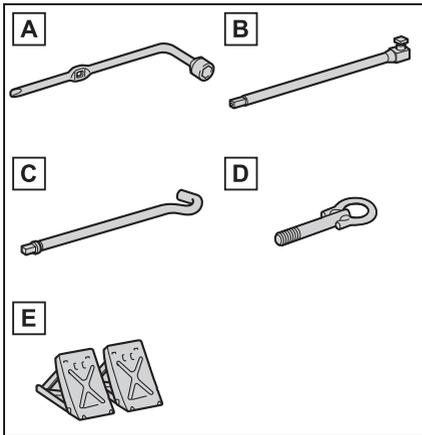
A スペアタイヤ

B 工具袋

C ジャッキ

工具

工具袋の中に収納されています。
(工具袋の取り出し方：→P.328)



- A** ホイールナットレンチ
- B** ジャッキハンドル延長用バー
- C** ジャッキハンドルバー
- D** けん引フック
- E** 輪止め

警告

■ ジャッキの使用について

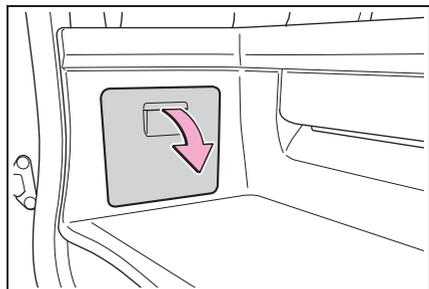
次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける

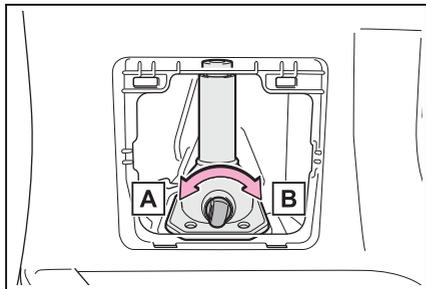
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にもものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 地面が固く平らな場所に停車し、パーキングブレーキをかけてシフトレバーをPにする
- 対角の位置にあるタイヤに輪止めをする
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる
- ジャッキハンドルを使用するときは使用中、不意に分解しないように、ジャッキハンドル各部を確実に組み付け、接続用ボルトをしっかりと締め付けてください。(→P.329)

ジャッキを取り出すには

1 カバーを取りはずす



2 ジャッキをゆるめて取りはずす



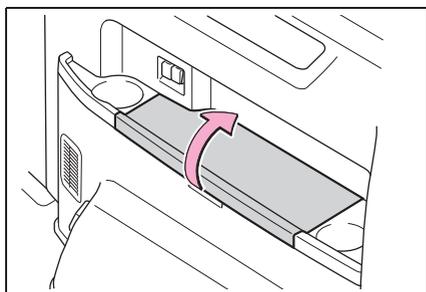
A ゆるむ

B 締まる

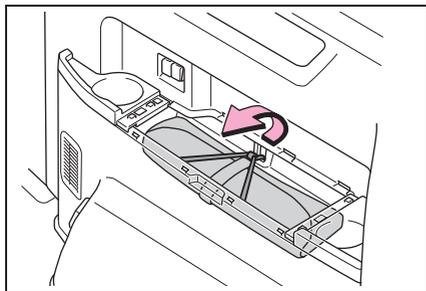
使用後はもとの位置にもどし、確実に固定してください。

工具袋を取り出すには

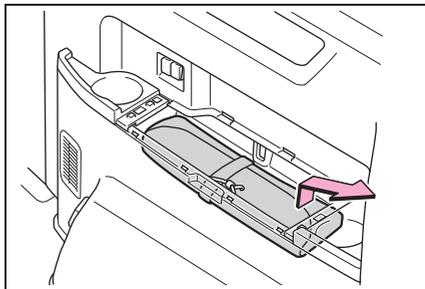
1 カバーを取りはずす



2 固定バンドをははずす

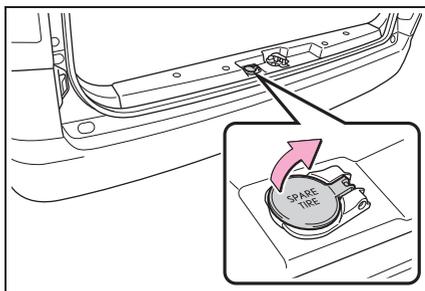


3 工具袋を取り出す



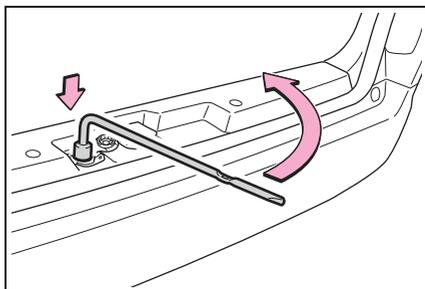
スペアタイヤを取り出すには

1 バックドアを開けてからフタを開ける



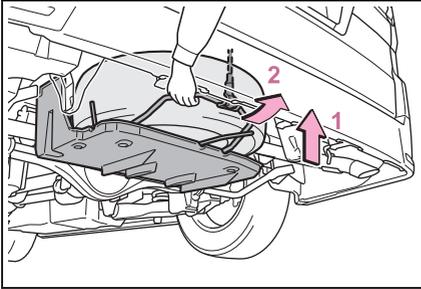
2 ホイールナットレンチを使って、スペアタイヤ格納具がフックからはずせる程度にボルトをゆるめる

ボルトをゆるめすぎると、格納具が落下するおそれがあるため注意してください。



- 3 スペアタイヤ格納具を少し持ち上げ (1)、フックを手前に引いてはずす (2)

格納具が落下しないように、手でしっかり支えてください。



- 4 スペアタイヤ格納具を地面に降ろして、スペアタイヤを取り出す
5 スペアタイヤ格納具をいったんもとにもどす

格納具をフックにかけ、ボルトを締め付けてもとにもどします。

スペアタイヤを格納するとき：→P.332

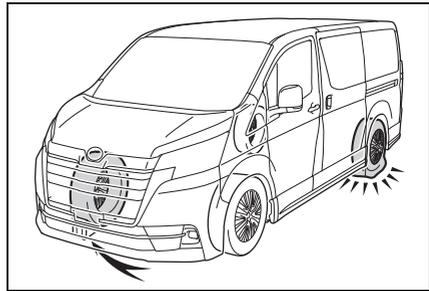
警告

■ スペアタイヤを収納するとき

ボデーとスペアタイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

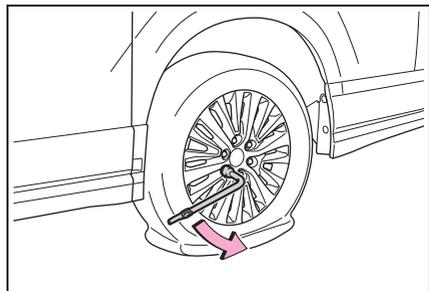
パンクしたタイヤを交換するには

- 1 輪止めをする



パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

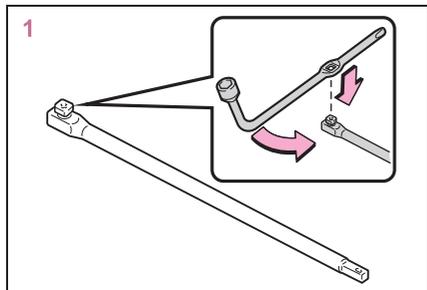
- 2 ナットを少し (約 1 回転) ゆるめる



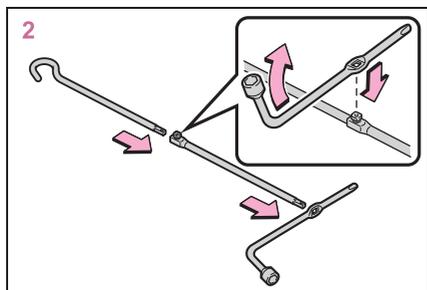
- 3 ジャッキハンドルを組み付ける

工具袋からホイールナットレンチ、ジャッキハンドル延長用バー、ジャッキハンドルバーを取り出して以下の手順で

組み付けてください。



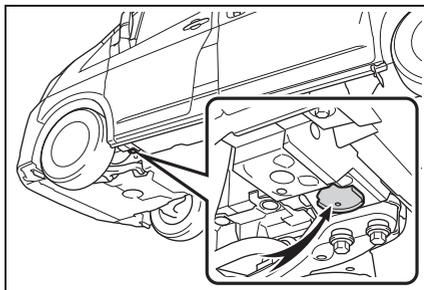
- 1** ホイールナットレンチの穴部を使い、ジャッキハンドル延長用バーの接続用ボルトをゆるめる



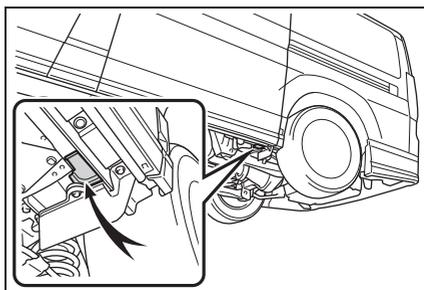
- 2** ジャッキハンドルバーとジャッキハンドル延長用バーとを接続して、ホイールナットレンチの穴部を使い、接続用ボルトを締め付ける。ジャッキハンドル延長用バーをホイールナットレンチの穴部に確実に挿し込む。

- 4** 組み付けたジャッキハンドルをジャッキの穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

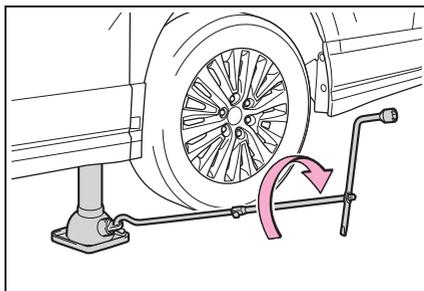
▶ フロント側



▶ リヤ側



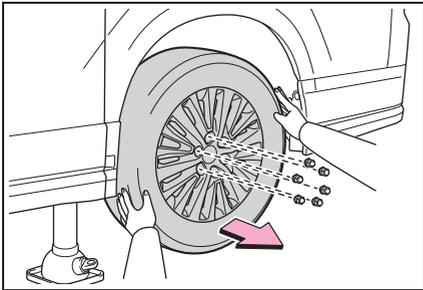
- 5** タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6** ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を

上にします。



警告

■ タイヤ交換について

● 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

● 次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ・ スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
- ・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない

● 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

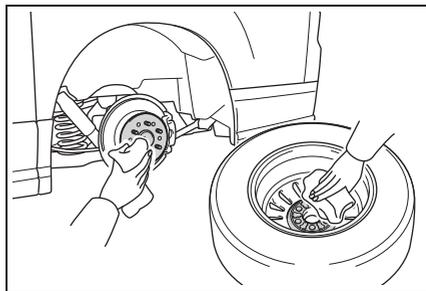
- ・ ホイールの交換後はすぐに $131\text{N} \cdot \text{m}$ ($1336\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
- ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

● タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアの作動（→P.87）を停止してください。停止しないと、誤ってパワースライドドアを作動させたときにスライドドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

スペアタイヤを取り付けるには

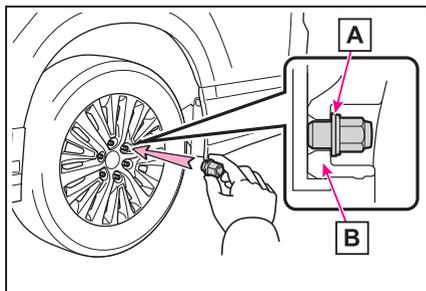
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

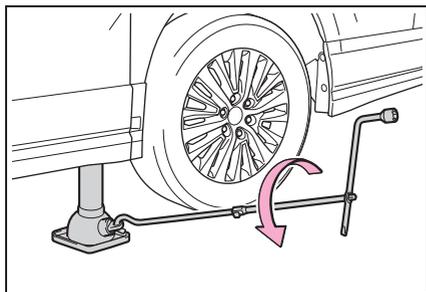


- 2 スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金 **A** がホイール **B** にあたるまでまわします。



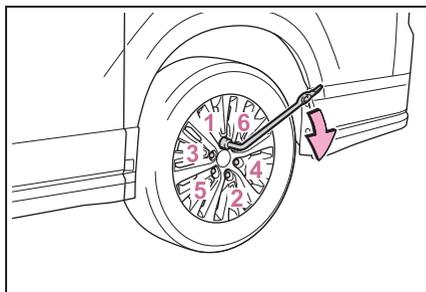
- 3 車体を下げる



- 4 図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

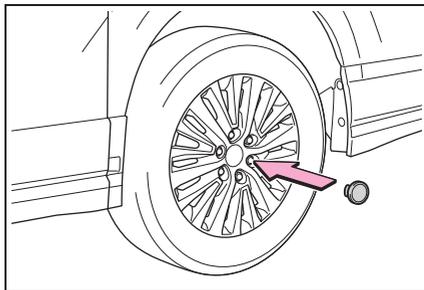
締め付けトルク：

131N・m (1336kgf・cm)



- 5 センターオーナメントを取り付ける

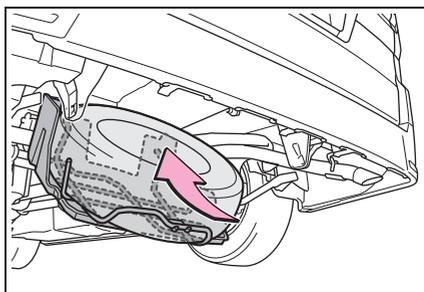
はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。



スペアタイヤの格納

- 1 パンクしたタイヤをスペアタイヤ格納具に載せる

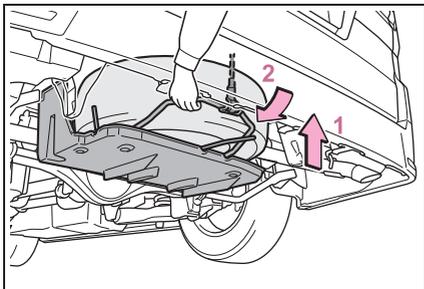
ホイールの意匠面を上にしします。



- 2 スペアタイヤ格納具を持ち上げ (1)、フックをかける (2)。フックを格納具にかけるときは、はずした場所と同じ位置にかけてください。

格納具にタイヤが確実に固定されている

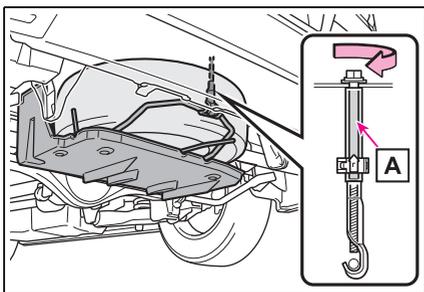
ことを確認します。



- 3** パイプががたつかなくなるまでボルトを締め付けたあと、さらに1/4回転以上締め付ける

締め付けトルク：

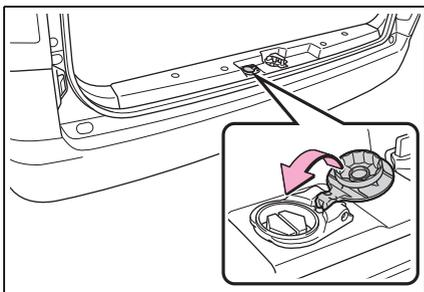
34.5 N・m (352 kgf・cm) 以上



A パイプ

- 4** すべての工具・ジャッキを収納する

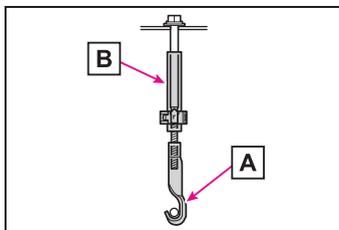
- 5** フタを閉める



知識

■ スペアタイヤ格納具のフックについて

スペアタイヤ格納具を降ろす際に、ボルトをゆるめすぎてフックが脱落した場合は、図のようにパイプが入っているのを確認してからフックを取り付けてください。

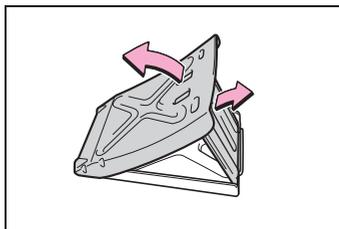


A フック

B パイプ

■ 輪止めの使い方

図のように展開して使用します。



⚠ 警告

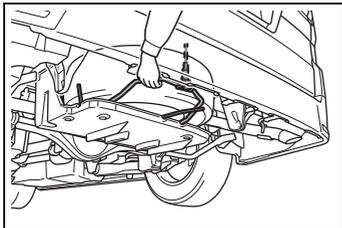
■ スペアタイヤを取り出すときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- スペアタイヤ格納具のボルトをゆるめすぎない
- スペアタイヤ格納具を操作するときは、可動部分やスペアタイヤのあいだに手や足などを挟まないように注意する

警告

- スペアタイヤ格納具を降ろす、または持ち上げるときは、足の上などに落とさないよう、手でしっかり支える



- スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

■ スペアタイヤ格納具のボルトについて

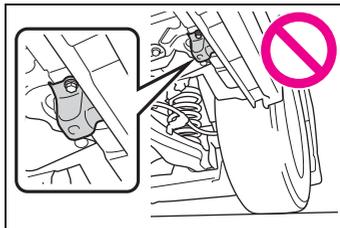
操作をするときはホイールナットレンチを使用してください。

■ スペアタイヤを格納するとき

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

■ 車載ジャッキでジャッキアップするときは

図のマウントハンガーにジャッキをかけないでください。マウントハンガーが破損するおそれがあります。



■ タイヤを交換するとき

タイヤ・ホイール・タイヤ空気圧警告システムのバルブや送信機を取りはずしたり、付けかえるときは、トヨタ販売店へご連絡ください。タイヤ空気圧警告システムのバルブと送信機の扱いを誤ると、バルブと送信機が損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P.140）に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P.140）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.55）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.339）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P.335）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P.339）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常エンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.148）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

- 3 エンジンスイッチを ACC にする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.101）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないとき

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.358）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.101）

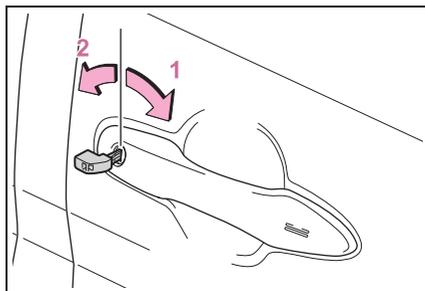
注意

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

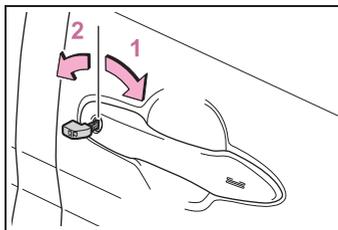
メカニカルキー（→P.80）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



- 1 全ドア施錠
- 2 全ドア解錠

知識

■キー連動機能



- 1 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※
 - 2 ドアガラスが開く（まわし続ける）※
- ※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

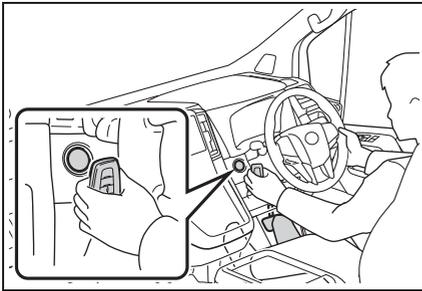
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

エンジンを始動するには

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 図のように、電子キーのスイッチを表に向けた状態で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACCへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけてエンジンスイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたとき

は、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.296)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.56)

■エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.142)

バッテリーがあがったときは

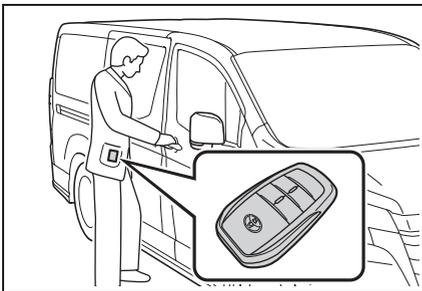
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 電子キーを携帯していることを確認する

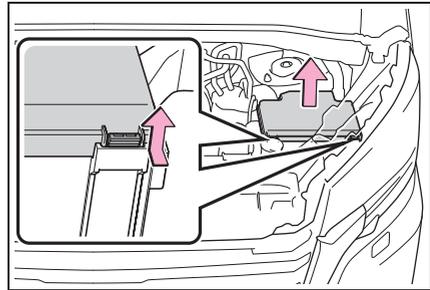
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.57)



- 2 ボンネットを開けて(→P.276)、ヒューズボックスのカバーをはずす

- 5 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子**A**につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子**B**につなぐ。その後、黒色のブー

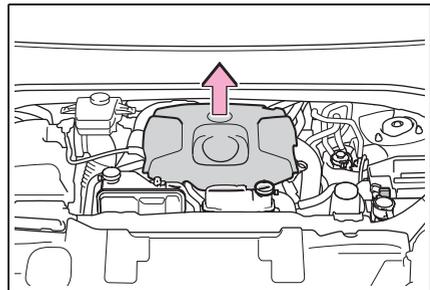
ツメを押しながらカバーを持ち上げる



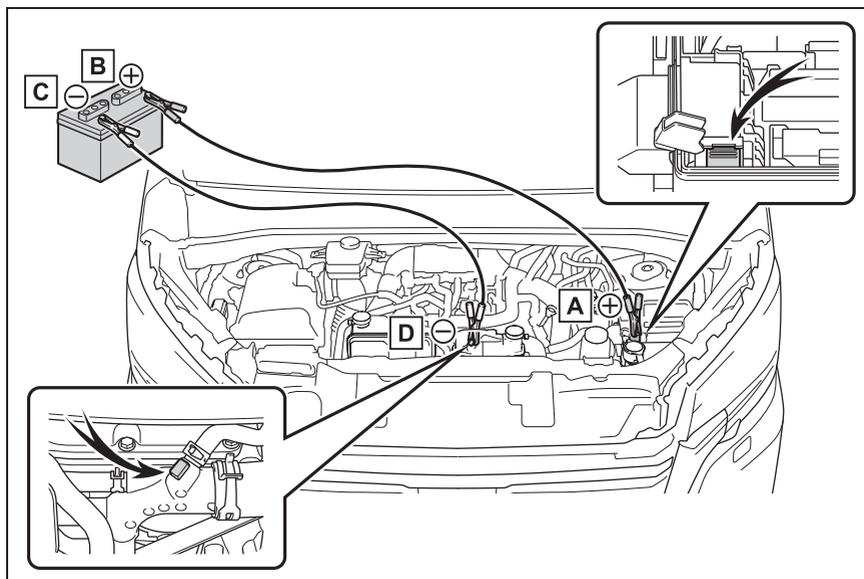
- 3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



- 4 エンジンカバーをはずす



スターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部[D]につなぐ。



- A** 救援用端子（自車）
- B** バッテリーの+端子（救援車）
- C** バッテリーの-端子（救援車）
- D** 救援用端子から離れた未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

- 6** 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車のバッテリーを充電する
- 7** エンジンスイッチがOFFの状態ですぐのドアを開閉する
- 8** 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッションONモードにしてからエンジンを始動する
- 9** エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

- 10** 救援用端子のカバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

📖 知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。(Stop & Start システムによるエンジン停止中を除く)
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。(→P.363)

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時など

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動

操作を行ってください。

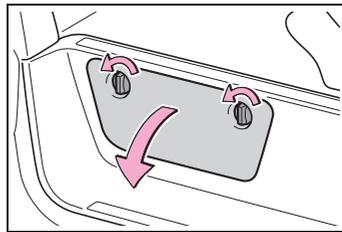
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチをOFFにしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。
- 最大1時間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■ バッテリーを点検・交換するとき

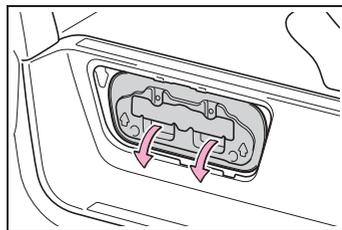
次の要領でバッテリーのカバーを取りはずします。

▶ 点検するとき

- 1 外側のカバーを取りはずす

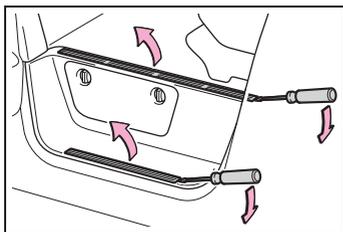


- 2 内側のカバーを取りはずす

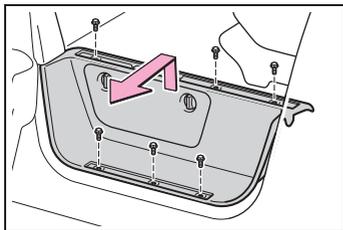


▶ 交換するとき

- 1 カバーを取りはずす

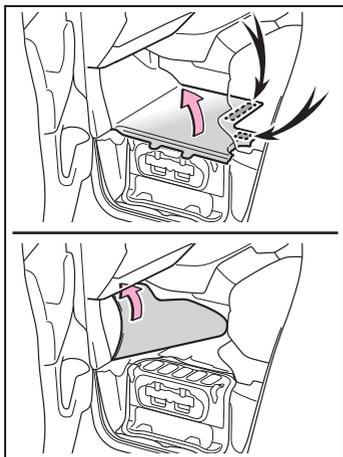


- 2 ボルトをはずして外側のカバーを取りはずす

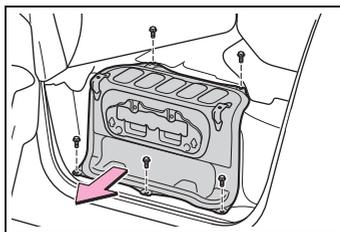


- 3 図で示す 2ヶ所の面ファスナーをはずしてフロアマットをめくる

その他の面ファスナーははずさないでください。



- 4 ボルトをはずして内側のカバーを取りはずす



■ バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 装着されているバッテリーは、欧州規格の Stop & Start システム専用品です。Stop & Start システム専用の LN4 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらに、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
- 交換前と同一のケースサイズ、かつ 20 時間率容量 (20HR) が同等以上のバッテリーを使用してください。
 - ・ ケースサイズが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
 - ・ 適切なバッテリーをご使用いただかない場合は、バッテリーの早期劣化や最悪の場合にはエンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
 - ・ 取手の付いているバッテリーを使用してください。取手が付いていないバッテリーを使用すると、バッテリーを取り出しにくくなります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったたりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

- お子さまをバッテリーに近付けない

■ バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにトヨタ販売店でバッテリーの点検を受けてください。

バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けるとバッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ バッテリーの－端子について

ボデーに接続されたバッテリーの－端子をはずさないでください。誤ってはずすと＋端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

 注意

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的にバッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

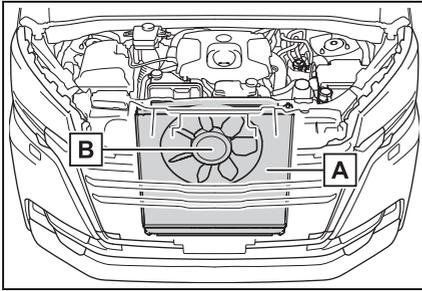
- 水温計（→P.64）の針がレッドゾーンに入る
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処するには

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

多量の冷却水もれがある場合は、ただち

にトヨタ販売店に連絡してください。

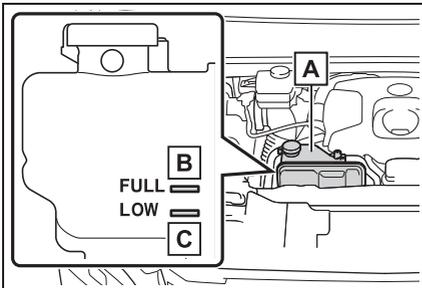


A ラジエーター

B ファン

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ エンジン

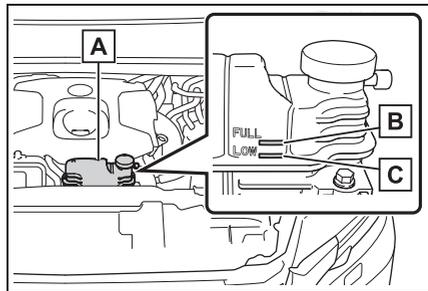


A リザーバータンク

B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

▶ インタークーラー



A リザーバータンク

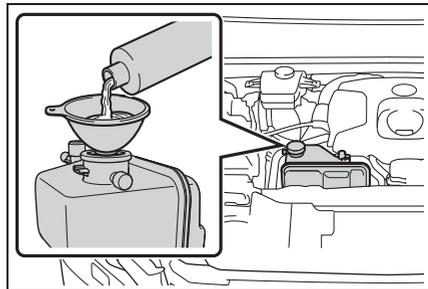
B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

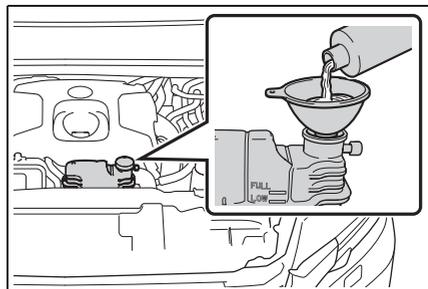
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ エンジン



▶ インタークーラー



- 6 エンジンを始動し、ラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する
- 7 ファンが作動していない場合：すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

知識

■ 冷却水の補給について

冷却水の量が LOW（下限）以下になった場合は、冷却水の補給後にエア抜きが必要となります。

警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

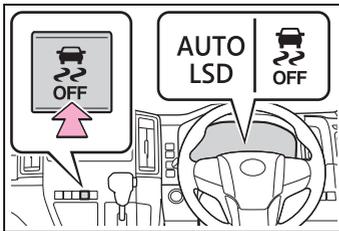
脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- 2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押してTRCをOFFにしてください(AUTO LSDシステムが作動します)。(→P.226)



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もなことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... **350**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... **355**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... **363**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	70

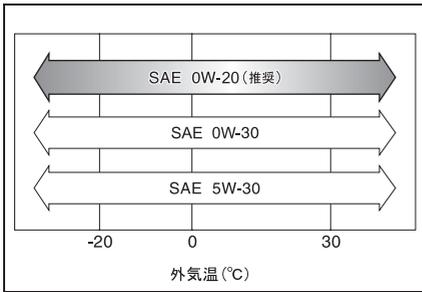
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル C5 0W-20 —ACEA C5, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正モーターオイル DL-1 0W-30 —JASO DL-1, SAE 0W-30 トヨタ純正モーターオイル DL-1 5W-30 —JASO DL-1, SAE 5W-30	6.6	7.1

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

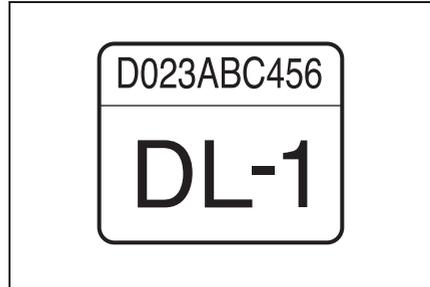
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

■ 指定エンジンオイル

ACEA 規格 C5 に合致したオイルをご使用ください。

0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、JASO DL-1 0W-30、5W-30 もご使用いただけます。

なお、JASO 規格合格油の缶には JASO DL-1 マークが付いています。



JASO DL-1 マーク

⚠ 注意

■ エンジンオイルの交換について

- エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。
- エンジンオイルは必ず約20,000kmごと（ただし12ヶ月をこえないこと）、オイルフィルターは必ず約20,000km ごとに交換してください。定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント	エンジン	12.8
凍結保証温度	インタークーラー	2.2
濃度 30% - 12℃		
濃度 50% - 35℃		

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)
トヨタ純正オートフルード WS	9.7

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	5.05

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正パワーステアリングフルード	1.2

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	123

※ エンジン回転時に、300N (31kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ※ 数	8 ~ 11

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪※
235/60R17 109/107T LT	17 × 7 J	300 (3.0)	350 (3.5)

※ 乗車人数が 5 名以下の場合は、乗り心地を重視したタイヤ空気圧 (300kPa[3.0kg/cm²]) で使用することができます。

タイヤ空気圧を変更したあとは、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください (→P.286)。タイヤ空気圧を変更した場合、燃費やタイヤの摩耗に影響があります。

電球 (バルブ) ※1

	電球	W (ワット) 数
車外	フロント方向指示灯 / 非常点滅灯 (アンバーバルブ※2)	21
	リヤ方向指示灯 / 非常点滅灯 (アンバーバルブ※2)	21
車内	バニティランプ	8

※1 表に記載のないランプは LED を採用しています。

※2 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
グランエース	GDH303W	1GD-FTV (2.8 L ディーゼル)	FR (後輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディアディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

T-Connect サービスご契約のお客様は、マイカーカスタマイズ機能（専用のスマホアプリのご利用、またはトヨタ販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

遠隔での設定変更が可能な項目に関しては専用のスマホアプリでご確認ください。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

■ マルチメディアディスプレイで設定するには

- 1 MENU ボタンを押し、“設定・編集”を選択する
- 2 “設定・編集”画面の“車両”を選択する
- 3 “車両カスタマイズ”を選択する
- 4 “車両カスタマイズ”を選択した場合、設定を変更したいカテゴリーを選択する

- 5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、“する”（作動）・“しない”（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、“+”または“-”を選択してレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して変更する項目を選択する
- 3 ON / OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチの  を押してご希望の設定に切りかえる
- 4 詳細設定が可能な機能では、 を押し続けて設定画面を表示する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイスを参考に設定を行ってください。

前の画面にもどったり、設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

知識

■ カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告**■ カスタマイズ設定を行うとき**

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をししないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意**■ カスタマイズ設定を行うとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアディスプレイの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ（→P.67）

機能の内容*		初期設定	変更後	A	B	C
言語		日本語	英語	—	○	—
単位		km/L	L/100km	—	○	—
 エコドライブインジケータランプ		あり（自動点灯）	なし	—	○	—
 燃費グラフ		リセット後平均燃費	始動後平均燃費	—	○	—
			給油後平均燃費			
 オーディオ表示		表示	非表示	—	○	—
 車両情報表示	ドライブインフォタイプ	始動後	リセット間	—	○	—
	ドライブインフォ項目選択（上段）	走行距離	平均車速	—	○	—
			走行時間			
ドライブインフォ項目選択（下段）	走行時間		平均車速	—	○	—
			走行距離			

機能の内容*	初期設定	変更後	A	B	C
割込表示	あり	なし	—	○	—
MID 消灯	表示	非表示	—	○	—
周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	- 2 ~ +2	—	—	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	- 2 ~ +2	—	—	○
提案サービス	あり	あり (停車中のみ)	○	—	○
		なし			

* 機能についての詳しい説明は P.71 を参照してください。

■ パワースライドドア (→P.87)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ウェルカムパワースライドドアによる、スライドドア開作動開始までの待ち時間	2.5 秒	0.5 秒	—	○	—
		1.5 秒			

■ ドアロック (→P.81, 337)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり	○	—	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし	○	—	○
運転席を開けたときの全ドア自動解錠 (運転席 ドア開連動アンロック)	なし	あり	○	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.100)、ワイヤレスドアロック共通 (→P.79)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	○	—	○
作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ~ 7	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒	—	—	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.100)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→P.79)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○

■ ドアミラー (→P.126)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	—	—	○
		エンジンスイッチと連動	—	—	○

■ パワーウィンドウ (→P.128)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図 (ブザー)	あり	なし	—	—	○
窓開警告制御	あり	なし	—	—	○

■ ランプ (→P.149)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイライト	あり	なし	—	—	○
ランプ消し忘れ防止ブザー	あり	なし	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.149)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	-2	-1 ~ 2	○	—	○
ランプオートカット制御	運転席ドアと連動	エンジンスイッチと連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	—	○

■ リヤワイパー (→P.158)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
バックドア開連動リヤワイパー停止機能	しない	する	—	—	○
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	する	しない	—	—	○
リバース連動機能	1回のみ作動	OFF	—	—	○
		連続作動			

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.166)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PCS (プリクラッシュセーフティ) 機能	あり	なし	—	○	—
警報タイミング	中間	早い	—	○	—
		遅い			

■ LDA (レーンディパーチャーアラート [ヨーアシスト機能付き]) (→P.173)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヨーアシスト機能	あり	なし	—	○	—
警報手段	ハンドルの振動	警報ブザー	—	○	—
警報感度	高	普通	—	○	—
ふらつき検知機能	あり	なし	—	○	—
ふらつき検知機能の感度	普通	低	—	○	—
		高	—	○	—

■ RSA (ロードサインアシスト (→P.180))

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RSA (ロードサインアシスト) 機能	あり	なし	—	○	—
制限速度超過告知	なし	告知表示のみ	—	○	—
		告知表示とブザー	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2km/h	5km/h	—	○	—
		10km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ	なし	—	○	—
		告知表示とハンドルの振動	—	○	—
その他の告知 (進入禁止告知)	告知表示のみ	なし	—	○	—
		告知表示とブザー	—	○	—

■ 先行車発進告知機能 (→P.191)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
先行車発進告知機能	あり	なし	—	○	—
告知距離	普通	近	—	○	—
		遠	—	○	—

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.210）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	—	○	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.198）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	—	○	—
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知			

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.220）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	—	○	—
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）作動時のブザー音量※	レベル2	レベル1	—	○	—
		レベル3	—	○	—

※ クリアランスソナーのブザー音量と連動しています。

■ クリアランスソナー（→P.202）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	—
センサーの検知距離	遠い	近い	—	—	○
ブザー音量※	レベル2	レベル1	—	○	—
		レベル3			

※ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）作動時のブザー音量と連動しています。

■ Stop & Start システム (→P.192)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
エアコンが ON のときのアイドル ングストップ時間	普通 (Normal)	長め (Long)	—	○	—

■ フロントオートエアコン (→P.240)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連 動して外気導入と内気循環を自動 的に切りかえる	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたと き、A/C スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○

■ イルミネーション (→P.250)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ドアの開閉後に点灯している室内 灯が自動で消灯するまでの時間 (室内照明消灯時間調節)	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
エンジンスイッチ OFF 後の室内灯 自動点灯機能	あり	なし	—	—	○
ドアを解錠したときの室内灯自動 点灯	あり	なし	—	—	○
電子キーを携帯して車両に近づい たときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○

□ 知識

■ 車両カスタマイズについて

- “車速感応式自動ドアロック” と “シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠” を両方とも “あり” にした場合次のように作動します。
 - ・ シフトレバーを P 以外にすると全ドア施錠されます。
 - ・ 全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。

- ・ 発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

- 解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、“作動の合図 (非常点滅灯)” ・ “作動の合図音量 (ブザー音量の調整)” の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パーキングサポートブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ・ バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時 	P.215
パワースライドドア		P.89
クリアランスソナー		P.205
パワーウィンドウ	正常に働かないとき	P.128
タイヤ空気圧警報システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイヤローテーションを実施したあと ・ タイヤサイズの変更・乗車人数の変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったあと 	P.285
パノラミックビューモニター	<ul style="list-style-type: none"> ・ バッテリーを脱着したとき ・ バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・ バッテリー能力が低下したとき 	別冊「マルチメディア取扱書」

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	366
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	368
アルファベット順さくいん	370
五十音順さくいん	371

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.336）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.336）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.296）
- エンジンスイッチが ON になっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.142）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に

働いていない可能性があります。（→P.101）



スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.87）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.140）
- シフトレバーは P になっていすか？（→P.140）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.100）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.141）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.338）
- バッテリーがあがっていませんか？（→P.339）



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーがPから動かない

- エンジンスイッチはONになっていますか？
エンジンスイッチがONでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.145）



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.141）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、助手席のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.130）



エンジンスイッチが自動的にOFFになった

- 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.143）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.368）をご確認ください。

ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.315、322 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→P.326）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.347）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.56
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.322
	窓が開いている（エンジン停止中のみ）	P.129
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.56
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.78
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.100
	電子キーを車内に置き忘れている	P.322

※ ドアを解錠する、またはエンジンスイッチをACCまたはONにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.83
	パーキングブレーキが解除されていない	P.319
	運転席・助手席・リヤ席のシートベルトを着用していない※	P.319, 320
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.146
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.135
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.187
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.166
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート【ヨーアシスト機能付き】）を使用している	P.175

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.181
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
障害物との距離が近づいたとき	クリアランスソナーが作動した	P.202
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.220

※ 助手席またはリヤ席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

- A/C**
(エアコン)240, 246
- ABS**
(アンチロックブレーキシステム)
.....226
- AdBlue®**
(アドブルー)278, 320
- AHB**
(オートマチックハイビーム).. 152
- AI-SHIFT**
(アーティフィカルインテリジェン
スシフト) 144
- BSM**
(ブラインドスポットモニター)
..... 198
- EDR**
(イベントデータレコーダー)7
- ISOFIX**
(アイソフィックス/イソフィク
ス)40
- LDA**
(レーンディパーチャーアラート)
..... 173
- LED**
(ライトエミッティングダイオード)
.....301
- LSD**
(リミテッドスリップディファレン
シャル)230
- PKSB**
(パーキングサポートブレーキ)
.....210
- RCTA**
(リヤクロストラフィックアラート)
.....220
- RSA**
(ロードサインアシスト)..... 180
- SCB**
(セカンダリーコリジョンブレーキ)
.....226
- SRS**
(サブリメンタルレストレイントシ
ステム) 32
- Toyota Safety Sense**
AHB (オートマチックハイビーム)
..... 152
LDA (レーンディパーチャーア
ラート) 173
PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 166
RSA (ロードサインアシスト)180
先行車発進告知機能 191
レーダークルーズコントロール
..... 183
- TRC**
(トランクシオンコントロール)
.....226
- VSC**
(ビークルスタビリティコントロー
ル)226

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	339
アームレスト.....	265
アウトミラー（ドアミラー） BSM（ブラインドスポットモニター）198 RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	220
格納のしかた.....	127
操作.....	126
ミラーヒーター.....	241
アクセサリースocket.....	262
アクセサリモード.....	142
アシストグリップ.....	266
AdBlue®.....	278
AdBlue® 残量警告灯.....	315
補充.....	278
容量.....	279
アラーム オートアラーム.....	56
音さくいん.....	368
警告ブザー.....	315, 322
アンチロックブレーキシステム（ABS）	226
アンテナ スマートエントリー&スタートシステム	100
ラジオ.....	270

い

イージークローザー スライドドア.....	88
バックドア.....	99
イグニッションスイッチ（エンジンス イッチ）.....	140
エンジンのかけ方.....	140

自動電源 OFF 機能.....	143
車両を緊急停止する.....	308
モード切りかえ.....	142
位置交換（タイヤローテーション）.....	284
イベントデータレコーダー（EDR）.....	7
イモビライザーシステム.....	55
イルミネーテッドエントリーシステム	250
インジケーター（表示灯）.....	62
インストルメントパネル照度調整スイッ チ.....	66
インテリアランプ.....	251
インナーミラー.....	118

う

ウインカー（方向指示灯）.....	147
電球（バルブ）の交換.....	301, 302
方向指示レバー.....	147
ウインドウ ウォッシャー.....	156, 158
パワーウインドウ.....	128
リヤウインドウデフォグガー.....	241
ウインドウロックスイッチ.....	130
ウインドシールドデアイサー.....	242
ウェルカムパワースライドドア.....	87
ウォーニングランプ（警告灯）.....	61, 315
ウォッシャー.....	156, 158
液の補充.....	282
スイッチ.....	156, 158
タンク容量.....	353
冬の前の準備・点検.....	235
動けなくなったときは（スタック）.....	347
雨滴感知式ワイパー.....	156
運転.....	132
雨の日の運転.....	132
運転を補助する装置.....	226
寒冷時の運転.....	235
正しい運転姿勢.....	27

手順.....	132
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	319

え

エアコン

オートエアコン.....	240
曇り取り（フロントガラス）.....	241
フィルターの清掃.....	291
リヤオートエアコン.....	246

エアコン・デフォグガー.....241

エアバッグ.....32

SRS エアバッグ警告灯.....	316
改造・廃棄.....	37
作動条件.....	33
正しい姿勢.....	27
配置.....	32

エコドライブインジケーター.....69

エコドライブインジケーターランプ..69

LED デイライト.....150

エンジン

エンジンイモビライザーシステム.....	55
エンジンが始動できない.....	335
エンジン警告灯.....	316
エンジンスイッチ（イグニッション）.....	140
エンジンの始動方法.....	140
エンジンを停止する前に.....	133
オーバーヒート.....	344
タコメーター.....	64
ボンネット.....	276

エンジンイモビライザーシステム.....55

エンジンオイル.....350

冬の前の準備・点検.....	235
メンテナンスデータ.....	350
油圧警告灯.....	315
容量.....	350

エンジンスイッチ（イグニッションス イッチ）.....140

エンジンのかけ方.....	140
---------------	-----

自動電源 OFF 機能.....	143
------------------	-----

車両を緊急停止する.....	308
----------------	-----

モード切りかえ.....	142
--------------	-----

エンジンフード（ボンネット）.....276

エンジンルーム

エンジンルームから蒸気が出ている...	344
---------------------	-----

お

オイル（エンジンオイル）.....350

応急用タイヤ.....326

空気圧.....	353
交換方法.....	326

オートアラーム.....56

オートエアコン.....240, 246

AUTO LSD.....230

オートドアロック・アンロック機能..83

オートマチックトランスミッション144

オートマチックトランスミッション...	144
シフトレバーがシフトできない.....	145

オートマチックハイビーム（AHB）152

オートレベリングシステム（ヘッドラン プ）.....151

オープナー

給油扉.....	161
バックドア.....	97
ボンネット.....	276

お子さまを乗せるとき.....39

ウインドウロックスイッチ.....	130
お子さまの安全のために.....	39
シートヒーターに関する警告.....	249
シートベルトの着用.....	30
チャイルドシート.....	40
チャイルドシートの取り付け.....	40
発炎筒の取り扱いに関する警告.....	308
バックドアに関する警告.....	96
バッテリーに関する警告.....	343
パワーウィンドウに関する警告.....	129

オドメーター	
機能	66
表示の切りかえ・リセットボタン	66

か

カーテンシールドエアバッグ	32
カードホルダー	259
カーペット	274
洗淨	274
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示	64
外装の電球 (バルブ)	
交換要領	300
ワット数	353
買い物フック	265
カスタマイズ機能	355
ガソリンスタンドでの情報	388
型式	354
カップホルダー	256
カメラ	
前方カメラ	162
デジタルインナーミラー	122
ガラスの曇り取り (リヤウインドウデ フォグガー)	241
ガレージジャッキ	281
冠水路走行	137
寒冷時の運転	235

き

キー	78
エンジンが始動できない	335
キーナンバープレート	78
キーの構成	79
キーレスエントリー	79, 100
キーをなくした	336
正常に働かない	337
施錠・解錠ができない	337

電子キー	78
電池が切れた	296, 337
メカニカルキー	80
ワイヤレスリモコン	79

キーレスエントリー

スマートエントリー&スタートシステム	100
ワイヤレスドアロック	79

きしみやひっかき音が聞こえる (ブレーキパッドウェアインジケーター) .. 135

給油

給油のしかた	160
メンテナンスデータ	350

緊急時シートベルト固定機構 30

緊急始動機能 335

緊急時の対処

エンジンが始動できない	335
オーバーヒートした	344
キーの電池が切れた	296, 337
キーをなくした	336
警告灯がついた	315
警告メッセージが表示された	322
けん引	311
故障したときは	306
車両を緊急停止する	308
水没・冠水したときは	309
スタックした	347
電子キーが正常に働かない	337
発炎筒	307
バッテリーがあがった	339
パンクした	326

緊急ブレーキシグナル 226



空気圧 (タイヤ)	353
タイヤ空気圧警告灯	320
タイヤ空気圧警報システム	285
メンテナンスデータ	353

区間距離計 (トリップメーター)	
機能	64
切りかえ・リセットボタン	66
曇り取り	
フロントガラス	241
ミラーヒーター	241
リヤウインドウデフォグ	241
クラクション (ホーン)	117
クリアランスソナー	202
警告メッセージ	204
操作	203
クリアランスランプ (車幅灯)	
スイッチ	149
電球 (バルブ) の交換	301
クリップ	
フロアマット	26
クルーズコントロール	
レーダークルーズコントロール	183
グローブボックス	255
グローブボックスランプ	255

け

警告器 (ホーン)	117
計器類 (メーター)	64
マルチインフォメーションディスプレイ	67
メーター	64
警告灯	61
RCTA OFF 表示灯	318
AdBlue [®] 残量警告灯	315
ABS & ブレーキアシスト	316
SRS エアバッグ	316
LDA 表示灯	318
エンジン	316
AUTO LSD 表示灯	320
クリアランスソナー OFF 表示灯	317
高水温	315

シートベルト非着用	319, 320
充電	315
Stop & Start キャンセル表示灯	317
スリップ表示灯	318
タイヤ空気圧	320
ドライブスタートコントロール	319
燃料残量	319
パーキングブレーキ表示灯	319
パワーステアリング	316
PKSB OFF 表示灯	318
PCS	317
プリテンショナー	316
ブレーキ	315
ブレーキオーバーライドシステム	319
油圧	315

警告ブザー

RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	222
クリアランスソナー	202
高水温	315
シートベルト非着用	319, 320
シフトダウン制限	146
車線逸脱警報	175
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	187
パーキングブレーキ未解除走行時	319
パワーステアリング	316
半ドア	82, 100
半ドア走行	83
ブレーキ	315
窓開	129
油圧	315
リバース	144

警告メッセージ

化粧ミラー (バニティミラー)	261
-----------------	-----

けん引

けん引のしかた	311
フック	313

こ

交換	
キーの電池	296
タイヤ	326
電球（バルブ）	300
ヒューズ	298
工具（ツール）	326
後席用サンシェード	264
航続可能距離	68
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	301
コートフック	266
子供専用シート	
取り付け方	41
小物入れ	258
コンソールボックス	255
コンソールボックスランプ	255
コンライト（自動点灯・消灯装置）	149

さ

サイドエアバッグ	32
サイドカラーイルミネーション	252
サイドテーブル	265
サイド方向指示灯	147
電球（バルブ）の交換	301
方向指示レバー	147
サイドミラー（ドアミラー）	
BSM（ブラインドスポットモニター）	198
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	220
格納のしかた	127
操作	126
ミラーヒーター	241
サンシェード	264
サンバイザー	261

し

シート	104, 105
正しい運転姿勢	27
チャイルドシート	40
調整	104, 105
手入れ	274
ヘッドレスト	109
シートアレンジ	113
シートヒーター	248
シートベルト	29
お子さまの着用	29, 30
緊急時シートベルト固定機構	30
シートベルト非着用警告灯	319, 320
高さ調節	31
正しく着用するには	30
着け方、はずし方	30
手入れ	274
妊娠中の方の着用	29
シートベルト非着用警告灯	319, 320
シートベルトプリテンショナー	31
機能	31
プリテンショナー警告灯	316
室内灯	250
始動のしかた	140
シフトポジション	144
シフトレバー	144
シフトポジションの切りかえ	144
シフトロックシステム（解除ボタン）	145
操作	144
リバース警告ブザー	144
シフトレバーがシフトできないときは	145
シフトロックシステム	145
ジャッキ	
ガレージジャッキ	281
車載ジャッキ	326
ジャッキハンドル	326

車幅灯.....	149
電球（バルブ）の交換.....	301
ランプスイッチ.....	149
車両型式.....	354
車両仕様（スペック）.....	350
車両データの記録.....	7
車両を緊急停止するには.....	308
充電用 USB 端子.....	263
収納装備.....	254
瞬間燃費.....	69
仕様（車両仕様）.....	354
衝撃感知ドアロック解除システム.....	81
初期化.....	363
タイヤ空気圧警報システム.....	286
パワーウィンドウ.....	128
パワースライドドア.....	89
助手席シートベルト非着用警告灯...319	

す

スイッチ

イグニッション.....	140
ウィンドウロック.....	130
ウォッシャー.....	156, 158
エンジンスイッチ.....	140
オートマチックハイビームスイッチ...152	
サイドカラーイルミネーション.....	252
シート調整.....	104, 105
シートヒーター.....	248
車間距離切りかえ（レーダークルーズコン トロール）.....	183
Stop & Start キャンセル.....	197
タイヤ空気圧警報リセット.....	287
ドアミラー.....	126
ドアロック.....	83
排出ガス浄化装置.....	233
ハザードランプ.....	307
パワーウィンドウ.....	128
パワースライドドア.....	86

パワースライドドアオフ.....	87
パワーヒーター.....	242
ヒーターアイドルアップ.....	241
非常点滅灯（ハザードランプ）.....	307
VSC OFF.....	226
フォグランプ.....	154
方向指示レバー.....	147
ホーン（警音器）.....	117
メーター操作スイッチ.....	68
メーター表示切りかえ.....	66
ランプ.....	149
リヤウインドウデフォグガー.....	241
レーダークルーズコントロール.....	183
ワイパー.....	156, 158

スターター

エンジンの始動.....	140
スターターが回らない.....	335

スタック..... 347

ステアリングホイール（ハンドル）. 117

位置調整.....	117
-----------	-----

ステアリングロック..... 141

解除できないとき.....	141
---------------	-----

Stop & Start システム..... 192

キャンセルスイッチ.....	197
警告灯.....	317
システム情報表示.....	73

ストップランプ（制動灯）

緊急ブレーキ信号.....	226
電球（バルブ）の交換.....	301

スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 235

スピードメーター..... 64

スペアタイヤ（応急用タイヤ）..... 326

空気圧.....	283, 353
交換方法.....	326

スペック（車両仕様）..... 350

スマートエントリー&スタートシステム

.....	100
アンテナの位置.....	100

エンジンの始動.....	140
カスタマイズ設定.....	355
緊急始動機能.....	335
警告ブザー.....	100
警告メッセージ.....	100
作動範囲.....	100
節電機能.....	101
電波がおよぼす影響について.....	103
ドアの解錠・施錠.....	81, 97
バックドアの施錠・解錠.....	97
スモールランプ（車幅灯）.....	149
電球（バルブ）の交換.....	301
ランプスイッチ.....	149
スライドドア.....	84
イージークローザー.....	88
ウェルカムパワースライドドア.....	87
操作.....	85
パワースライドドア.....	85
スライドドアステップランプ.....	90

せ

清掃.....	270, 274
アルミホイール.....	271
外装.....	270
シートベルト.....	274
内装.....	274
レーダーセンサー.....	199
制動灯	
緊急ブレーキ信号.....	226
電球（バルブ）の交換.....	301
セカンダリーコリジョンブレーキ	
（SCB）.....	226
積算距離計（オドメーター）.....	66
セキュリティインジケータ.....	55, 56
接近警報（レーダークルーズコントロー	
ル）.....	187
先行車発進告知機能.....	191

センサー

LDA.....	173
雨滴感知センサー.....	157
デジタルインナーミラー.....	121
ライトセンサー.....	150
レーダーセンサー.....	162, 199
洗車.....	270
前照灯（ヘッドランプ）.....	149
オートレベリングシステム.....	151
電球（バルブ）の交換.....	301
ライトセンサー.....	150
ランプ消し忘れ防止機能.....	150
ランプスイッチ.....	149

そ

送信機（タイヤ空気圧警報システム）	
.....	285
速度計（スピードメーター）.....	64

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	
.....	147
電球（バルブ）の交換.....	301, 302
方向指示レバー.....	147
ワット数.....	353
タイヤ.....	283
応急用タイヤ.....	326
空気圧.....	290, 353
交換.....	283, 326
チェーン.....	235
点検.....	283
パンクしたときは.....	326
冬用タイヤ.....	235
ホイールサイズ.....	353
ローテーション（位置交換）.....	284
タイヤが空まわりする（スタックした）	
.....	347

タイヤ空気圧警報システム

ID コードの登録・選択	288
機能について	285
空気圧バルブ/送信機について	286
空気圧表示画面	285
警告灯	320
初期化	286
タイヤチェーン	235
タコメーター (エンジン回転計)	64

ち

チェーン (タイヤチェーン)	235
チャイルドシート	40
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	52
シートベルトでの固定	50
選択方法	40
チャイルドプロテクター	87
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	148
操作	148
パーキングブレーキ表示灯	319
未解除走行時警告ブザー	319
メンテナンスデータ	352

つ

ツール (工具)	326
----------	-----

て

提案サービス機能	72
ディファレンシャル	352
デイルイト	150
手入れ	270, 274
アルミホイール	271
外装	270
シートベルト	274
デジタルインナーミラー	122

内装	274
レーダーセンサー	199
テールランプ (尾灯)	149
電球 (バルブ) の交換	301
ランプスイッチ	149
デジタルインナーミラー	118
デフォッガー (リヤウインドウデフォッ ガー)	241
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	300
ワット数	353
点検基準値 (メンテナンスデータ)	350
電子キー	78
作動範囲	100
正常に働かないとき	337
節電機能	101
電池が切れた	337
電池交換	296
電池交換 (キー)	296

と

ドア	81
オートドアロック・アンロック機能	83
衝撃感知ドアロック解除システム	81
スマートエントリー&スタートシステム	100
スライドドア	84
チャイルドプロテクター	87
ドアガラス	128
ドアロックスイッチ	83
バックドア	96
ロックレバー	83
ワイヤレスリモコン	81
ドアミラー	
BSM (ブラインドスポットモニター)	198
RCTA (リヤクロスストラフィックアラート)	220
格納のしかた	127

操作.....	126
ミラーヒーター.....	241
盗難防止装置	
イモバイザーシステム.....	55
オートアラーム.....	56
読書灯.....	251
時計.....	261
トップテザーアンカレッジ.....	53
Toyota Safety Sense.....	162
LDA (レーンディパーチャーアラート)	
.....	173
PCS (プリクラッシュセーフティ)....	166
RSA (ロードサインアシスト).....	180
オートマチックハイビーム.....	152
先行車発進告知機能.....	191
レーダークルーズコントロール.....	183
ドライブレインフォメーション (マルチイ	
ンフォメーションディスプレイ).....	68
表示項目.....	70
メーター操作スイッチ.....	68
ドライブスタートコントロール.....	133,
144	
トラクションコントロール (TRC).....	226
トランスミッション.....	144
シフトダウン制限警告ブザー.....	146
操作.....	144
メンテナンスデータ.....	352
トリップメーター.....	64
機能.....	64
切りかえ・リセットボタン.....	66

な

内装	
収納装備.....	254
手入れ.....	274
「ナノイ」.....	243

に

ニーエアバッグ.....	32
荷物	
積むときの注意.....	138

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック).....	347
------------------------------	------------

ね

燃費	
給油後平均燃費.....	69
瞬間燃費.....	69
燃費情報.....	68
平均燃費.....	69
燃料.....	350
ガソリンスタンドでの情報.....	388
給油.....	160
種類.....	350
冬季の注意.....	235
燃料残量警告灯.....	319
容量.....	350
燃料計.....	64

は

パーキングサポートブレーキ	
警告灯.....	318
パーキングサポートブレーキ (後方接近	
車両).....	219
パーキングサポートブレーキ (静止物)	
.....	216
パーキングブレーキ	
操作.....	148
冬季の注意.....	236
パーキングブレーキ表示灯.....	319
メンテナンスデータ.....	352
パーソナルランプ.....	251

排気ガス.....	38
排出ガス浄化装置.....	231
排出ガス浄化装置堆積モニター.....	232
ハイビーム（ヘッドランプ）.....	149
オートマチックハイビーム.....	152
電球（バルブ）の交換.....	300
ランプスイッチ.....	149
ハイマウントストップランプ	
電球（バルブ）の交換.....	300
ハザードランプ（非常点滅灯）.....	307
スイッチ.....	307
電球（バルブ）の交換.....	300
ワット数.....	353
挟み込み防止機能	
パワーウィンドウ.....	128
パワーライドドア.....	89
発炎筒.....	307
バックアップランプ（後退灯）	
電球（バルブ）の交換.....	300
バックドア.....	96
イーゾークローザー.....	99
バックドアハンドル.....	98
バッテリーあがりを防ぐために.....	98
バッテリー	
警告灯.....	315
バッテリーがあがった.....	339
バッテリーを交換するときは.....	341
バニティ（化粧用）ミラー.....	261
バニティミラーランプ	
装備について.....	261
ワット数.....	353
バルブ（電球）	
交換要領（外装のバルブ）.....	300
ワット数.....	353
パワーウィンドウ.....	128
ウィンドウロックスイッチ.....	130
閉めることができないときは.....	128
操作.....	128

ドアロック連動ドアガラス開閉機能... ..	129
挟み込み防止機能.....	128
パワーステアリング	
パワーステアリング警告灯.....	316
パワーステアリングフルード.....	352
パワーライドドア	
開け方.....	85
挟み込み防止機能.....	89
パワードアオフスイッチ.....	87
パワーヒーター.....	242
パンクした	
応急用タイヤ装着車.....	326
番号灯（ライセンスプレートランプ）	
.....	149
電球（バルブ）の交換.....	300
ランプスイッチ.....	149
ハンドル（ステアリングホイール）.....	117
位置調整.....	117

ひ

ビークルスタビリティコントロール	
(VSC).....	226
PKSB	
後方接近車両.....	210, 219
静止物.....	210, 216
ヒーター	
シートヒーター.....	248
パワーヒーター.....	242
フロントオートエアコン.....	240
ミラーヒーター.....	241
リヤオートエアコン.....	246
非常点滅灯（ハザードランプ）	
スイッチ.....	307
電球（バルブ）の交換.....	300
ワット数.....	353
尾灯（テールランプ）.....	149
電球（バルブ）の交換.....	300
ランプスイッチ.....	149

ヒューズ.....	298
表示灯.....	62
日よけ (サンバイザー).....	261
ヒルスタートアシストコントロール	226

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方.....	339
フォグランプ	
スイッチ.....	149
電球 (バルブ) の交換.....	300
ブザー	
高水温.....	315
シートベルト非着用警告.....	319, 320
シフトダウン制限警告.....	146
接近警報 (レーダークルーズコントロール).....	187
パーキングブレーキ未解除走行時警告	319
半ドア警告.....	82, 100
半ドア走行時警告.....	83
ブレーキ警告.....	315
窓開警告.....	129
油圧.....	315
リパース警告.....	144
フック	
買い物フック.....	265
けん引フック.....	313
コートフック.....	266
フロアマット固定フック.....	26
フューエルメーター (燃料計).....	64
フューエルリッド (給油口)	
給油のしかた.....	160
冬の前の準備 (寒冷時の運転).....	235
冬用タイヤ.....	235
ブラインドスポットモニター (BSM)	
.....	198
プリクラッシュセーフティ (PCS)	
機能.....	166
設定を変更する.....	168

PCS 警告灯.....	317
ブレーキ	
緊急ブレーキシグナル.....	226
パーキングブレーキ.....	148
ブレーキ警告灯.....	315
メンテナンスデータ.....	352
ブレーキアシスト.....	226
ABS & ブレーキアシスト警告灯.....	316
機能.....	226
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる	
.....	135
ブレーキフルード.....	352
フロアマット.....	26
フロントインテリアランプ.....	251
フロントエアコン.....	240
フロントシート	
シートヒーター.....	248
正しい運転姿勢.....	27
調整.....	104
手入れ.....	274
ヘッドレスト.....	109
フロントドア.....	81
フロントフォグランプ	
スイッチ.....	154
電球 (バルブ) の交換.....	300
フロント方向指示灯.....	147
電球 (バルブ) の交換.....	300
方向指示レバー.....	147
ワット数.....	353

へ

平均車速.....	70
平均燃費.....	68
ヘッドランプ.....	149
クリーナー.....	156
電球 (バルブ) の交換.....	300
ライトセンサー.....	150
ランプ消し忘れ防止機能.....	150

ランプスイッチ.....	149
ヘッドランプオートレベリングシステム	151
ヘッドレスト.....	109

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ).....	326
メンテナンスデータ.....	353
ホイールナットレンチ.....	326
方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換.....	300
方向指示レバー.....	147
ワット数.....	353
ホーン (警音器).....	117
保証.....	8
ボトルホルダー.....	257
ボンネット	
開け方.....	276
警告ブザー.....	83

ま

マルチインフォメーションディスプレイ	67
運転支援機能情報表示.....	70
オーディオ連携.....	70
警告メッセージ.....	322
車両情報表示.....	70
設定.....	71
走行情報表示.....	68
提案サービス.....	72
メーター操作スイッチ.....	68
メニューアイコン.....	67

み

ミラー

デジタルインナーミラー.....	118
ドアミラー.....	126
パニティミラー.....	261
ミラーヒーター.....	241

め

メーター (計器類).....	64
オドメーター/トリップメーター切りかえ スイッチ.....	66
警告灯.....	315
警告メッセージ.....	322
照度調整.....	66
表示灯.....	62
マルチインフォメーションディスプレイ	67
メーター操作スイッチ.....	68
メカニカルキー.....	80
メンテナンスデータ.....	350

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....	355
雪道ですべて動けない (スタックした)	347
油脂類.....	350

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	149
電球 (バルブ) の交換.....	300
ランプスイッチ.....	149
ラジエーター	
オーバーヒート.....	344
メンテナンスデータ.....	351
ランプ	
インテリアランプ.....	250
オートマチックハイビーム.....	152

室内灯	250
ステップランプ	90
電球（バルブ）の交換	300
パーソナルランプ	251
非常点滅灯（ハザードランプ）	307
フロントフォグランプ	154
ヘッドランプ（前照灯）	149
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウィンカー）	147
ライトセンサー	150
ランプ消し忘れ防止機能	150
リヤフォグランプ	154
ワット数	353
ランプ消し忘れ防止機能	150

り

リバース連動機能	159
リヤアームレスト	265
リヤウインドウデフォグガススイッチ	241
リヤエアコン	246
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）	220
リヤシート	105
シートアレンジ	113
リヤシートヒーター	248
リヤ席シートベルト非着用警告灯	320
リヤフォグランプ	
スイッチ	154
電球（バルブ）の交換	300
リヤ方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	300
方向指示レバー	147
ワット数	353

る

ルームミラー（インナーミラー）	118
-----------------	-----

れ

冷却水

水温計	64
冬の前の準備	235

冷却装置（ラジエーター）

オーバーヒート	344
メンテナンスデータ	351

レーダークルーズコントロール

警告メッセージ	189
接近警報	187
レーダー	162

レーンディパーチャーアラート（LDA）

警告メッセージ	173
警告メッセージ	179
操作	177

レバー

シフト	144
方向指示	147
ボンネット解除	276
ロック（ドア）	83

ろ

ロードサインアシスト（RSA）

ロック

ウインドウロック	130
シフトロック	145
スマートエントリー&スタートシステム	100
スライドドア	84
チャイルドプロテクター	87
バックドア	96
フロントドア	81, 83
ワイヤレスリモコン	79

わ

ワイパー&ウォッシャー

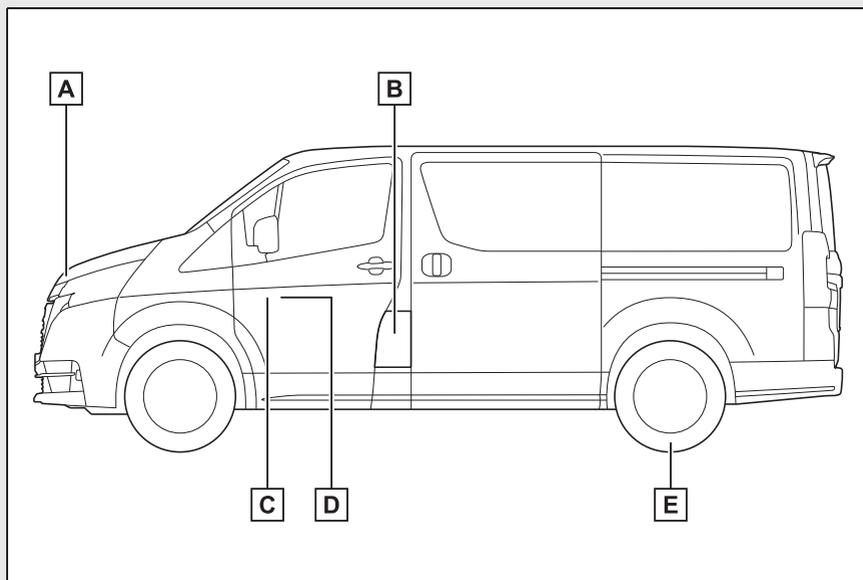
ウォッシャー液の補充	282
フロント	156
リヤ	158
ワイパブレード (寒冷地用)	236
ワイヤレスリモコン	79
作動の合図	81
操作	79
電池の交換	296
半ドア警告ブザー	82
ワックス	270
ワット数	353
輪止め	327

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・パノラミックビューモニター
- ・ハンズフリー
- ・T-Connect

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.276)
- B** 給油口 (→P.160)
- C** ボンネット解除レバー (→P.276)
- D** 給油口オープナー (→P.160)
- E** タイヤ空気圧 (→P.353)

燃料の容量 (参考値)	70L
燃料の種類	P.350
タイヤが冷えているときの空気圧	P.353
エンジンオイル容量 (参考値)	P.350
エンジンオイルの種類	P.350

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

